

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン ミエダイガク 国立大学法人 三重大学								
フリガナ大学の名称	ミエダイガク 三重大学								
大学本部の位置	三重県津市栗真町屋町1577								
大学の目的	本学は広く教養を与え、専門の学芸を教授研究し、科学及び技術の発展に努め、真理と正義を愛する人格を形成するとともに、人類の普遍的かつ地域の諸特性に応じた福祉と文化の進展に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	我が国では、Society5.0具現化の前提となるデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進する高度情報人材が大幅に不足することが予測されており、産業界においても高度情報人材の確保が国際競争で生き残るための重要な要素となっている。このような社会的要請を受け、本学の情報工学の教育を拡充・強化することを目的として、令和7年度の工学部総合工学科情報工学コースの募集人員を1年次30名、3年次5名増員する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次人 3年次	人			年 月 第 年次	
	工学部 (Faculty of Engineering)								三重県津市栗真町屋町1577
	総合工学科 (Department of Engineering)	4	430 (400)	35 (30)	1,790 (1,660)	学士 (工学)	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上
	人文学部 (Faculty of Humanities, Law and Economics)								三重県津市栗真町屋町1577
	文化学科 (Department of Humanities)	4	92	10	388	学士 (人文科学)	文学関係	昭和58年4月 第1年次	同上
	法律経済学科 (Department of Law and Economics)	4	153	20	652	学士 (法律経済)	法学関係 経済学関係	昭和58年4月 第1年次	同上
	教育学部 (Faculty of Education)								三重県津市栗真町屋町1577
	学校教育教員養成課程 (Training Course for School Teacher)	4	200	—	800	学士 (教育学)	教育学・保育学 関係	平成9年4月 第1年次	同上
	医学部 (Faculty of Medicine)								三重県津市江戸橋2丁目174
医学科 (School of Medicine)	6	105	—	630	学士 (医学)	医学関係	令和6年4月 第1年次	同上	
看護学科 (School of Nursing)	4	80	10	340	学士 (看護学)	保健衛生学関係	平成9年4月 第1年次	同上	
生物資源学部 (Faculty of Bioresources)								三重県津市栗真町屋町1577	
生物資源学科 (Department of Bioresources)	4	260	10	1,060	学士 (生物資源学)	農学関係	令和6年4月 第1年次	同上	
計		1,320 (1,290)	85 (80)	5,660 (5,530)					

同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		工学研究科 電気電子工学専攻〔定員減〕(△10) (令和7年4月) 電子情報工学専攻 (10) (令和6年4月事前相談予定)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計					
	—	—科目	—科目	—科目	—科目	—単位				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新	工学部 総合工学科	人	人	人	人	人	人	人		
				39 (39)	42 (42)	2 (2)	15 (15)	98 (98)	0 (0)	50 (50)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	39 (39)	42 (42)	2 (2)	15 (15)	98 (98)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計(a～b)	39 (39)	42 (42)	2 (2)	15 (15)	98 (98)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計(a～d)	39 (39)	42 (42)	2 (2)	15 (15)	98 (98)				
	人文学部 文化学科	20 (20)	15 (15)	5 (5)	0 (0)	40 (40)			0 (0)	34 (34)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	20 (20)	15 (15)	5 (5)	0 (0)	40 (40)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計(a～b)	20 (20)	15 (15)	5 (5)	0 (0)	40 (40)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計(a～d)	20 (20)	15 (15)	5 (5)	0 (0)	40 (40)				
	法律経済学科	16 (16)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	27 (27)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	16 (16)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	24 (24)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計(a～b)	16 (16)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	24 (24)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計(a～d)	16 (16)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	24 (24)				
	教育学部 学校教育教員養成課程	42 (42)	19 (19)	4 (4)	0 (0)	65 (65)			0 (0)	142 (142)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	42 (42)	19 (19)	4 (4)	0 (0)	65 (65)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計(a～b)	42 (42)	19 (19)	4 (4)	0 (0)	65 (65)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計(a～d)	42 (42)	19 (19)	4 (4)	0 (0)	65 (65)				

分	医学部 医学科	52 (52)	18 (18)	21 (21)	61 (61)	152 (152)	0 (0)	179 (179)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 113人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	52 (52)	18 (18)	21 (21)	61 (61)	152 (152)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	52 (52)	18 (18)	21 (21)	61 (61)	152 (152)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計(a～d)	52 (52)	18 (18)	21 (21)	61 (61)	152 (152)			
	看護学科	11 (11)	7 (7)	2 (2)	6 (6)	26 (26)	0 (0)	26 (26)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	7 (7)	2 (2)	6 (6)	26 (26)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	11 (11)	7 (7)	2 (2)	6 (6)	26 (26)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計(a～d)	11 (11)	7 (7)	2 (2)	6 (6)	26 (26)			
	生物資源学部 生物資源学科	32 (32)	40 (40)	0 (0)	13 (13)	85 (85)	0 (0)	53 (53)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 15人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	32 (32)	40 (40)	0 (0)	12 (12)	84 (84)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)			
	小計(a～b)	32 (32)	40 (40)	0 (0)	13 (13)	85 (85)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計(a～d)	32 (32)	40 (40)	0 (0)	13 (13)	85 (85)				
計	212 (212)	148 (148)	35 (35)	95 (95)	490 (490)	0 (0)	511 (511)		
既設	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	小計(a～b)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	計(a～d)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			— (—)
合計	212 (212)	148 (148)	35 (35)	95 (95)	490 (490)	0 (0)	511 (511)		

職 種		専 属	その他	計						
事 務 職 員		288 (288)	540 (540)	828 (828)						
技 術 職 員		883 (883)	693 (693)	1,576 (1,576)						
図 書 館 職 員		5 (5)	0 (0)	5 (5)						
そ の 他 の 職 員		3 (3)	85 (85)	88 (88)						
指 導 補 助 者		0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計		1,179 (1,179)	1,318 (1,318)	2,497 (2,497)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	421,971 m ²	0 m ²	0 m ²	421,971 m ²					
	そ の 他	106,370 m ²	0 m ²	0 m ²	106,370 m ²					
	合 計	528,341 m ²	0 m ²	0 m ²	528,341 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		179,996 m ² (179,996 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	179,996 m ² (179,996 m ²)					
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	591 室	教 員 研 究 室	509 室					
大学全体										
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点			
		冊	冊	種	種					
	大学全体	937,473 [228,638] (937,473 [228,638])	2,839 [139] (2,839 [139])	24,201 [11,763] (24,201 [11,763])	5,848 [5,844] (5,848 [5,844])	4,329 (4,329)	0 (0)			
	計	937,473 [228,638] (937,473 [228,638])	2,839 [139] (2,839 [139])	24,201 [11,763] (24,201 [11,763])	5,848 [5,844] (5,848 [5,844])	4,329 (4,329)	0 (0)			
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂	厚生補導施設		大学全体			
		57,020m ²		4,084m ²	36,906m ²					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等								
		共同研究費等								
		図書購入費								
	設備購入費									
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										

大学等の名称	三重大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	【学部】								
	人文学部	—	245	3年次30	1,040	—	1.05	昭和58年度	三重県津市栗真町屋町1577
	文化学科	4	92	3年次10	388	学士(人文科学)	1.06	昭和58年度	同上
	法律経済学科	4	153	3年次20	652	学士(法律経済)	1.05	昭和58年度	同上
	教育学部	—	200	—	800	—	1.02	昭和41年度	三重県津市栗真町屋町1577
	学校教育教員養成課程	4	200	—	800	学士(教育学)	1.02	平成9年度	同上
	医学部	—	205	3年次10	1,090	—	0.99	昭和47年度	三重県津市江戸橋2丁目174
	医学科	6	125	—	750	学士(医学)	1.02	昭和47年度	同上
	看護学科	4	80	3年次10	340	学士(看護学)	0.93	平成9年度	同上
	工学部	—	400	3年次30	1,660	—	1.03	昭和44年度	三重県津市栗真町屋町1577
	総合工学科	4	400	3年次30	1,660	学士(工学)	1.03	令和元年度	同上
	機械工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成3年度	同上
	電気電子工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成3年度	同上
	分子素材工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成2年度	同上
	建築学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和55年度	同上
	情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成元年度	同上
	物理工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成9年度	同上
	生物資源学部	—	260	3年次10	1,060	—	1.05	昭和62年度	三重県津市栗真町屋町1577
	生物資源学科	4	260	3年次10	260	学士(生物資源学)	—	令和6年度	同上
	資源循環学科	4	—	—	216	学士(生物資源学)	1.06	平成12年度	同上
	共生環境学科	4	—	—	216	学士(生物資源学)	1.06	平成12年度	同上
	生物圏生命化学科	4	—	—	244	学士(生物資源学)	1.05	平成29年度	同上
	海洋生物資源学科	4	—	—	124	学士(生物資源学)	1.02	平成29年度	同上
【大学院】									
人文社会科学研究科(修士課程)	—	—	—	—	—	—	—	三重県津市栗真町屋町1577	
地域文化論専攻	2	8	—	16	修士(人文科学)	1.31	平成4年度	同上	
社会科学専攻	2	7	—	14	修士(社会科学)	0.64	平成4年度	同上	
教育学研究科(修士課程)	—	—	—	—	—	—	—	三重県津市栗真町屋町1577	
教育科学専攻(専門職学位課程)	2	—	—	—	修士(教育学)	—	平成24年度	同上	
教職実践高度化専攻	2	25	—	50	教職修士(専門職)	0.80	令和3年度	同上	

※令和元年度学生募集停止(機械工学科、電気電子工学科、分子素材工学科、建築学科、情報工学科、物理工学科)

※令和6年度学生募集停止(資源循環学科、共生環境学科、生物圏生命化学科、海洋生物資源学科)

令和3年度学生募集停止

医学系研究科 (修士課程)	—	—	—	—	—	—	—	三重県津市江戸橋2丁目174	
医科学専攻 (博士前期課程)	2	12	—	24	修士 (医科学)	0.58	平成13年度	同上	
看護学専攻 (博士課程)	2	11	—	22	修士 (看護学)	1.13	平成14年度	同上	
生命医科学専攻 (博士後期課程)	4	45	—	180	博士 (医学)	1.12	平成15年度	同上	
看護学専攻	3	3	—	9	博士 (看護学)	2.11	平成28年度	同上	
工学研究科 (博士前期課程)	—	—	—	—	—	—	—	三重県津市栗真町屋町1577	
機械工学専攻	2	55	—	55	修士 (工学)	1.16	令和5年度	同上	※令和5年度学生募集停止（機械工学専攻、電気電子工学専攻、分子素材工学専攻、建築学専攻、情報工学専攻、物理工学専攻）
電気電子工学専攻	2	55	—	55	修士 (工学)	1.03	令和5年度	同上	
応用化学専攻	2	56	—	56	修士 (工学)	1.17	令和5年度	同上	
建築学専攻	2	20	—	20	修士 (工学)	1.15	令和5年度	同上	
情報工学専攻	2	30	—	30	修士 (工学)	0.86	令和5年度	同上	
機械工学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	平成7年度	同上	
電気電子工学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	平成7年度	同上	
分子素材工学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	平成7年度	同上	
建築学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	平成7年度	同上	
情報工学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	平成7年度	同上	
物理工学専攻 (博士後期課程)	2	—	—	—	修士 (工学)	—	平成13年度	同上	
材料科学専攻	3	6	—	18	博士 (工学)	1.22	平成7年度	同上	
システム工学専攻	3	10	—	30	博士 (工学)	0.90	平成7年度	同上	
生物資源学研究科 (博士前期課程)	—	—	—	—	—	—	—	三重県津市栗真町屋町1577	
資源循環学専攻	2	23	—	46	修士 (生物資源学)	1.02	平成16年度	同上	
共生環境学専攻	2	26	—	52	修士 (生物資源学)	1.00	平成16年度	同上	
生物圏生命科学専攻 (博士後期課程)	2	39	—	78	修士 (生物資源学)	1.53	平成16年度	同上	
資源循環学専攻	3	4	—	12	博士 (学術)	1.08	平成18年度	同上	
共生環境学専攻	3	4	—	12	博士 (学術)	1.25	平成18年度	同上	
生物圏生命科学専攻	3	4	—	12	博士 (学術)	1.41	平成18年度	同上	
地域イノベーション学研究科 (博士前期課程)	—	—	—	—	—	—	—	三重県津市栗真町屋町1577	
地域イノベーション学専攻 (博士後期課程)	2	15	—	30	修士 (学術)	1.40	平成21年度	同上	
地域イノベーション学専攻	3	6	—	18	修士 (学術)	2.00	平成21年度	同上	

附属施設の概要	<p>名称：教育学部附属小学校 目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を施す。 所在地：三重県津市観音寺町359 設置年月：昭和24年5月設置 規模等：土地 90,987㎡（小・中・特・幼 合わせて） 建物 6,283㎡</p>	
附属施設の概要	<p>名称：教育学部附属中学校 目的：生徒の心身の発達に応じて、中等普通教育を施す。 所在地：三重県津市観音寺町471 設置年月：昭和24年5月設置 規模等：土地 90,987㎡（小・中・特・幼 合わせて） 建物 5,686㎡</p>	
附属施設の概要	<p>名称：教育学部附属特別支援学校 目的：知的障害者に対して小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施す。 所在地：三重県津市観音寺町484 設置年月：昭和24年5月設置 規模等：土地 90,987㎡（小・中・特・幼 合わせて） 建物 3,396㎡</p>	
附属施設の概要	<p>名称：教育学部附属幼稚園 目的：幼児を保育し適当な環境を与えて心身の発達を助長する。 所在地：三重県津市観音寺町523 設置年月：昭和24年5月設置 規模等：土地 90,987㎡（小・中・特・幼 合わせて） 建物 1,038㎡</p>	
附属施設の概要	<p>名称：医学部附属病院 目的：患者の診療を通じ、医学の教育・研究を行う。 所在地：三重県津市江戸橋2丁目174 設置年月：昭和48年10月国立移管 規模等：土地 67,346㎡ 建物 68,247㎡</p>	
附属施設の概要	<p>名称：生物資源学研究科附属練習船勢水丸 目的：海洋科学に関する実験、実習及び研究調査等を行う。 所在地：三重県松阪市大口町字築地1819-18（実習船基地） 設置年月：昭和55年7月竣工（現船：平成21年1月竣工） 規模等：総トン数 319t</p>	
附属施設の概要	<p>名称：生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター 附属施設農場、附属施設演習林、附属施設水産実験所 目的：循環型社会の実現、自然との共生、自然環境の保全、多様な生物資源の持続的利用に関する教育・研究を行う。 所在地：附属施設農場 三重県津市高野尾町2072-2 附属施設演習林 三重県津市美杉町川上2735 附属施設水産実験所 三重県鳥羽市小浜町641-9 設置年月：平成14年4月改組・設置 規模等：附属施設農場 土地 353,179㎡ 建物 7,608㎡ 附属施設演習林 土地 4,569,562㎡ 建物 1,383㎡ 附属施設水産実験所 土地 1,299㎡ 建物 606㎡</p>	

国立大学法人三重大学 設置認可等に関わる組織の移行表

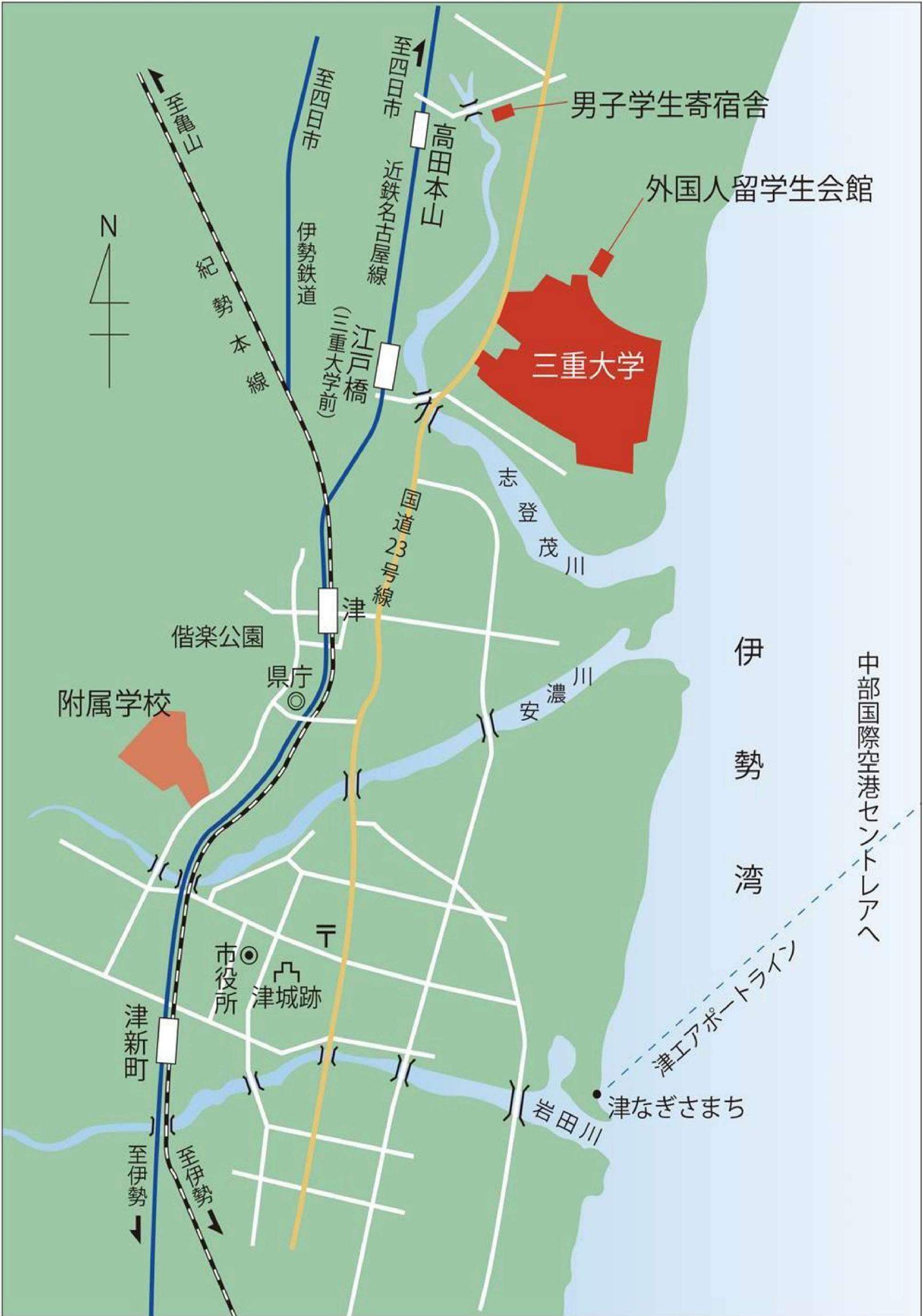
令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
三重大学				三重大学				
人文学部		3年次		人文学部		3年次		
文化学科	92	10	388	文化学科	92	10	388	
法律経済学科	153	20	652	法律経済学科	153	20	652	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	200	—	800	学校教育教員養成課程	200	—	800	
医学部				医学部				
医学科	125	—	650	医学科	105	—	630	臨時定員増終了による定員変更のため
看護学科	80	10	340	看護学科	80	10	340	
工学部				工学部				
総合工学科	400	30	1660	総合工学科	430	35	1790	入学定員変更(30) 編入学定員変更(5)
生物資源学部				生物資源学部				
生物資源学科	260	10	1060	生物資源学科	260	10	1060	
計	1,310	80	5,550	計	1,320	85	5,660	
三重大学大学院				三重大学大学院				
人文社会科学研究科				人文社会科学研究科				
地域文化論専攻(M)	8	—	16	地域文化論専攻(M)	8	—	16	
社会科学専攻(M)	7	—	14	社会科学専攻(M)	7	—	14	
教育学研究科				教育学研究科				
教職実践高度化専攻(P)	25	—	50	教職実践高度化専攻(P)	25	—	50	
医学系研究科				医学系研究科				
医科学専攻(M)	12	—	24	医科学専攻(M)	12	—	24	
看護学専攻(M)	11	—	22	看護学専攻(M)	11	—	22	
看護学専攻(D)	3	—	9	看護学専攻(D)	3	—	9	
生命医科学専攻(D)(4年制)	45	—	180	生命医科学専攻(D)(4年制)	45	—	180	
工学研究科				工学研究科				
機械工学専攻(M)	55	—	110	機械工学専攻(M)	55	—	110	
電気電子工学専攻(M)	55	—	110	電気電子工学専攻(M)	45	—	90	定員変更(△10)
				電子情報工学専攻(M)	10	—	20	専攻の設置(認可または届出)
応用化学専攻(M)	56	—	112	応用化学専攻(M)	56	—	112	
建築学専攻(M)	20	—	40	建築学専攻(M)	20	—	40	
情報工学専攻(M)	30	—	60	情報工学専攻(M)	30	—	60	
材料科学専攻(D)	6	—	18	材料科学専攻(D)	6	—	18	
システム工学専攻(D)	10	—	30	システム工学専攻(D)	10	—	30	
生物資源学研究科				生物資源学研究科				
資源循環学専攻(M)	23	—	46	資源循環学専攻(M)	23	—	46	
共生環境学専攻(M)	26	—	52	共生環境学専攻(M)	26	—	52	
生物圏生命科学専攻(M)	39	—	78	生物圏生命科学専攻(M)	39	—	78	
資源循環学専攻(D)	4	—	12	資源循環学専攻(D)	4	—	12	
共生環境学専攻(D)	4	—	12	共生環境学専攻(D)	4	—	12	
生物圏生命科学専攻(D)	4	—	12	生物圏生命科学専攻(D)	4	—	12	
地域イノベーション学研究科				地域イノベーション学研究科				
地域イノベーション学専攻(M)	15	—	30	地域イノベーション学専攻(M)	15	—	30	
地域イノベーション学専攻(D)	6	—	18	地域イノベーション学専攻(D)	6	—	18	
計	464	—	1,055	計	464	—	1,055	

位置図

三重県内



津市内





津駅から

津駅東口バスのりば「4番」から三重交通バスで、「白塚駅」（06系統）、「三重病院」（51系統）、「椋本（むくもと）」（52系統）、「豊が丘」（52系統）、「サイエンスシティ」（52系統）、「東豊野」（53系統）、「高田高校前」（56系統）行きで、「三重大学前」下車。（附属病院、医学部、工学部へは「大学病院前」下車。）

津駅からタクシーで約10分

江戸橋駅（三重大学前）から

徒歩で約15分（近鉄電車「特急」は停車しません。バス停やタクシー乗り場がないため、基本的に徒歩で大学へお越しいただくことになります。）

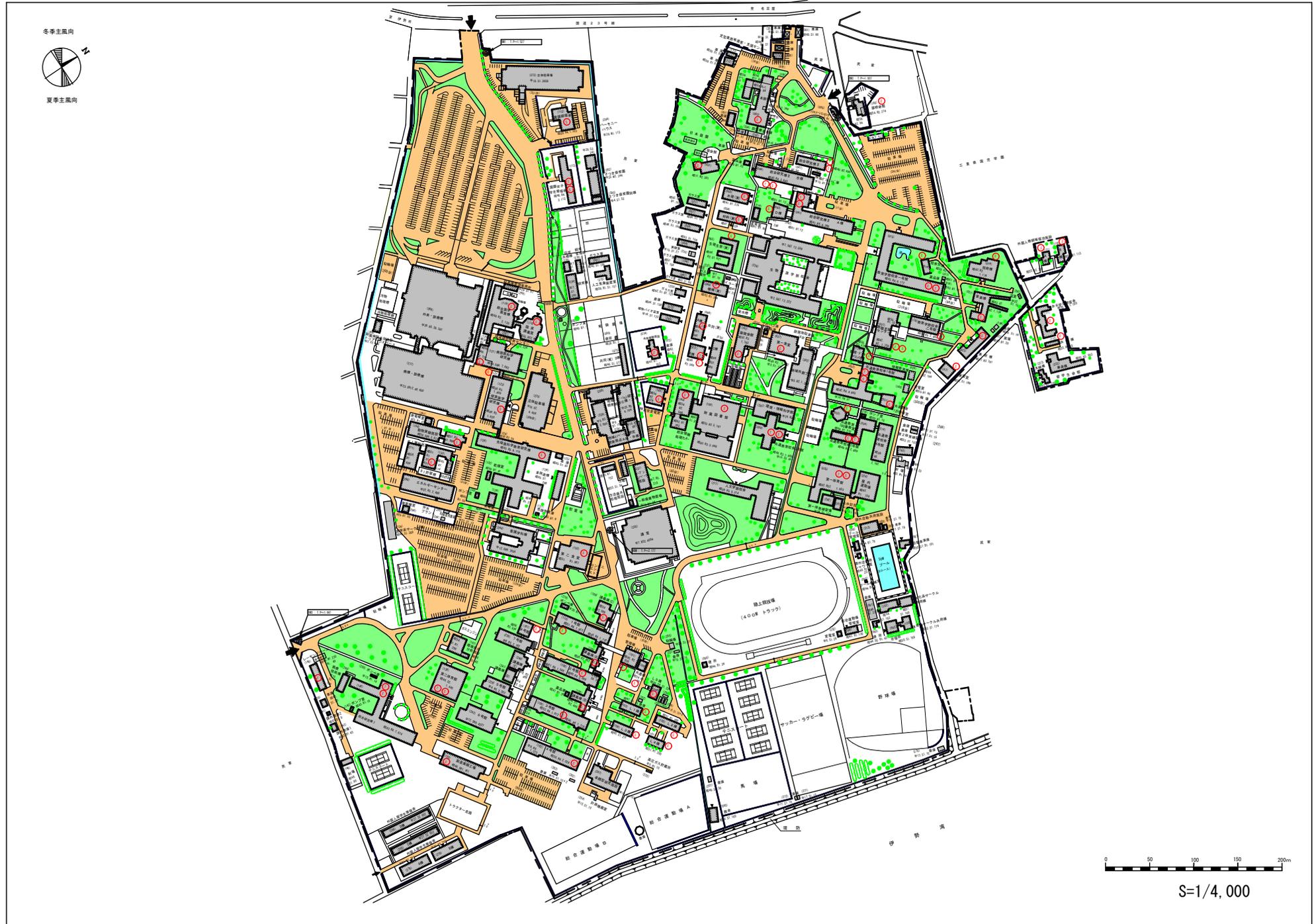
中部国際空港（セントレア）から

津エアポートライン（船）で津なぎさまちへ45分

「津なぎさまち」から三重交通バスで「津駅前」まで約15分

「津なぎさまち」からタクシーで三重大学まで約15分

上浜団地配置図



— 図面 4 —

国立大学法人三重大学学則

目次

- 第1章 総則(第1条・第1条の2)
 - 第2章 大学の構成(第2条―第32条)
 - 第3章 修業年限, 在学期間, 学年, 学期及び休業日(第33条―第38条)
 - 第4章 入学, 休学, 退学, 転学, 除籍及び賞罰(第39条―第58条)
 - 第5章 教育課程及び教育職員免許(第59条―第71条)
 - 第6章 卒業要件及び学位(第72条・第73条)
 - 第7章 授業料等(第74条―第87条)
 - 第8章 専攻生(第88条―第94条)
 - 第9章 科目等履修生(第95条―第101条)
 - 第10章 特別聴講学生(第102条―第104条)
 - 第11章 研究生(第105条―第112条)
 - 第12章 委託生(第113条―第115条)
 - 第13章 公開講座及び市民開放授業(第116条・第116条の2)
 - 第14章 厚生保健(第117条―第120条)
- 附則

第1章 総則

(目的)

第1条 本学は、広く教養を与え、専門の学芸を教授研究し、科学及び技術の発展に努め、真理と正義を愛する人格を形成するとともに、人類の普遍的かつ地域の諸特性に応じた福祉と文化の進展に貢献することを目的とする。

第1条の2 学部, 学科又は課程ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、各学部において、別に定める。

第2章 大学の構成

(学部, 学科, 課程及び収容定員)

第2条 本学に次の学部及び学科又は課程を置く。

人文学部	文化学科 法律経済学科
教育学部	学校教育教員養成課程
医学部	医学科 看護学科
工学部	総合工学科
生物資源学部	資源循環学科 共生環境学科 生物圏生命化学科 海洋生物資源学科

2 前項の各学部には置く学科及び課程の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科・課程	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
人文学部	文化学科	92	10	388
	法律経済学科	153	20	652
教育学部	学校教育教員養成課程	200		800
医学部	医学科	105		630
	看護学科	80	10	340
工学部	総合工学科	430	35	1790
生物資源学部	資源循環学科	70	3	286
	共生環境学科	70	3	286
	生物圏生命化学科	80	2	324
	海洋生物資源学科	40	2	164

備考1 工学部総合工学科において、入学定員430名のうち、情報工学コースの募集人員を95名、電子情報工学コースの募集人員を40名とする。

備考2 工学部総合工学科において、3年次編入学定員35名のうち、情報工学コースの募集人員を5名とする。

3 学科及び課程に、教育・研究上の目的を達成するための教員組織として、講座又は学科目を置く。

4 講座及び学科目に関し必要な事項は、別に定める。

(大学院)

第3条 本学に大学院を置く。

2 大学院に関し必要な事項は、別に定める。

第4条 削除

(機構)

第5条 本学に次の機構を置く。

高等教育デザイン・推進機構

学生総合支援機構

情報教育・研究機構

みえの未来図共創機構

研究基盤推進機構

2 機構に関し必要な事項は、別に定める。

(地域拠点サテライト)

第5条の2 本学に地域拠点サテライトを置く。

2 地域拠点サテライトに関し必要な事項は、別に定める。

(情報ライブラリーセンター)

第6条 情報教育・研究機構に情報ライブラリーセンターを置く。

2 情報ライブラリーセンターに関し必要な事項は、別に定める。

(附属病院)

第7条 医学部に附属病院を置く。

2 附属病院に関し必要な事項は、別に定める。

(学内共同教育研究施設)

第8条 本学に次の学内共同教育研究施設を置く。

リカレント教育センター

国際交流センター

国際環境教育研究センター

2 学内共同教育研究施設に関し必要な事項は、別に定める。

(保健管理センター)

第9条 本学に保健管理センターを置く。

2 保健管理センターに関し必要な事項は、別に定める。

(学部附属の教育研究施設)

第10条 本学に次の学部附属の教育研究施設を置く。

教育学部 教職支援センター

2 学部附属の教育研究施設に関し必要な事項は、別に定める。

(附属学校)

第11条 教育学部に次の附属学校を置く。

附属幼稚園，附属小学校，附属中学校，附属特別支援学校

2 附属学校に関し必要な事項は、別に定める。

第12条 削除

(事務組織)

第13条 本学に事務組織を置く。

2 事務組織に関し必要な事項は、別に定める。

(寄附講座等及び連携講座等)

第14条 学部，学部に置く学科及び課程並びに研究科，研究科に置く専攻その他本学に附属又は学部に附属する組織に，寄附講座及び寄附研究部門(以下「寄附講座等」という。)並びに産学官連携講座及び産学官連携研究部門(以下「連携講座等」という。)を設けることができる。

2 寄附講座等及び連携講座等に関し必要な事項は、別に定める。

(役員及び職員の種類)

第15条 本学の役員及び職員の種類は、次のとおりとする。

(1) 役員

学長

理事

監事

(2) 職員

教授

准教授

講師

助教

助手

校長
園長
教頭
主幹教諭
教諭
養護教諭
栄養教諭
教務職員
事務職員
技術職員
技能職員
医療職員
船員

(副学長)

第 16 条 本学に副学長を置き、本学の理事又は教授をもって充てる。

2 前項の規定にかかわらず、学長が特に必要と認める場合は、理事又は教授以外の者をもって充てることができる。

(学部長等)

第 17 条 各学部に学部長を置き、当該学部(教育学部にあつては、教育学研究科を含む。)の教授をもって充てる。

2 前項の規定にかかわらず、医学部、工学部及び生物資源学部にあつては、当該学部を基礎とする研究科の長をもって充てる。

(副学部長等)

第 18 条 各学部に副学部長を置き、当該学部(教育学部にあつては、教育学研究科を含む。)の教授をもって充てる。

2 前項の規定にかかわらず、医学部、工学部及び生物資源学部にあつては、当該学部を基礎とする研究科の副研究科長をもって充てる。

(学科長等)

第 18 条の 2 各学科に学科長を置き、当該学科の教授をもって充てる。

2 前項の規定にかかわらず、医学部の各学科にあつては、医学系研究科の教授を、工学部の学科にあつては、工学研究科の教授を、生物資源学部の各学科にあつては、生物資源学研究科の教授をもって充てる。

(機構長)

第 18 条の 3 各機構に機構長を置き、本学の理事又は副学長をもって充てる。

(地域拠点サテライト統括者)

第 18 条の 4 地域拠点サテライトに統括者を置き、学長又は理事をもって充てる。

(情報ライブラリーセンター長)

第 19 条 情報ライブラリーセンターにセンター長を置き、本学の理事、副学長又は特命副学長をもって充てる。

(病院長)

第 20 条 附属病院に病院長を置く。

(副病院長)

第 21 条 附属病院に副病院長を置く。

(学内共同教育研究施設の長)

第 22 条 各学内共同教育研究施設に長を置き、本学の理事、副学長、教授又は准教授をもって充てる。

(保健管理センター所長)

第 23 条 保健管理センターに所長を置き、本学の教授又は准教授をもって充てる。

(学部附属の教育研究施設の長)

第 24 条 学部附属の教育研究施設に長を置き、当該学部(教育学部にあつては、教育学研究科を含む。)の教授又は准教授をもって充てる。

第 25 条及び第 26 条 削除

(役員会)

第 27 条 本学に役員会を置く。

2 役員会に関し必要な事項は、別に定める。

(学長選考・監察会議)

第 28 条 本学に学長選考・監察会議を置く。

2 学長選考・監察会議に関し必要な事項は、別に定める。

(経営協議会)

第 29 条 本学に経営協議会を置く。

2 経営協議会に関し必要な事項は、別に定める。

(教育研究評議会)

第 30 条 本学に教育研究評議会を置く。

2 教育研究評議会に関し必要な事項は、別に定める。

(委員会等)

第 31 条 本学に管理運営、教育研究に関する事項を審議する組織として、委員会その他必要な組織(以下「委員会等」という。)を置くことができる。

(教授会)

第 32 条 各学部に教授会を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

第 3 章 修業年限、在学期間、学年、学期及び休業日

(修業年限)

第 33 条 学部の修業年限は、4 年とする。ただし、医学部医学科の修業年限は、6 年とする。

(在学期間の限度)

第 34 条 在学期間は、修業年限の 2 倍の年数を越えることができない。

2 前項の規定にかかわらず、第 46 条第 1 項から第 3 項までの規定により入学した者及び第 47 条第 1 項の規定により入学を許可された者(以下「編入学者等」とい

う。)は、それぞれ第46条第5項及び第47条第3項の規定により定められた在学すべき年数の2倍の年数を超えて在学することはできない。

(長期にわたる教育課程の履修)

第35条 学生が、職業を有している等の事情により、第33条に規定する修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し卒業する旨を申し出たときは、その計画的な履修(以下「長期履修」という。)を認めることができる。

2 長期履修の期間は、入学時から通算して8年以内とする。

3 長期履修の在学期間は、入学時から通算して12年を超えることができない。

4 長期履修に関し必要な事項は、別に定める。

(学年)

第36条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第37条 学年を分けて、次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第38条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日、土曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日

春季休業 4月1日から4月10日まで

夏季休業 8月1日から9月30日まで

冬季休業 12月21日から翌年1月10日まで

2 学長は、必要により前項の休業日を変更し、又は休業日の期間中においても授業、実験、実習を課することがある。

3 臨時休業日は、学長がその都度定める。

第4章 入学、休学、退学、転学、除籍及び賞罰

(入学の時期)

第39条 学生の入学時期は、学年の始めとする。ただし、学年の途中においても、学期の区分に従い、学生を入学させることができる。

(入学資格)

第40条 本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外により、これに相当する学校教育を修了した者

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (6) 文部科学大臣の指定した者
 - (7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号。以下「旧規程」という。)による大学入学資格検定(以下「旧検定」という。)に合格した者を含む。)
 - (8) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
 - (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの
- 2 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する者であって、特に優れた資質を有すると認めるものを、入学させることができる。
- (1) 高等学校に2年以上在学した者
 - (2) 中等教育学校の後期課程、高等専門学校又は特別支援学校(学校教育法等の一部を改正する法律(平成18年法律第80号)第1条の規定による改正前の学校教育法第1条に規定する盲学校、聾学校又は養護学校を含む。)の高等部に2年以上在学した者
 - (3) 外国において、学校教育における9年の課程に引き続く学校教育の課程に2年以上在学した者
 - (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設(高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。)の当該課程に2年以上在学した者
 - (5) 前項第5号の規定により文部科学大臣が別に指定する専修学校の高等課程に同号に規定する文部科学大臣が定める日以後において2年以上在学した者
 - (6) 文部科学大臣が指定した者
 - (7) 高等学校卒業程度認定試験規則第4条に定める試験科目の全部(試験の免除を受けた試験科目を除く。)について合格点を得た者(旧規程第4条に規定する受検科目の全部(旧検定の一部免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。)について合格点を得た者を含む。)で、17歳に達したもの
- (入学志願手続)

第41条 入学を志願する者は、入学願書に検定料並びに別に指定する書類を添えて提出しなければならない。

(入学者の選考)

第42条 入学志願者については、選考の上、当該学部教授会の議を経て、学長が合格者を決定する。

2 入学者の選考に関しては、別に定める。

(入学手続)

第 43 条 前条の選考に合格した者は、所定の期日までに、誓約書その他指定の書類を提出するとともに、入学料を納付しなければならない。

(入学許可)

第 44 条 学長は、前条の入学手続を終えた者に対し、入学を許可する。

2 第 86 条により入学料の免除又は徴収猶予を願い出た者の入学料に関しては、その免除願又は徴収猶予願の受理をもって入学手続を終えた者とみなし、入学を許可する。

(既納料の返還)

第 45 条 既納の検定料及び入学料は、返還しない。

2 前項の規定にかかわらず、第 41 条の規定に基づいて検定料を納付した者のうち、2 段階選抜における第 1 段階選抜で不合格となった者及び個別学力検査の出願受付後に大学入学共通テスト受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者に対しては、検定料のうち別表第 1 に定める額を返還する。ただし、第 1 段階選抜において、出願書類のほかに学力検査等を実施する場合を除く。

3 学校推薦型選抜、総合型選抜、帰国生徒の特別選抜、社会人の特別選抜及び第 2 次募集の各選抜において、2 段階選抜を行った場合は、前項の規定を準用する。

4 前 2 項に規定するもののほか、大規模な風水害等の災害を受ける等やむを得ない事情があると学長が特に認めた場合は、既納の検定料相当額を返還することができる。

(3 年次編入学)

第 46 条 人文学部、工学部及び生物資源学部の 3 年次に編入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 大学を卒業した者又は学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者

(2) 学校教育法施行規則(昭和 22 年文部省令第 11 号)附則第 7 条の規定による者

(3) 大学の 2 年課程修了者及び短期大学卒業生

(4) 外国の短期大学を卒業した者及び外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者(学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。)

(5) 高等専門学校、国立養護教諭養成所及び国立工業教員養成所のいずれかを卒業した者

(6) 学校教育法第 132 条の規定による専修学校の専門課程を修了した者

(7) 大学に 2 年以上在学し、所定の単位を修得した者

(8) 学校教育法第 58 条の 2 の規定による高等学校の専攻科の課程を修了した者

2 人文学部及び工学部の 3 年次に編入学することのできる者は、前項各号のいずれかに該当する者のほか、別に定める者とする。

- 3 医学部看護学科の3年次に編入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
 - (1) 短期大学の看護に関する学科を卒業した者
 - (2) 学校教育法第132条の規定による専修学校の専門課程のうち看護に関する課程を修了した者
 - (3) 学校教育法第58条の2の規定による高等学校の専攻科の課程のうち看護に関する課程を修了した者
 - 4 編入学した者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱いについては、当該学部教授会の議を経て学部長が決定する。
 - 5 編入学した者の在学すべき年数は、2年とする。
(再入学，転入学，編入学及び転学部)
- 第47条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者につき欠員のある場合、入学又は転学部(以下「入学等」という。)を許可することがある。
- (1) 本学を退学した者又は除籍された者で同一学部に再入学を志願するもの
 - (2) 他大学の学生で当該学部長又は学長の承認を得て本学に転入学を志願する者
 - (3) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程に在学する者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)で本学に転入学を志願するもの
 - (4) 大学を卒業した者又は学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者で本学に編入学を志願するもの
 - (5) 学校教育法施行規則附則第7条の規定により、本学に編入学を志願する者
 - (6) 大学の2年課程修了者及び短期大学卒業者に於て本学に編入学を志願する者
 - (7) 高等専門学校、国立養護教諭養成所及び国立工業教員養成所のいずれかを卒業した者で本学に編入学を志願するもの
 - (8) 学校教育法第132条の規定による専修学校の専門課程を修了した者で本学に編入学を志願するもの
 - (9) 外国の短期大学を卒業した者及び外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)で本学に編入学を志願するもの
 - (10) 学校教育法第58条の2の規定による高等学校の専攻科の課程を修了した者で本学に編入学を志願するもの
 - (11) 本学の学生で、転学部を志願する者
- 2 前項の規定により入学等を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱いについては、当該学部教授会の議を経て学部長が決定する。
 - 3 第1項の規定により入学等を許可された者の在学すべき年数については、当該学部教授会の議を経て学長が決定する。

第 48 条 前 2 条の規定による入学志願者については、第 41 条から第 45 条までの規定を適用する。

(留学)

第 49 条 学生が、外国の大学(専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。)又は外国の短期大学に留学を志願する場合は、学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

2 前項の場合、学長は、当該学部教授会の議を経てこれを許可する。

3 留学した期間は、第 33 条の修業年限に含まれるものとする。

(休学)

第 50 条 疾病又はその他の理由により 3 月以上修学することができない者は、休学願により、学長に願い出なければならない。この場合において、休学の理由が疾病であるときは、医師の診断書を添えるものとする。

2 前項の場合、学長は、当該学部教授会の議を経てこれを許可する。

3 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は、当該学部教授会の議を経て、休学を命ずることができる。

(休学期間)

第 51 条 休学期間は、1 年以内とする。ただし、相当の理由がある場合は、引き続き休学することができる。

2 休学期間は、通算して修業年限(編入学者等にあつては、在学すべき年数とする。以下同じ。)の年数を超えることができない。ただし、特別の理由があり、学生の修学に支障がある場合は、この限りでない。

3 休学期間は、在学期間の年数に算入しない。

(復学)

第 52 条 休学期間が満了する場合又は休学期間中にその理由が消滅した場合は、復学願により、学長に願い出なければならない。この場合において、休学の理由が疾病であったときは、医師の診断書を添えるものとする。

2 前項の場合、学長は、当該学部教授会の議を経てこれを許可する。

(退学)

第 53 条 退学しようとする者は、退学願により、学長に願い出なければならない。

2 前項の場合、学長は、当該学部教授会の議を経てこれを許可する。

(転学)

第 54 条 学生が、転学しようとするときは、事由を詳記して学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

2 前項の場合、学長は、当該学部教授会の議を経てこれを許可する。

(除籍)

第 55 条 学生が、次の各号のいずれかに該当する場合、学長は、当該学部教授会の議を経て除籍する。

(1) 長期間にわたり行方不明のとき。

(2) 第 34 条の規定に定める在学期間の限度を超えたとき。

- (3) 第 51 条の規定に定める休学期間を超えてなお復学できないとき。
- (4) 入学料の免除又は徴収猶予を願い出て、免除又は徴収猶予が不許可になった者又は一部の免除を許可された者で所定の期日までに、納付すべき入学料を納付しないとき。
- (5) 授業料の納付を怠り督促を受けてもなお納付しないとき。

(表彰)

第 56 条 学生にして学業又はその行為が他の模範とするに足ると認められた者があるときは、学長は、当該学部教授会又は委員会等の議を経てこれを表彰することができる。

(懲戒)

第 57 条 学生が、本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をしたときは、学長は、当該学部教授会の議を経てこれを懲戒する。

2 懲戒は、戒告、停学及び放學とする。ただし、放學は、次の各号のいずれかに該当する場合に限り命ずることがある。

- (1) 学業を怠り成業の見込みのないとき。
- (2) 性行不良で改善の見込みがないと認められたとき。
- (3) 正当な理由なく出席常でないとき。
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反したとき。

(停学期間の取扱い)

第 58 条 停学期間が 2 か月以上に及ぶとき、その期間は、修業年限の年数に算入しない。

2 停学期間は、在学期間の年数に算入する。

第 5 章 教育課程及び教育職員免許

(教育課程の編成方針)

第 59 条 本学は、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づき、必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 教育課程の編成に当たっては、本学は、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮する。

(特別の課程の編成)

第 59 条の 2 本学は、前条に規定するもののほか、学校教育法第 105 条の規定に基づき、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成することができる。

2 前項の特別の課程の編成に関し必要な事項は、別に定める。

(授業科目)

第 59 条の 3 授業科目は、共通教育科目及び専門教育科目とする。

(授業科目等の特例)

第 60 条 外国人留学生(大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学した外国人留学生をいう。以下同じ。)の教育について必要があると認めるときは、

前条に規定するもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を開設することができる。

第 61 条 外国人留学生以外の学生で外国において相当の期間中等教育(中学校又は高等学校に対応する学校における教育をいう。)を受けたものの教育について必要があると認めるときは、前条の規定を準用する。

(単位の計算方法)

第 62 条 授業科目の単位の計算方法は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、第 64 条第 1 項に規定する授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によって計算する。

(1) 講義及び演習については、おおむね 15 時間から 30 時間までの範囲で、学部等が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、おおむね 30 時間から 45 時間までの範囲で、学部等が定める時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、学部等が定める時間の授業をもって 1 単位とすることができる。

(3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち 2 以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前 2 号に規定する基準を考慮して学部等が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(単位の授与)

第 63 条 授業科目を履修した学生に対しては、試験その他の学部等が定める適切な方法により学修の成果を評価し、合格した者に単位を与える。

(授業の方法)

第 64 条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第 1 項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(履修方法)

第 65 条 学部の授業科目、単位数、履修方法(履修科目登録単位数の上限設定を含む。)及び考査に関することは、学部規程でこれを定める。

2 前項に規定するもののほか、共通教育科目に関し必要な事項は、別に定める。

(他学部の授業科目の履修)

第 66 条 他学部の授業科目を履修しようとする者は、所属学部長を経て当該学部長の許可を受けなければならない。

(他の大学(専門職大学を含む。)又は短期大学における授業科目の履修等)

第 67 条 教育上有益と認めるときは、学生が別に定めるところにより他の大学(専門職大学を含む。以下同じ。)又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、学部教授会の議を経て 60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が、第 49 条の規定により留学する場合、外国の大学又は外国の短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は外国の短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 68 条 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、学部教授会の議を経て本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第 1 項及び第 2 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(休学期間中の外国の大学等における修得単位の取扱い)

第 68 条の 2 教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学又は外国の短期大学において修得した単位について、第 67 条第 1 項の規定を準用する。

2 前項により修得したものとみなすことのできる単位数は、第 67 条第 1 項及び第 2 項並びに前条第 1 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 69 条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学(専門職大学を含む。)又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和 31 年文部省令第 28 号)第 31 条第 1 項に規定する科目等履修生及び同条第 2 項に規定する特別の課程履修生(いずれも本学の学生以外の者に限る。))として修得した単位を含む。)を、学部教授会の議を経て本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、第 67 条第 2 項の場合に準用する。

3 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った第 68 条第 1 項に規定する学修を、学部教授会の議を経て本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

4 前 3 項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、第 46 条第 4 項及び第 47 条第 2 項に規定する場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 67 条第 1 項及び第 2 項並びに第 68 条第 1 項並びに前

条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前に一定の単位を修得した者の修業年限の通算)

第70条 学校教育法第88条に規定する修業年限の通算は、第59条の2に基づき編成された特別の課程の履修生又は第95条に規定する科目等履修生(いずれも本学の学生以外の者に限る。)として本学において一定の単位を修得した者に対し、前条第1項の規定により本学に入学した後に修得したものとみなすことのできる当該単位数、その修得に要した期間その他本学が必要と認める事項を勘案し、学部教授会の議を経て学長が決定する。

(成績評価基準等の明示等)

第70条の2 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第70条の3 本学は、学生に対する教育の充実を図るため、授業の内容及び方法を改善するための組織的な研修及び研究を行うものとする。

(教育職員の免許)

第71条 教員の免許状を受けるための所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本学の学部の学科又は課程において、教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科又は特別支援教育領域は、別表第2のとおりとする。

第6章 卒業要件及び学位

(卒業要件)

第72条 卒業要件は、第33条に規定する修業年限を満たし、学部規程で定める授業科目を履修し、所定の単位数を修得するものとする。ただし、本学(医学部医学科を除く。)に3年以上在学し、学校教育法第89条に規定する場合には、その卒業を認めることができる。

2 前項の規定により卒業要件として修得すべき単位数のうち、第64条第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。ただし、124単位を超える単位数を卒業要件としている場合は、同条第1項の授業の方法により64単位以上の修得がなされていれば、60単位を超えることができる。

(学位)

第73条 卒業した者には、学士の学位を授与する。

2 学位について必要な事項は、本学学位規則の定めるところによる。

第7章 授業料等

(授業料、入学料及び検定料の額)

第74条 授業料、入学料及び検定料の額は、別表第3に定めるところによる。

(授業料の徴収方法)

第75条 授業料は、年額の2分の1ずつを次の2期に分けて納付しなければならない。

前期(4月から9月まで) 納期 4月中

後期(10月から翌年3月まで) 納期 10月中

2 前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。

3 入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、第1項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。

4 特別の理由のある者は、本人の願い出により、許可を得て、月割分納をすることができる。ただし、月割分納額は、年額の12分の1ずつを毎月5日までに納付しなければならない。

(長期履修を認められた者の授業料)

第76条 長期履修を認められた者の授業料の額及び徴収方法は、別に定めるところによる。

(転入学者等の授業料)

第77条 転入学、編入学及び再入学した者の授業料の額は、その者が転入学、編入学及び再入学した当該年次の在学者の額と同額とする。

(退学者等の授業料)

第78条 退学、除籍又は放学的場合は、その者の在学していた期までの授業料を納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず第55条第5号の規定により除籍された者の未納の授業料は、これを免除する。

(休学者の授業料)

第79条 授業料納期限以前に休学を許可された者及び授業料の徴収猶予又は月割分納を許可された休学者については、月割計算により、休学許可当月の翌月から復学当月の前月までの授業料を免除する。

2 前項の規定に定める者以外の休学者は、その期の授業料を全額納入しなければならない。

(停学者の授業料)

第80条 停学を命ぜられた者については、その期間中の授業料は、これを納入しなければならない。

(授業料の免除及び徴収猶予)

第81条 学資の支弁が極めて困難と認められる学生に対しては、当該学年の授業料の全部又は一部を免除し、又は各学期末まで徴収を猶予することがある。

第 82 条 前条の規定により、授業料の免除又は納入猶予を受けようとする者は、事由を詳記した願書を当該学部長を経て学長に提出しなければならない。

第 83 条 授業料を免除された者で、その事由が止んだときは、翌月から月割でこれを納入しなければならない。

第 84 条 授業料を指定の日までに納入しないときは、これを催告し、なお、納入を怠る場合は、出席を停止する。

第 85 条 第 81 条から前条までに定めるもののほか、授業料の免除及び徴収猶予に関し必要な事項は、別に定める。

(授業料の不徴収)

第 85 条の 2 第 74 条から第 80 条までの規定にかかわらず、学長が特に必要と認めた場合は、授業料を徴収しない。

(入学料の免除及び徴収猶予)

第 86 条 特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる者等に対しては、入学料の全部又は一部を免除し、又は徴収を猶予することがある。

2 入学料の免除及び徴収猶予に関し必要な事項は、別に定める。

(検定料の免除)

第 86 条の 2 大規模な風水害等の災害を受ける等やむを得ない事情があると学長が特に認めた場合は、検定料を免除することができる。

(既納料の返還)

第 87 条 既納の授業料は、返還しない。ただし、前期に係る授業料を徴収するときに、後期に係る授業料を併せて納付した者が、後期に係る授業料徴収時期前に休学又は退学した場合には、納付した者の申出により後期に係る授業料相当額を返還する。

2 前項本文の規定にかかわらず、第 75 条第 3 項により徴収した授業料については、納付した者が入学年度の前年度の 3 月 31 日までに入学を辞退した場合は、納付した者の申出により当該授業料相当額を返還する。

3 第 1 項本文の規定にかかわらず、第 75 条第 1 項又は第 2 項により授業料を納付した者が、その後授業料納期限以前に休学を許可された場合は、納付した者の申出により第 79 条第 1 項の規定による当該授業料相当額を返還する。

4 第 1 項本文の規定にかかわらず、第 75 条第 3 項により徴収した授業料については、納付した者が入学年度の 4 月 1 日から休学を許可された場合は、納付した者の申出により月割計算により休学当月から復学当月の前月までの当該授業料相当額を返還する。

5 第 1 項本文の規定にかかわらず、第 1 項ただし書き及び前 3 項に規定するもののほか、学長が特に必要と認めた場合は、既納の授業料相当額を返還する。

第 8 章 専攻生

(入学許可)

第 88 条 学部の専門科目につき精深な程度において履修しようとする者があるときは、学長は、関係学部教授会の議を経た上、所定の手続を終えた者に対し、専攻生として入学を許可する。

(入学期、修業年限)

第 89 条 専攻生の入学期は、学年の始めとし、その修業年限は、1 年以上とする。

(入学資格)

第 90 条 専攻生として入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 学校教育法施行規則第 155 条により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(検定料、入学料及び授業料)

第 91 条 専攻生の検定料、入学料及び授業料の額は、別表第 3 に定めるところによる。

2 授業料は、在学予定期間に応じ、3 か月分又は 6 か月分を当該期間における当初の月に納入するものとし、在学予定期間が 3 か月又は 6 か月未満であるときは、その期間分に相当する額を当該期間における当初の月に納入しなければならない。

(研究費の負担)

第 92 条 研究に要する費用は、専攻生の負担とすることがある。

(証明書の交付)

第 93 条 専攻生が、専攻科目につき証明を希望したときは、専攻証明書を交付する。

(準用規定)

第 94 条 本章に定めるものの外、第 4 章及び第 87 条の規定は、専攻生にもこれを準用する。

第 9 章 科目等履修生

(入学許可)

第 95 条 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目を履修しようとする者があるときは、学長は、関係学部教授会の議を経て科目等履修生として入学を許可することがある。

(入学期)

第 96 条 科目等履修生の入学期は、毎学期の始めとする。ただし、特別の事情がある場合は、この限りでない。

(入学資格等)

第 97 条 科目等履修生の入学資格及び入学志願手続等については、別に定める。

第 98 条 削除

(検定料、入学料及び授業料)

第 99 条 科目等履修生の検定料、入学料及び授業料の額は、別表第 3 に定めるところによる。

(単位の授与、証明書の交付)

第 100 条 科目等履修生に対しては、第 63 条の規定を準用し、単位を与える。

2 前項の規定により授与された単位について、科目等履修生が証明を希望したときは、単位修得証明書を交付する。

(準用規定)

第 101 条 本章に定めるものの外、第 4 章、第 5 章及び第 87 条の規定は、科目等履修生にもこれを準用する。

第 10 章 特別聴講学生

(入学許可)

第 102 条 他の大学、短期大学若しくは高等専門学校又は外国の大学若しくは外国の短期大学（以下この条において「他大学等」という。）の学生で、本学の授業科目を履修することを志願する者があるときは、他大学等との協議に基づき、学長は、関係学部教授会の議を経て特別聴講学生として入学を許可することがある。

(検定料、入学料及び授業料)

第 103 条 特別聴講学生の検定料及び入学料は、徴収しない。

2 特別聴講学生の授業料については、第 99 条の規定を準用する。ただし、特別聴講学生が他の国立大学法人が設置する大学、大学間相互単位互換協定に基づき締結された公立若しくは私立の大学若しくは短期大学又は単位互換協定に基づき締結された高等専門学校の学生であるときは、これを徴収しないことができる。

3 前項に定めるもののほか、特別聴講学生が本学研究科附属の教育研究施設を利用する授業科目を履修する場合は、授業料を徴収しないことができる。

4 特別聴講学生が外国の大学又は外国の短期大学との大学間交流協定(部局等間交流協定を含む。)に基づき受け入れる外国人留学生である場合、その授業料の額は、当該大学間交流協定の定めるところによる。

(準用規定)

第 104 条 本章に定めるものの外、第 97 条、第 100 条及び第 101 条の規定は、特別聴講学生にもこれを準用する。

第 11 章 研究生

(入学許可)

第 105 条 学部において特殊事項について研究しようとする者があるときは、学長は、関係学部教授会の議を経て研究生として入学を許可することがある。

(入学期)

第 106 条 研究生の入学期は、毎学期の始めとする。ただし、特別の事情がある者は、この限りでない。

(入学資格)

第 107 条 研究生の入学資格その他に関しては、学部においてこれを定める。

(入学志願手続)

第 108 条 研究生として入学を志願する者は、入学願書に研究事項及び期間を記載し、履歴書及び検定料を添え、本学に提出しなければならない。

(検定料、入学料及び授業料)

第 109 条 研究生の検定料，入学料及び授業料の額は，別表第 3 に定めるところによる。

2 授業料は，在学予定期間に応じ，3 か月分又は 6 か月分を当該期間における当初の月に納入するものとし，在学予定期間が 3 か月又は 6 か月未満であるときは，その期間分に相当する額を当該期間における当初の月に納入しなければならない。
(研究費の負担)

第 110 条 研究に要する費用は，研究生の負担とする。
(証明書の交付)

第 111 条 研究生が研究事項につき，証明を希望したときは，研究証明書を交付する。
(準用規定)

第 112 条 本章に定めるものの外，第 4 章及び第 87 条の規定は，研究生にもこれを準用する。

第 12 章 委託生

(入学許可)

第 113 条 官庁又は公共団体から，履修科目又は研究事項を定め願い出る者があるときは，学長は，関係学部教授会の議を経て委託生として入学を許可することがある。

(証明書の交付)

第 114 条 委託生が，履修した科目又は研究事項につき，証明を希望したときは，証明書を交付する。
(準用規定)

第 115 条 本章に定めるものの外，第 4 章，第 5 章，第 87 条，第 99 条，第 100 条，第 108 条，第 109 条及び第 110 条の規定は，委託生にもこれを準用する。

第 13 章 公開講座及び市民開放授業

(公開講座)

第 116 条 本学は，必要に応じ，公開講座を行うことがある。

2 公開講座に関する事項は，別に定める。

(市民開放授業)

第 116 条の 2 本学は，市民開放授業を行うことがある。

2 市民開放授業に関する事項は，別に定める。

第 14 章 厚生保健

(寄宿舍)

第 117 条 本学に寄宿舍を置き，学生の希望者を入舎させる。

2 寄宿舍に関する規程は，別に定める。

(厚生保健施設)

第 118 条 本学に厚生保健に関する施設を置き，学生に利用させる。

(健康診断)

第 119 条 学生は，毎年 1 回所定の健康診断を受けなければならない。

- 2 学長は、学生の健康を管理し、必要に応じ、治療を命じ、又は登校を停止することがある。

(施設の利用)

第 120 条 学生は、本学の施設を利用しようとするときは、その許可を受けなければならない。

附 則

- 1 この学則は、平成 16 年 4 月 16 日から施行し、平成 16 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 平成 15 年度以前の入学者は、第 2 条及び第 71 条の規定については、なお従前の例による。
- 3 平成 10 年度以前の入学者の授業料については、別表第 3 の規定にかかわらず、次の表により読み替えるものとする。

平成 5 年度・6 年度入学生	平成 7 年度・8 年度入学生	平成 9 年度・10 年度入学生
年額 411,600 円	年額 447,600 円	年額 469,200 円

附 則(平成 17 年 1 月 20 日学則)

この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 17 年 2 月 24 日学則)

この学則は、平成 17 年 2 月 24 日から施行し、平成 16 年 10 月 1 日から適用する。

附 則(平成 17 年 2 月 24 日学則)

この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 17 年 3 月 24 日学則)

この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 17 年 3 月 29 日学則)

この学則は、平成 17 年 3 月 31 日から施行し、平成 17 年度授業料から適用する。

附 則(平成 17 年 5 月 12 日学則)

この学則は、平成 17 年 5 月 12 日から施行する。

附 則(平成 17 年 9 月 29 日学則)

この学則は、平成 17 年 10 月 1 日から施行する。

附 則(平成 17 年 12 月 22 日学則)

この学則は、平成 17 年 12 月 22 日から施行し、平成 17 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 18 年 3 月 23 日学則)

- 1 この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

- 2 改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず、教育学部学校教育教員養成課程、情報教育課程及び生涯教育課程の収容定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成18年度	平成19年度	平成20年度
教育学部	学校教育教員養成課程	445	490	535
	情報教育課程	200	160	120
	生涯教育課程	75	70	65

附 則(平成18年5月25日学則)

この学則は、平成18年5月25日から施行する。

附 則(平成18年9月28日学則)

この学則は、平成18年9月28日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則(平成18年11月24日学則)

この学則は、平成18年11月24日から施行する。ただし、第97条及び第98条の改正規定は平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月29日学則)

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年12月27日学則)

この学則は、平成19年12月27日から施行し、平成19年12月26日から適用する。

附 則(平成20年3月27日学則)

- この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- この学則施行前の人文学部社会科学科(以下「従前の学科」という。)は、改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず、平成20年3月31日に従前の学科に在学する者(平成20年度及び平成21年度に当該学科に編入学する者を含む。)が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず、平成20年度及び平成21年度における人文学部法律経済学科(以下「法律経済学科」という。)への3年次編入学については、従前の学科に編入学するものとし、法律経済学科及び医学部医学科の収容定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
人文学部	法律経済学科	165	330	515	—	—
医学部	医学科	610	620	630	640	650

- 平成19年度以前の入学者については、改正後の学則第46条第5項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成 21 年 3 月 30 日学則)

- 1 この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、医学部医学科の収容定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
医学部	医学科	630	650	670	690	710

附 則(平成 22 年 2 月 25 日学則)

- 1 この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、医学部医学科の収容定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
医学部	医学科	655	680	705	730	745

- 3 平成 22 年 3 月 31 日に人文学部法律経済学科及び工学部に在学する者(以下「在学者」という。)並びに平成 22 年 4 月 1 日以降に在学者の属する年次に編入学等する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は、改正後の学則別表第 2 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成 23 年 2 月 24 日学則)

- 1 この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 23 年 3 月 31 日に教育学部に在学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は、改正後の学則別表第 2 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成 23 年 12 月 22 日学則)

この学則は、平成 24 年 1 月 1 日から施行する。

附 則(平成 24 年 2 月 23 日学則)

- 1 この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 24 年 3 月 31 日に教育学部に在学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は、改正後の学則別表第 2 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成 24 年 9 月 27 日学則)

この学則は、平成 24 年 9 月 27 日から施行する。

附 則(平成 25 年 2 月 28 日学則)

この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 26 年 3 月 27 日学則)

- 1 この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

- 2 この学則施行前の教育学部情報教育課程及び生涯教育課程（以下「従前の課程」という。）は、改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず、平成26年3月31日に従前の課程に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず、教育学部学校教育教員養成課程の収容定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成26年度	平成27年度	平成28年度
教育学部	学校教育教員養成課程	615	650	685

- 4 この学則施行前の特別支援教育特別専攻科（以下「従前の専攻科」という。）は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず、平成26年3月31日に従前の専攻科に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 5 平成26年3月31日に従前の課程に在学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は、改正後の学則別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成26年9月30日学則第1号)

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成26年度以前の入学者に係る授業科目は、改正後の学則第59条の3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成27年2月26日学則第1号)

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず、生物資源学部資源循環学科、共生環境学科及び生物圏生命科学科の収容定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成27年度	平成28年度	平成29年度
生物資源学部	資源循環学科	250	260	270
	共生環境学科	325	310	295
	生物圏生命科学科	385	390	395

附 則(平成27年5月28日学則第1号)

この学則は、平成27年6月1日から施行する。

附 則(平成27年10月30日学則)

この学則は、平成27年11月1日から施行する。

附 則(平成28年3月24日学則第1号)

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この学則施行前の教育学部人間発達科学(以下「従前の課程」という。)は、改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず、平成28年3月31日に従前の課程に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 3 改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，教育学部学校教育教員養成課程の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成28年度	平成29年度	平成30年度
教育学部	学校教育教員養成課程	705	760	780

附 則(平成28年7月20日学則第1号)
この学則は，平成28年7月21日から施行する。

附 則(平成28年9月29日学則第1号)
この学則は，平成28年11月1日から施行する。

附 則(平成29年2月23日学則)

- この学則は，平成29年4月1日から施行する。
- この学則施行前の生物資源学部生物圏生命科学科(以下「従前の学科」という。)は，改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず，平成29年3月31日に従前の学科に在学する者(以下「在学者」という。)及び平成29年4月1日以降在学者の属する年次に編入学する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。
- 改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，平成29年度及び平成30年度における生物資源学部の3年次編入学による収容定員については，なお従前の例によるものとし，人文学部文化学科及び法律経済学科並びに生物資源学部資源循環学科，共生環境学科，生物圏生命化学科及び海洋生物資源学科の収容定員は，次の2表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成29年度
人文学部	文化学科	412
	法律経済学科	688
生物資源学部	生物圏生命化学科	80
	海洋生物資源学科	40

学部	学科・課程	平成30年度	平成31年度
人文学部	文化学科	404	396
	法律経済学科	676	664
生物資源学部	資源循環学科	280	283
	共生環境学科	280	283
	生物圏生命化学科	160	242
	海洋生物資源学科	80	122

- 在学者及び平成29年4月1日以降に在学者の属する年次に編入学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第2の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附 則(平成 30 年 2 月 22 日学則第 1 号)

- 1 この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、医学部医学科の入学定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成 30 年度	平成 31 年度
医学部	医学科	125	125

- 3 改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、医学部医学科の収容定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度
医学部	医学科	750	750	730	710	690	670	650

附 則(平成 30 年 6 月 28 日学則第 1 号)

この学則は、平成 30 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 2 月 28 日学則第 1 号)

- 1 この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則施行前の工学部機械工学科、電気電子工学科、分子素材工学科、建築学科、情報工学科及び物理工学科（以下「従前の学科」という。）は、改正後の学則第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 31 年 3 月 31 日に従前の学科に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 31 年 4 月 1 日以降在学者の属する年次に編入学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、平成 31 年度及び平成 32 年度における工学部の 3 年次編入学による収容定員については、なお従前の例によるものとし、工学部総合工学科の収容定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
工学部	総合工学科	400	800	1230

附 則(平成 31 年 3 月 28 日学則第 1 号)

この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 2 年 3 月 12 日学則第 1 号)

- 1 この学則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、医学部医学科の入学定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和 2 年度	令和 3 年度
医学部	医学科	125	125

- 3 改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、医学部医学科の収容定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
医学部	医学科	750	750	730	710	690	670	650

- 4 令和2年3月31日に工学部に在学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は、改正後の学則別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(令和3年3月24日学則第1号)

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和4年3月24日学則第1号)

- この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず、医学部医学科の入学定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和4年度
医学部	医学科	125

- 改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず、医学部医学科の収容定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医学部	医学科	750	730	710	690	670	650

附 則(令和4年6月28日学則第1号)

- この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 令和5年3月31日に在学する者(以下「在学者」という。)及び令和5年4月1日以降に在学者の属する年次に編入学等する者に係る授業科目及び履修方法は、改正後の学則第59条の3及び第65条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(令和5年2月28日学則第1号)

- この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず、医学部医学科の入学定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和5年度
医学部	医学科	125

- 改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず、医学部医学科の収容定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
医学	医学	750	730	710	690	670	650

部	科						
---	---	--	--	--	--	--	--

附 則(令和5年7月25日学則第1号)
この学則は、令和5年8月1日から施行する。

附 則

- この学則は、令和7年4月1日から施行する。
- 改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず、工学部総合工学科の収容定員は、次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和7年度	令和8年度	令和9年度
工学部	総合工学科	1695	1730	1760

別表第1(第45条関係)

区分	返還額
学部学生	13,000円
3年次編入学	23,000円

別表第2(第71条関係)

学部	学科・課程	免許状の種類	免許教科又は特別支援教育領域
人文学部	文化学科	中学校教諭一種免許状	国語，社会，英語
		高等学校教諭一種免許状	国語，地理歴史，公民，英語
教育学部	学校教育教員養成課程	幼稚園教諭一種免許状	
		小学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，家庭，英語
		高等学校教諭一種免許状	国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，保健体育，家庭，情報，工業，英語
		特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者，肢体不自由者，病弱者
工学部	総合工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
生物資源学部	資源循環学科	高等学校教諭一種免許状	理科，農業
	共生環境学	高等学校教諭	理科，農業

	科	一種免許状	
	生物圏生命 化学科	高等学校教諭 一種免許状	理科, 農業
	海洋生物資 源学科	高等学校教諭 一種免許状	水産

別表第3(第74条・第91条・第99条・第109条関係)

区分	授業料	入学料	検定料
学部学生	平成11年度以降の入学生 年額 535,800円	282,000円	17,000円
3年次編入学			30,000円
科目等履修生	1単位 14,800円	28,200円	9,800円
専攻生 研究生 委託生	月額 28,900円	84,600円	9,800円

学則の変更事項を記載した書類

1. 変更事由

工学部総合工学科の入学定員及び収容定員を変更することから、国立大学法人三重大学学則を一部改正する。

2. 変更点

- ・工学部総合工学科の入学定員及び収容定員を変更し、情報工学コース及び電子情報工学コースの募集人員を記載する。
- ・附則において、令和7年度及び令和8年度における工学部の3年次編入学による収容定員については、従前の例によるものとする旨、並びに令和7年度、令和8年度及び令和9年度における工学部総合工学科の収容定員を規定する。
- ・施行日 令和7年4月1日

国立大学法人三重大学学則新旧対照表（案）

新					旧				
(学部, 学科, 課程及び収容定員)					(学部, 学科, 課程及び収容定員)				
第2条 本学に次の学部及び学科又は課程を置く。					第2条 本学に次の学部及び学科又は課程を置く。				
人文学部～生物資源学部 (現行に同じ。)					人文学部～生物資源学部 (略)				
2 (現行に同じ。)					2 前項の各学部に置く学科及び課程の収容定員は, 次のとおりとする。				
学部	学科・課程	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	学部	学科・課程	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
人文学部～医学部 (略)					人文学部～医学部 (略)				
工学部	総合工学科	430	35	1790	工学部	総合工学科	400	30	1660
生物資源学部 (略)					生物資源学部 (略)				
備考1 <u>工学部総合工学科において, 入学定員430名のうち, 情報工学コースの募集人員を95名, 電子情報工学コースの募集人員を40名とする。</u>					(新設)				
備考2 <u>工学部総合工学科において, 3年次編入学定員35名のうち, 情報工学コースの募集人員を5名とする。</u>					(新設)				
3 (現行に同じ。)					3 (略)				
4 (現行に同じ。)					4 (略)				
<u>附 則</u>									
1 <u>この学則は, 令和7年4月1日から施行する。</u>									
2 <u>改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず, 工学部総合工学科の収容定員は, 次の表により読み替えるものとする。</u>									
学部	学科	令和7年度	令和8年度	令和9年度					
工学部	総合工学科	1695	1730	1760					

学則変更の趣旨等を記載した書類

(三重大学工学部総合工学科情報工学コース)

1. 学則変更（収容定員変更）の内容 P 2
2. 学則変更（収容定員変更）の必要性 P 2
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容 P 3

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

令和7年4月より、工学部総合工学科情報工学コースにおける情報工学の教育を拡充・強化するため、当該学科の1年次入学定員400名を30名増加して430名とし、情報工学コースの募集人員を65名から95名に増加する。また、3年次編入学定員30名を5名増加して35名とし、情報工学コースの募集人員を0名から5名に増加する。これにより当該学科の収容定員は1,660名から1,790名へ変更となる。

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

我が国が目指すべき未来社会像として、内閣府の第5期科学技術基本計画にSociety5.0が掲げられた。その後、未曾有のウィルスパンデミックにより社会生活の様式に変革が求められたことで、Society5.0具現化の前提となるデジタルトランスフォーメーション(DX)の重要性が広く認知されるようになった。しかしこれと同時に、社会活動を支える産業、教育、行政等のあらゆる分野において、DXに必要な情報技術・物資・インフラストラクチャ、そしてそれらを駆動する人材が、不十分かつ偏在的であることも露呈した。こうした状況は、第6期科学技術・イノベーション基本計画に際しても調査され、その一つとして、我が国の高度情報系人材が2030年には54.5万人ほど不足するという試算が出されている。また近年では、データサイエンスやデジタル情報技術を核にした、海外のプラットフォーム企業の数社が国際経済市場を席卷する中で、我が国のデジタル情報系の産業競争力は先進諸国に比べて低迷した状況にある。

そうした国内外の情勢を鑑み、本学では、データサイエンスなどの基礎情報教育の重要性を早くから認識し、学内組織に「情報教育・研究機構」を設置して、全学部生を対象にした情報教育強化の取り組みを行っている。特に令和元年度から令和4年度にかけては、教育のデジタル化促進と地域DXへの貢献を目的にした「数理・データサイエンス館」を開設するとともに、上記機構内に「データサイエンス教育センター」を新たに設置して、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」を利用した教育プログラムの提供に向け、全学的な「情報教育実施準備委員会」並びに「情報教育専門委員会」を設けた。令和5年度現在は、当該制度による「リテラシーレベル」の認定を受けた「データサイエンス学修プログラム」を提供するに至っており、今後も全学もしくは本学部において同制度「リテラシーレベルプラス」「応用基礎レベル」の認定申請を予定している。

一方、学外の産業界に目を向ければ、三重県には世界最大級の半導体製造工場が存在し、電子回路製造業の製品出荷額は10年以上にわたり全国1位を維持している。また、半導体・電子回路チップが不可欠な自動車等の製造業も三重県内および東海地区に集積している。当然ながら、それらの業種では、製造工程における一連のセンシング・データ処理・自動制御などの情報工学技術が用いられるが、特に近年は、その完全自動化・知能化による高効率化に向けた高度情報人材の確保が、国際競争で生き残るための重

要な要素となっている。本学の大学院工学研究科で令和3年度に実施した企業アンケート調査においても、それら製造業をはじめとした各種企業から、情報関連教育の強化に対する要望が寄せられた（参考資料1）。また製造業のみならず、クラウド技術を中心として急成長を遂げている国内企業も、三重県内で事業を拡大しており、そのための高度情報人材の採用に非常に積極的である。こうした情報教育・人材に対する国内及び三重県内の期待と要請は、本学部総合工学科情報工学コースの卒業生並びに大学院工学研究科情報工学専攻博士前期課程の修了生に対する求人増加にも表れており、令和元年度から令和5年度は当該卒業生・修了生1人当たり約3社の求人募集（各社1～5名募集）が寄せられている（参考資料2）。

以上のような背景のもと、本学では、基礎情報教育に加えて、より高度な情報教育の拡充・伸展を推し進めるため、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が行う令和5年度大学・高専機能強化支援事業の「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援」（支援2）に申請して採択を得た。この支援を受け本学では、大学院工学研究科における博士前期課程情報工学専攻の募集定員を令和11年度までに20名増員して55名とする計画を立て、さらにこれに先立って、その入学志願者増による優秀学生の確保のために、令和7年度から本学部総合工学科情報工学コースの募集定員を編入学と合わせて35名増員して100名とすることとした。これにより本学部総合工学科の収容定員は130名増員されて1,790名となる。この増員に並行して、同学科内の再編により、半導体分野とデジタル分野の両方の専門教育を行う電子情報工学コースの新設も行う計画である。こうした取組は、企業と連携した短期・長期インターンシップの拡張などといった実践的な専門教育展開を通じて、地域と国内外の様々な課題の解決に資する高度情報人材を育成するためのものであり、ひいては我が国と三重県の経済発展にも貢献することが大いに期待される。

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（1）教育課程の変更内容

令和5年度現在における本学部総合工学科の教育課程の教科は、“共通教育科目”と“専門教育科目”の2つに区分される。前者は、学部を問わずに重要となる教養的な知識・技能等についての教育を目的とし、“大学基礎科目”、“教養基礎科目”、“専攻基礎科目”の3つに大別され、それぞれが6また7の授業分野/科目で構成される。これに対し後者は、情報工学の専門教育を目的として大きく3つに大別されており、本学部で共通して重要となる3つの必修科目から成る“学部共通科目”、より専門的な28の必修科目から成る“専門必修教育科目”、21の選択科目から成る“専門選択教育科目”で構成される。

令和7年度以降における本教育課程の教科は、これまでと同じく、“共通教育科目”と“専門教育科目”の2つの区分とし、前者についての変更は当面行わないものとす

る。但し後者についてはその分類を変更して、以下に述べる4つに大別する。

1つは、これまでの“学部共通科目”と同様の考え方にに基づき、本学部総合工学科を構成する専門コースの全て、または複数において共通して重要となる“総合工学教育科目”とする。これまでの3つの必修科目（「安全教育・工学倫理」、「先端技術基礎」、「卒業研究」または「長期インターンシップ」）に加え、学外での実務教育のための2つの選択必修科目（「実地研修」、「インターンシップⅠ」）を設けた合計5科目から成る。

2つ目は、これまでの“専門必修科目”の中から、データサイエンスや解析学、情報理論やコンピュータのハード/ソフトウェアの基礎知識、および情報倫理や専門英語など、情報工学を修めるうえで不可欠な要素の教育内容を再編して“基幹教育科目”とする。この分類は下記の23の必修科目から成る。

「確率統計学」、「計測とデータ」、「データサイエンス演習」、「離散数学」、「複素解析」、「常微分方程式」、「フーリエ・ラプラス解析」、「情報理論」、「数理論理学」、「論理システム設計」、「計算機アーキテクチャ」、「プログラミング論」、「プログラミング演習」、「データ構造・アルゴリズム論」、「情報工学概論」、「情報工学実験Ⅰ」、「情報工学実験Ⅱ」、「情報工学実験Ⅲ」、「応用情報学」、「情報倫理と知的財産」、「技術英語」、「専門英語Ⅰ」、「専門英語Ⅱ」

3つ目は、ダイバーシティが進む情報工学の様々な分野であっても、それらの複数の分野で横断的に重要となる概念・知識・技術を養成する教育内容を、これまでの“専門必修科目”および“専門選択科目”の中から再編するとともに、企業等から招いた学外講師による実務教育のための科目を加えて“基盤教育科目”とする。この分類は下記の15の選択必修科目から成る。

「電磁気学」、「電気回路」、「電子回路」、「信号処理」、「画像処理」、「オートマトン」、「計算機ハードウェア設計」、「コンピュータネットワーク」、「データベース」、「人工知能と機械学習」、「情報工学特別講義Ⅰ」、「情報工学特別講義Ⅱ」、「実践開発演習」、「インターンシップⅡ」、「インターンシップⅢ」

4つ目は、情報工学の多様な分野のそれぞれにおいて重要となる知識・技術についての教育内容を、これまでの“専門必修科目”および“専門選択科目”の中から取捨選択して再編するとともに、新たな分野の内容を取り入れて“応用教育科目”とする。この分類は下記の11の選択必修科目から成る。

「オペレーティングシステム」、「コンパイラ」、「暗号と情報セキュリティ」、「組込みシステム」、「無線情報通信」、「光情報伝送」、「IoTシステム」、「環境センシング」、「ヒューマンインタフェース」、「サイバー空間設計」、「ニューロコンピューティング」

上述の通り、変更した教育課程は、これまでの教育課程における科目・内容をもとに拡充を行ったものであり、定員数変更前と比べて同等以上の内容を担保している。さらにこれは、必修科目を厳選するとともに、数多くの選択必修科目を設けることで、学生個々が主体性を持って自らの指向に合わせて履修できる自由度を持つことから、

教育効果の向上と多様な人材の育成に資すると期待される。なお当然ながら、各科目の具体的な授業内容については、各分野の動向とその予見に合わせて、必要に応じた改善を行う。

(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

今回の収容定員増加の背景となった、社会一般および各種産業界からの幅広い情報系人材に対する要請に応える一つの方法は、情報工学を多様な指向のもとに修めた人材を育成することと考える。今回の教育課程の変更内容は、その考え方を整理して、これまでの教育課程を改訂するものである。この考え方の骨子は、エンジニアの基本を“総合工学教育科目”により養い、“基幹教育科目”をもって情報工学者たる核を形成し、そのうえに“基盤教育科目”で確固たる体を成し、そして“応用教育科目”を通じて、多様化する情報工学に順応できる様々な知識と技術を教授することである。

この教育課程では、講義形式の授業科目に加えて、これらで学んだ知識を応用・実践できるように1・2年次から演習・実験型の科目が用意されている。また2・3年次では、目的意識と学習意欲の向上および自らのキャリアデザインに役立つ実務教育のための科目も用意されている。そして最終学年となる4年次では、卒業研究または長期インターンシップを通して、学習や研究の合理的な計画を立て、それらを着実に実行できる能力を教育することとしている。これまで学生に対しては、その過程で各科目群に対する卒業の要件を提示するとともに、その途中段階である2年次終了時および3年次終了時の進級に際しても単位取得条件等を定めて進級判定を行うことで、入学から卒業に至るまで計画的かつ効率的な履修を学生に促すような仕組みを採用している。さらに、入学年度毎に学級担任となる教員2名を配置し、年2回以上の学生個別の履修指導を行っている。今回の学生定員増に伴って、担任教員1名あたりの指導学生数が約33名から50名へ増加する。そこで、学級担任教員を現在の主任担任2名から副主任担任1名を増員して3名体制とすることで対応する。

今回の定員増に伴い授業の運用・方法等に変更を要する科目として、プログラミングの演習を行う科目がある。これらの演習では、学生個々の質問等に対する個別対応が非常に重要な教育要素となる。定員増により、従前にあった同様の科目に比べて受講生がこれまでの1.5～1.6倍程度に増加することから、当該科目の授業担当教員をこれまでの2名から3名以上へ増員し、さらにティーチングアシスタントも増員することで、従前と同程度以上の教育効果を担保する。

演習科目に加え、実験科目についても変更を必要とする。「情報工学実験Ⅰ」「情報工学実験Ⅱ」の2つの実験科目については、これまで行っている受講生の4グループ分けを6グループ分けとし、これに合わせて授業担当教員を現在の6名から8名以上へ増員し、さらにグループごとにティーチングアシスタントを増員することで、現在と同程度以上の教育効果を担保する。また「情報工学実験Ⅲ」では、これまで14の

異なる実験テーマを提供し、これを受講生が選択して受講する授業方法を取っている。後述するとおり、今回の定員増に伴って本コース専属の教員が増員されることから、授業担当教員並びに提供する実験テーマを 20 程度へ増やすことで、適切な受講生数でのグループ分けを可能にするとともに、実験内容の拡充と教育効果の向上を行う。またここでも、ティーチングアシスタントをテーマ毎に増員し、さらに、技術補佐員 1 名を増員して実験内容・装置等の高度化を支援する。

学外科目の一つである「実践開発演習」では、企業の実務家が非常勤講師を務める演習授業を提供する。今回の定員増に伴い、従前にあった同様の科目に比べて受講生の増加が予想される。受講生数と演習を行う教室の収容定員に合わせて、受講生のグループ分け及び演習のテーマの種類を増やすとともに、状況を見て複数企業からの非常勤講師を招くことで、現在と同程度以上の内容と教育効果を担保する。

4 年次科目である「卒業研究」については、今回の定員増に伴って、研究室へ配属される学生数が現在の約 1.5 倍へ増加することとなる。卒業研究では、個々の学生が研究課題に個別に取り組むことから、その研究活動を通じた教育も個別指導が基本となる。これまで、研究室への学生配属は、個々の学生の希望と 3 年次までの成績に基づいて決定しているが、各研究室または各教員が指導する学生数はほぼ均等になるような配属の方法を取っている。後述の通り、本コース専属の教員が 1.5 倍に増員されることから、現在と同様の配属方法を採用し、各学生が受ける指導の時間および質を担保する。また、卒業研究の指導教員が各々に異なった研究課題を提供することとなるため、全体としての教育内容の拡充が図られるとともに、学生に対してはより多くの選択肢を提供することとなり、卒業研究に対する主体性と意欲の向上が期待できる。

(3) 教員組織の変更内容

令和 6 年度より、本学部総合工学科情報工学コースの専任教員を現在の 14 名から 21 名へ増員する。その後、定年退職による減員もあるが、教員数 20 名以上を維持できる見込みである。同コースの収容定員は現在の 255 名から 390 名へ増員されるが、これに伴う学生/教員比率 (S/T 比) は教員数 20 名の場合であっても現在の 18.2 から 19.5 となって 7% の微増に留まることとなる。

現在、本学部総合工学科内の他コースにおける S/T 比は、機械工学コース 15.4、電気電子工学コース 16.4、応用化学コース 17.0、建築学コース 16.3 であり、情報工学コースの 18.2 が最も高い状態にはあるが、非常勤教員 2 名を教育担当として採用することで S/T 比の実質的低減を行っている。今回の定員変更後も、引き続き 2 名以上の非常勤教員を採用するとともに、クロスアポイントメントで企業の実務家非常勤教員 1～2 名も採用して、上記の 7% の微増分を補償し、現在と同程度以上の教育体制を担保する。

(4) 大学全体の施設・設備の変更内容

今回の変更により、本学部の収容定員は 1,660 名から 1,790 名へ約 8% の増加となり、特に総合工学科情報工学コースでは、1 学年最大 65 名定員が最大 100 名定員となることから、そのための授業等を行う比較的に高い収容可能人数の教室が不足すると予想される。そこで本学全体として、収容可能人数が 100 名程度以上の教室について、学部を問わずに予約・利用が可能な体制を整える。

また、上述の増員される教員の研究室を整備するため、本学部が使用する 3 つの建物（工学部 5 号館、工学部 6 号館、総合研究棟 I）の改修工事を行い、変更後の収容定員数に対する研究室面積の比率が同程度となるように本学部総合工学科各コース（工学研究科各専攻）へ研究室の面積・場所の再配分を行う。その際、教員室も含めた研究室については、教員 1 名あたりの使用面積 100 平米前後を目安とする。

2021年6月1日

関係企業人事・採用担当者 殿

三重大学大学院工学研究科長

池 浦 良 淳

拝啓

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

三重大学工学部及び三重大学大学院工学研究科では、第4次産業革命や Society5.0 の産業構造の急激な変化に対応できる人材育成を目指しており、現在、大学院改組を計画しております。その大学院改組計画の参考にさせて頂きたいと思っておりますので、企業のお立場から率直なご意見を頂きたく、アンケートをお願いすることに致しました。

アンケートは2回実施することを予定しており、1回目（今回）で社会的な需要の調査を実施し、2回目で改組の基本的な構想に対してのご意見をお聞きしたいと思います。つきましては、ご多忙中の折に大変恐縮ではございますが、Web アンケートによりご回答頂ければ幸いです。

本アンケートにてご記入いただきました内容は、企業名が特定できないようデータを適切に処理した上で集計し、集計後の資料はアンケートの趣旨・目的以外には利用しないことを申し添えます。

敬具

記

アンケート実施方法： Web アンケート
回答方法： 下記 QR コードの読み込み又は下記 URL から
ご回答をお願い致します
回答期限： 令和3年6月13日まで
所用時間： 約6分

アンケートの回答はこちらから



<https://bit.ly/3f3KwZs>

お問合せ先
三重大学大学院工学研究科
分子素材工学専攻 金子 聡
Tel: 059-231-9427
E-mail: kaneco@chem.mie-u.ac.jp

大学院改組に関する企業アンケート（第1回目）

1. (質問)三重大学工学部は、令和元年度に6学科(機械工学科、電気電子工学科、分子素材工学科、建築学科、情報工学科、物理工学科)から1学科5コース(機械工学コース、電気電子工学コース、応用化学コース、建築学コース、情報工学コース)に再編し、改組致しました。物理工学科の教員・スタッフは、機械工学、電気電子工学、情報工学コースに集約致しました。ものづくりの根幹をなす機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学、情報工学コースからなる総合工学科(1学科)に関して、御社の考えをお聞かせ下さい。

(回答) 一つ選択して下さい

- 大変良い
- どちらかと言えば、良い
- どちらとも言えない
- あまり良くない

2. (質問)御社におかれまして、今後採用したい学生の専門分野は何ですか。5つ選んで下さい。

(回答)

- 機械工学
- 電気電子工学
- 応用化学
- 建築土木工学
- 情報・IoT
- 経営工学
- 核融合・原子力工学
- 生物工学
- 物理工学
- 画像・音響工学
- 資源・エネルギー工学
- 都市工学
- その他:

3. (質問)三重大学大学院工学研究科では、現在、6つの専攻(横ぐし)以外に、7つの研究領域(縦ぐし)が存在しており、修士課程の学生は、専攻と研究領域に独立して所属しています(下記の図を参照して下さい。)もし、三重大学大学院工学研究科の修士学生を今後採用するなら、「専攻(メジャー)と研究領域(マイナー)に所属して、多様性を理解している学生」と「専攻のみに所属し、専門性に特化して学習した学生」のどちらを採用したいですか。

大学院博士前期課程 (標準修業年限 2年)							
研究領域	メカトロニクス	地球環境エネルギー	情報処理・情報通信	ライフサイエンス	ナノテクノロジー	先進物質・先端材料	社会基盤・生産
専攻・講座							フロント系
機械工学専攻	●	●	●	●	●	●	●
電気電子工学専攻	●	●	●	●	●	●	●
分子素材工学専攻	●	●	●	●	●	●	●
建築学専攻	●	●	●	●	●	●	●
情報工学専攻	●	●	●	●	●	●	●
物理工学専攻	●	●	●	●	●	●	●
循環システム設計講座	●	●	●	●	●	●	●
社会連携講座	●	●	●	●	●	●	●

(回答)

- 専攻（メジャー）と研究領域（マイナー）に所属して、多様性を理解している学生
- 専攻のみに所属し、専門性に特化して学習した学生

4. (質問)三重大学大学院工学研究科では、上記の7つの研究領域(領域A(ロボティクス・メカトロニクス)、領域B(地球環境・エネルギー)、領域C(情報処理・情報通信)、領域D(ライフサイエンス)、領域E(ナノサイエンス、ナノテクノロジー)、領域F(先進物質・先進材料)、領域G(社会基盤・生産))があります。これらの研究領域は、2007年から専攻横断で編成しており、今なお社会における重要な研究課題であると考えておりますが、御社の考えをお聞かせ下さい。

(回答)

- これら7つの研究領域は、今なお重要な課題であるため、このままで良い
- 変更した方が良い

5. (質問)化学系学生の教育に関して、お聞きします。三重大学工学研究科では、幅広い知識を重視するという考えから、従来の「素材面に特化して学修した学生」の育成から転換し「化学の応用面を幅広く習得した学生」を育成するため、分子素材工学専攻を応用化学専攻に改組することを検討しています。今後学生を採用するにあたり、御社の採用意向をお聞かせ下さい。

(回答)

- 応用化学専攻の学生の積極的な採用を検討したい
- 採用する学生の専門領域の一つとして、応用化学専攻を考えたい
- 応用化学専攻は採用する学生の分野ではない
- わからない
- その他:

6. (質問)インターンシップに関して、お聞きします。学部改組では、新たな試みとして、3年生の3月に大学院までの展望を決定し、4年生では4週間以上のインターンシップの実施を予定しています。工学研究科改組ではさらに、学生と企業の希望が一致した場合、このインターンシップ先の企業が、三重大学と共同研究を実施し、その学生の修士研究として研究を進展させ、学生が最終的にこの企業に就職するシステムも考えております^(※)。このように、学生が4年生と修士在学中に、御社がインターンシップや共同研究を通して、工学研究科と密に関連することに、どの程度興味がありますか。 ^(※)本システムは現在、制度上実現が可能かを検討している段階であり、今後変更する可能性があります。

(回答)

- 修士在学中に学生に奨学金を給付してでも、参画したい
- 奨学金の給付まではいかないが、共同研究等で参画したい
- 共同研究費等の資金面は難しいが、まあまあ興味はある
- どちらかと言えば、興味はある
- わからない
- 興味はない

7. (質問)三重大学大学院工学研究科の修了生に対して求める人物像と採用の意向について記入して下さい。

8. (質問)三重大学の工学部・工学研究科に対する要望を記入して下さい。

回答企業数：174社

質問1	回答数	比率
大変良い	98	56.3%
どちらかと言えば、良い	55	31.6%
どちらかとも言えない	21	12.1%
あまりよくない	0	0.0%

質問2	回答数	比率
機械工学	112	64.4%
電気電子工学	117	67.2%
応用化学	115	66.1%
建築土木工学	83	47.7%
情報・IoT	110	63.2%
経営工学	41	23.6%
核融合・原子力工学	1	0.6%
生物工学	42	24.1%
物理工学	57	32.8%
画像・音響工学	54	31.0%
資源・エネルギー工学	51	29.3%
都市工学	44	25.3%
その他	1	0.6%

※比率=専門分野の出現数/全174社

質問3	回答数	比率
専攻（メジャー）と研究領域（マイナー）に所属して、多様性を理解している学生	166	95.4%
専攻のみに所属し、専門性に特化して学習した学生	8	4.6%

質問4	回答数	比率
これら7つの研究領域は、今なお重要な課題であるため、このままで良い	170	97.7%
変更した方が良い	4	2.3%

質問5	回答数	比率
応用化学専攻の学生の積極的な採用を検討したい	75	43.6%
採用する学生の専門領域の一つとして、応用化学専攻を考えたい	56	32.6%
応用化学専攻は採用する学生の分野ではない	25	14.5%
わからない	16	9.3%
その他	0	0.0%

質問6	回答数	比率
修士在学中に学生に奨学金を給付してでも、参画したい	4	2.3%
奨学金の給付まではいかないが、共同研究等で参画したい	17	9.8%
共同研究費等の資金面は難しいが、まあまあ興味はある	16	9.2%
どちらかと言えば、興味はある	75	43.1%
わからない	55	31.6%
興味はない	7	4.0%

質問7(一部抜粋)
質問内容にございました「専攻（メジャー）と研究領域（マイナー）に所属して、多様性を理解している学生」は、まさにターゲットに近いと考えております。研究開発段階の製品の評価・分析を行う我々にとって、顧客のニーズは研究背景によってさまざまあるため、専門知識だけでなく周辺知識も備えていると働く側としても大変面白みがあるのではないかと思います。
モノづくりの場においてAIやIoTの活用を進めており、従来の機械の知識だけでなく電気や情報など幅広い知識を有する学生が望まれている
専門的知識に長けていることはもちろんですが、幅広い視野も持ち合わせていただきたいと思っております。そのような方であれば是非、採用したいと考えます。
学問も、それ以外にも、いろいろな活動を通じた経験をされ、多様な人々との共同の中心となって活躍できる能力を磨いていただきたい。また、前向きに粘り強く想像を活かしてやり遂げられる方を是非採用したい。

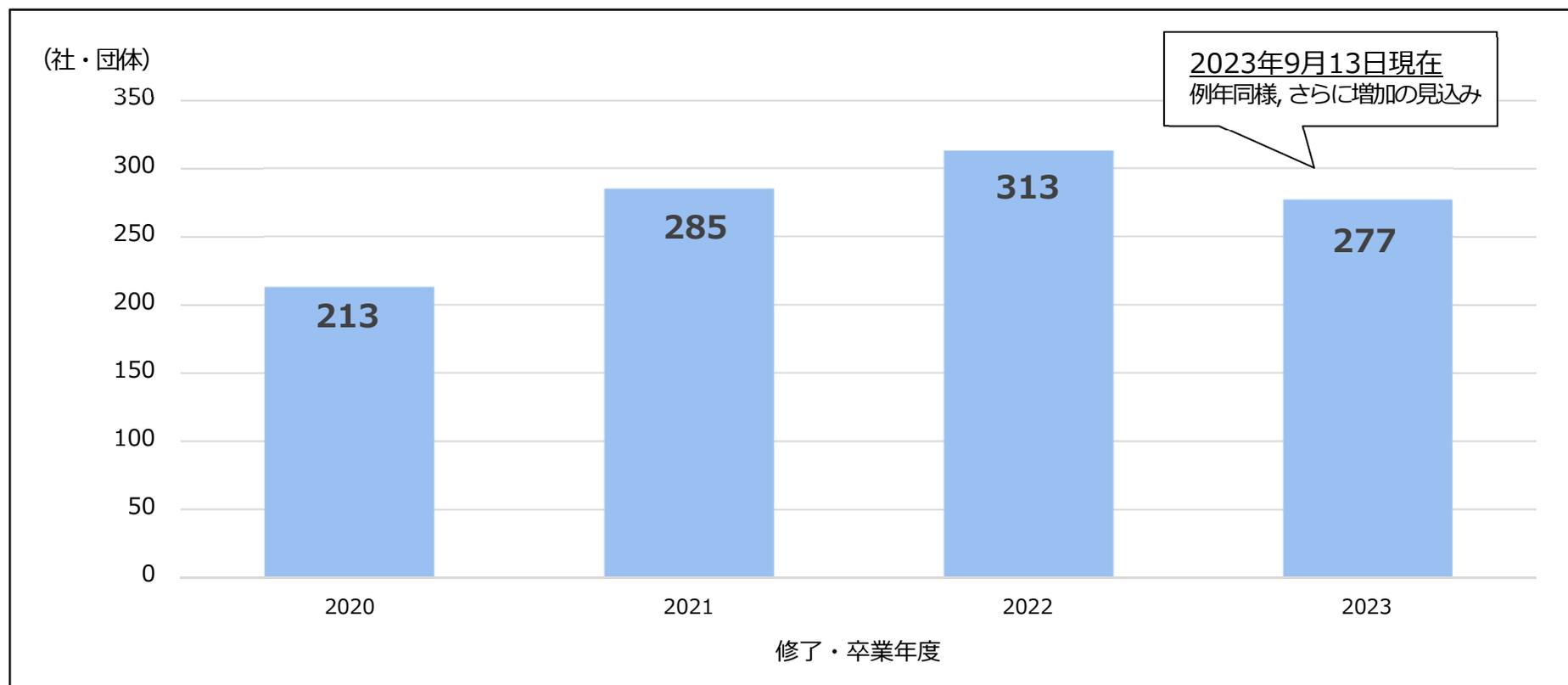
専門性も大切ですが、社会適応力を兼ね備えた人材を採用したいと考えています。
専門性を持ちつつも多様性を理解し優秀な学生さんを採用させていただきたいです。
弊社では、毎年国立大学の大学院卒業の学生が1名~2名程度入社しています。大学院生は学部生と比べて課題に対し探究する傾向が強く、弊社では強力な戦力になっているように感じる。
自身の専門領域のみならず、幅広い分野に興味を持つことができる貴大学学生を積極的に採用していきたいと考えます。
求める人物像：探求心があり、グローバルに挑戦していける。工学研究科のOBもおりますので、今後も積極的に採用していきたいと考えております。
①幅広い視野を持ち、柔軟に対応できる人②論理的思考ができ、実行力のある人を採用したいと考えている。

質問8(一部抜粋)

課題解決力、他社にそれを伝える能力をもってほしい。
学問も、それ以外も、いろいろな活動を通じた経験をされ、多様な人々との共同の中心となって活躍できる能力を磨いていただきたい。また、前向きに粘り強く想像を活かしてやり遂げられる方を是非採用したい。
企業との交流等、様々な経験を通して学生を育成していただきたいです。
学問も、それ以外も、いろいろな活動を通じた経験をされ、多様な人々との共同の中心となって活躍できる能力を磨いていただきたい。また、前向きに粘り強く想像を活かしてやり遂げられる方を是非採用したい。
専門だけでなく、周辺領域の知識も習得しやすい学部学科構成を希望します。
インターンシップ、学内会社説明会を今後も積極的に行いたいと考えております。
貴学OBOGは非常に柔軟な発想でものづくりの課題解決に取り組んでいただいております、より多様性ある人材育成に取組まれるとの方針に賛同し、期待しております。
地域の大学ですが、視野の広い学びがあると良いかと思えます。
専門分野への探求心が高い一方で、幅広い視野で物事を見る事ができ、人とのコミュニケーションが得意な人物像
学業と共に、人間教育をお願いしたい。誠実で、広い視野で物事を多面的に捉えることができる人。

工学部情報工学コース、工学研究科情報工学専攻への求人状況

情報工学の修了生（30名）・卒業生（65名）に対する求人企業・団体数



■各社1から5名程度の求人があり、求人数は求人企業・団体数を上回る。

■卒業生・修了生1人当たりの求人企業数・団体数は約3社。

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要																
(工学部総合工学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員
共通教育科目	スタートアップPBLセミナー	1前		2			○							4		
	小計(1科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	4	
	キャリア教育入門	1前・後		2			○							1		
	小計(1科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	1	
	英語I 大学基礎	1前・後		2				○						9		
	英語I コミュニケーション	1前・後		2				○						11		
	小計(2科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	13	
	データサイエンスI	1前		2			○							10	オムニバス(一部)	
	データサイエンスII	1後		2			○							8	共同(一部)	
	小計(2科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	16	
	スポーツ健康科学A	1前		1					○					6		
	小計(1科目)	—	—	1	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	6	
	教養基礎科目	英語I TOEIC	1前・後		2				○						14	
		英語I 初級TOEIC	1前・後			1			○						2	
		英語II 発展A a	1前・後			1			○						2	
		英語II 発展A b	1後			1			○						1	
		英語II 発展B	1前・後			1			○						2	
		英語II 発展C	1前・後			1			○						1	
		英語II 発展D	1前・後			1			○						1	
		英語II 発展E	1前・後			1			○						1	
スポーツ健康科学B		1後		1					○					5		
スポーツ健康科学概論		1前			2		○							3	オムニバス	
PBLアカデミック・ライティング		1前・後			2		○							4		
哲学F		1前・後			2		○							1		
哲学G		1前・後			2		○							1		
哲学I		1前・後			2		○							1		
倫理学A		1前・後			2		○							1		
倫理学B		1後			2		○							1		
倫理学F		1前			2		○							1		
倫理学G		1後			2		○							1		
倫理学I		1前・後			2		○							1		
宗教学B		1前・後			2		○							1		
宗教学C	1前			2		○							1			
宗教学D	1後			2		○							1			
日本考古学B	1後			2			○						1			
日本史A	1前			2		○							1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)
	日本史B	1前・後			2		○								1	
	日本史C	1前			2		○								1	
	日本文化論B	1前			2		○								1	
	西洋史B	1前・後			2		○								1	
	西洋史C	1後			2			○							1	
	東洋史A	1前・後			2		○								1	
	東洋文化史	1前・後			2		○								1	
	日本文学A	1前・後			2		○								1	
	日本文学B	1前・後			2		○								1	
	日本文学C	1前・後			2		○								1	
	日本語学A	1前			2		○								1	
	日本語学B	1後			2		○								1	
	比較政治文化	1前・後			2			○							1	
	比較文化論	1前・後			2			○							1	
	こころのサポート	1前・後			2		○								3	
	心理学A	1前・後			2		○								3	
	心理学F	1前・後			2		○								2	
	日本国憲法	1前・後			2		○								4	
	法学A	1前			2		○								1	
	法学B	1前			2			○							1	
	法学C	1後			2		○								2	
	法学G	1前			2		○								1	
	社会学A	1前・後			2		○								4	
	社会学B	1前・後			2		○								2	
	文化人類学A	1前・後			2		○								2	
	文化人類学B	1前			2		○								1	
	政治学A	1前・後			2		○								2	
	政治学B	1後			2		○								1	
	政治学G	1前・後			2		○								3	
	P B L 政治学1	1前			2		○								1	
	P B L 政治学2	1前			2		○								1	
	経済学A	1前・後			2		○								1	
	経済学B	1前			2		○								1	
	経済学F	1後			2		○								2	
	経済学G	1前・後			2		○								6	
	人文地理学A	1前			2		○								2	
	人文地理学B	1後			2		○								1	
	人文地理学C	1後			2		○								1	
	文化と空間A	1前・後			2		○								1	
	文化と空間B	1前			2			○							1	
	文化と空間C	1前・後			2		○								1	
	日本学	1後			2		○								1	
	三重学1	1前・後			2		○								1	
	地域学	1後			2		○								1	
	情報科学A	1後			2		○								1	
	情報科学B	1前			2		○								1	
	情報科学C	1後			2		○								1	
	データサイエンスⅢ	1後			2		○								1	
	数理科学A	1前・後			2		○								1	
	数理科学B	1後			2		○								1	
	数理科学F	1前・後			2		○								1	
	数理科学H	1前・後			2		○								1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教員 以外 の教員
	物理学1	1後			2		○								1	
	物理学2	1前・後			2		○								1	
	化学A	1前・後			2		○			6	7				1	オムニバス
	化学B	1後			2		○			1	1				1	オムニバス (一部)
	生物学1	1前・後			2		○								1	
	生物学2	1前・後			2		○								1	
	生物学3	1後			2		○								2	オムニバス
	入門生物学	1前			2		○								1	
	自然科学概論1	1前			2		○								1	
	自然科学概論2	1前・後			2		○								2	オムニバス (一部)
	自然科学概論3	1前			2			○							2	共同
	P B L 自然科学概論	1前			2		○								1	
	医学医療 A1	1前			2		○								1	
	医学医療 A2	1後			2		○								15	オムニバス
	医学医療 B1	1後			2		○								1	
	医学医療 B2	1前・後			2		○								22	オムニバス
	医学医療 C1	1後			2		○								9	オムニバス
	医学医療 C2	1前			2		○								12	オムニバス
	医学医療 D	1後			2		○								14	オムニバス
	医学医療入門	1前			2		○								16	オムニバス
	国際保健と地域医療	1後			2		○								9	オムニバス
	P B L 医学・看護学	1前・後			2		○								1	
	環境学 A	1前・後			2		○								4	オムニバス (一部)
	環境学 F	1前			2		○			1					1	オムニバス
	環境地理学 A	1前			2		○								1	
	環境地理学 B	1後			2		○								1	
	環境地理学 C	1後			2		○								1	
	環境科学1	1前			2		○								2	共同 (一部)
	環境科学2	1前			2		○								7	オムニバス (一部)
	科学的・地域環境概論 I	1前			1		○			2	1				4	オムニバス
	科学的・地域環境概論 II	1後			1		○								3	オムニバス
	生物資源学 A	1前・後			2		○								1	
	生物資源学 B	1前			2		○								1	
	地域防災論	1後			2		○								11	オムニバス
	防災論	1前			2		○			3	3					オムニバス
	音楽文化論	1後			2		○								1	
	日本理解特殊講義1	1前			2		○								2	オムニバス
	日本理解特殊講義3	1前			2		○								10	オムニバス
	日本理解特殊講義4	1前			2		○								7	オムニバス
	日本理解特殊講義5	1前・後			2		○								2	
	現代社会理解特殊講義1	1前・後			2		○				1				3	オムニバス
	現代社会理解特殊講義3	1後			2		○								1	
	現代社会理解特殊講義4	1前・後			2		○								1	
	現代社会理解実践1	1前			2		○								2	共同
	現代社会理解実践2	1後			2		○								4	オムニバス
	現代社会理解実践3	1前			2		○								1	
	国際理解実践1	1後			2		○								1	
	国際理解実践2	1後			2		○								1	
	国際理解実践3	1後			2		○								2	共同
	国際理解特殊講義1	1後			2		○								1	
	国際理解特殊講義2	1前・後			2		○								2	
	国際理解特殊講義3	1前・後			2		○								1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)
	国際理解特殊講義4	1前・後			2		○								1	
	国際理解特殊講義5	1後			2		○								2	オムニバス
	現代科学理解特殊講義1	1前			2		○								1	
	現代科学理解特殊講義2	1後			2		○					1			6	共同
	P B L 現代科学理解特殊講義1	1後			2		○								1	
	P B L 現代科学理解特殊講義2	1後			2			○							1	
	P B L 現代科学理解特殊講義3	1前			2			○							1	
	インターンシップ入門	1前・後			2		○								1	
	ピアサポート実践	1前・後			2			○							2	共同
	学習支援実践	1前			2		○								1	
	学生生活支援実践	1後			2			○							1	
	ビジネスキャリア入門	1前・後			2		○								1	
	ドイツの文化	1前・後			2		○								1	
	中国の文化	1前・後			2		○								1	
	ドイツ語 I A a	1前			1			○							4	
	ドイツ語 I A b	1後			1			○							4	
	ドイツ語 I B a	1前			1			○							6	
	ドイツ語 I B b	1後			1			○							6	
	フランス語 I A a	1前			1			○							1	
	フランス語 I A b	1後			1			○							1	
	フランス語 I B a	1前			1			○							1	
	フランス語 I B b	1後			1			○							1	
	中国語 I A a	1前			1			○							8	
	中国語 I A b	1後			1			○							8	
	中国語 I B a	1前			1			○							6	
	中国語 I B b	1後			1			○							6	
	朝鮮・韓国語 I A a	1前			1			○							1	
	朝鮮・韓国語 I A b	1後			1			○							1	
	朝鮮・韓国語 I B a	1前			1			○							1	
	朝鮮・韓国語 I B b	1後			1			○							1	
	ロシア語 I A a	1前			1			○							1	
	ロシア語 I A b	1後			1			○							1	
	ロシア語 I B a	1前			1			○							1	
	ロシア語 I B b	1後			1			○							1	
	スペイン語 I A a	1前			1			○							1	
	スペイン語 I A b	1後			1			○							1	
	スペイン語 I B a	1前			1			○							1	
	スペイン語 I B b	1後			1			○							1	
	ポルトガル語 I A a	1前			1			○							2	
	ポルトガル語 I A b	1後			1			○							2	
	ポルトガル語 I B a	1前			1			○							2	
	ポルトガル語 I B b	1後			1			○							2	
	ドイツ語 II 総合 a	1前			1			○							1	
	ドイツ語 II 総合 b	1後			1			○							1	
	ドイツ語 II 演習 a	1前			1			○							1	
	ドイツ語 II 演習 b	1後			1			○							1	
	フランス語 II 総合 a	1前			1			○							1	
	フランス語 II 総合 b	1後			1			○							1	
	フランス語 II 演習 a	1前			1			○							1	
	フランス語 II 演習 b	1後			1			○							1	
	中国語 II 総合 a	1前			1			○							1	
	中国語 II 総合 b	1後			1			○							1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
	中国語Ⅱ演習 a	1前			1			○							1	
	中国語Ⅱ演習 b	1後			1			○							1	
	小計 (182科目)	—	—	3	311	0	—			10	12	1	1	0	308	
専攻基礎科目 (機械工学コース)	基礎線形代数学Ⅰ	1前・後		2			○			1					8	共同
	基礎線形代数学Ⅱ	1前・後		2			○								4	
	基礎微分積分学Ⅰ	1前・後		2			○			1	1				5	
	基礎微分積分学Ⅱ	1前・後		2			○			1	1	1			4	
	基礎物理学Ⅰ	1前・後		2			○			1	3				1	共同
	物理学実験	2前		1					○	1	2	5			3	
	基礎物理学Ⅱ	1前・後			2			○			1	1				3
	化学Ⅰ	1前			2			○		4	1		1			共同
小計 (8科目)	—	—	11	4	0	—			8	9	0	6	0	15		
専攻基礎科目 (電気電子工学コース)	基礎線形代数学Ⅰ	1前・後		2			○			1					8	共同
	基礎線形代数学Ⅱ	1前・後		2			○								4	
	基礎微分積分学Ⅰ	1前・後		2			○			1	1				5	
	基礎微分積分学Ⅱ	1前・後		2			○			2	2				4	
	基礎物理学Ⅰ	1前・後		2			○			1	3				1	共同
	基礎物理学Ⅱ	1前・後		2			○			1	1				3	
	基礎物理学ⅢA	2前		2			○			1	1					
	化学Ⅰ	1前		2			○		3	2		1				共同
	計算機基礎	2前		2			○		1							
	化学・物理実験	2前		1						1		6			4	
小計 (10科目)	—	—	19	0	0	—			7	10	0	6	0	18		
専攻基礎科目 (応用化学コース)	基礎線形代数学Ⅰ	1前・後		2			○								8	共同
	基礎微分積分学Ⅰ	1前・後		2			○			1					5	
	基礎物理学Ⅰ	1前・後		2			○			1	3				1	
	基礎物理学Ⅱ	1前・後		2			○			1	1				3	
	基礎物理学ⅢB	2前		2			○			1						
	化学・物理実験	2前		1						1		6			4	
	小計 (6科目)	—	—	11	0	0	—			3	6	0	6	0	18	
専攻基礎科目 (建築学コース)	基礎線形代数学Ⅰ	1前・後		2			○								8	共同
	基礎微分積分学Ⅰ	1前・後		2			○			1					5	
	基礎数理統計学	2前		2			○								1	
	基礎物理学Ⅰ	1前・後		2			○			1	3				1	
	基礎線形代数学Ⅱ	1前・後			2		○			1					4	共同
	基礎微分積分学Ⅱ	1前・後			2		○				2				4	
	基礎物理学Ⅱ	1前・後			2		○			1	1				3	
	化学Ⅰ	1前			2		○		3	2		1				共同
小計 (8科目)	—	—	8	8	0	—			6	9	0	1	0	14		
専攻基礎科目 (情報工学コース)	基礎線形代数学Ⅰ	1前・後		2			○			1					8	共同
	基礎線形代数学Ⅱ	1前・後		2			○								4	
	基礎微分積分学Ⅰ	1前・後		2			○			1	1				5	
	基礎微分積分学Ⅱ	1前・後		2			○			2	2				4	
	基礎物理学Ⅰ	1前・後		2			○			1	3				1	共同
	基礎物理学Ⅱ	1前・後		2			○			1	1				3	
	物理学実験	2前		1						1		5			2	
小計 (7科目)	—	—	13	0	0	—			3	7	0	5	0	15		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
専攻基礎科目 (電子情報工学コース)	基礎線形代数学Ⅰ	1前・後		2			○								8	共同
	基礎線形代数学Ⅱ	1前・後		2			○			1					4	
	基礎微分積分学Ⅰ	1前・後		2			○				1				5	
	基礎微分積分学Ⅱ	1前・後		2			○				2				4	
	基礎物理学Ⅰ	1前・後		2			○			1	3				1	
	基礎物理学Ⅱ	1前・後		2			○			1	1				3	
	基礎物理学ⅢA	2前		2			○				1					
	化学Ⅰ	1前		2			○			3	2		1			
	計算機基礎	2前		2			○			1						
	化学・物理実験	2前		1					○			6			4	
小計(10科目)	-	-	-	19	0	0	-	-	-	7	10	0	6	0	18	
専門教育科目	総合工学教育科目	1前	○	1			○			1					2	オムニバス オムニバス・集中学部・修士一貫コースを選択したものは、卒業研究または長期インターンシップのいずれかを選択すること。
	先端技術基礎	2前	○	1			○			4	3					
	卒業研究	4通	○	6				○		45	38	3	19			
	長期インターンシップ	4通	○	6						45	38	3	19			
	実地研修	3通			1					9	9		1			
	インターンシップⅠ	3通			1					3	6					
小計(6科目)	-	-	-	14	2	0	-	-	45	38	3	19	0	2		
機械工学コース 基幹教育科目	機械工学フレッシュマンゼミナール	1前	○	1					○	7	9		5			オムニバス
	入門数学演習	1前	○	1				○							1	
	入門物理学演習	1前	○	1				○			1					
	工業数学A(ベクトル解析)	2前	○	2			○				1					
	工業数学B(複素関数論)	2前	○	2			○			1						
	工業数学A・工業数学B演習	2前	○	1				○		1	1					
	工業数学C(常微分方程式)	2前	○	2			○			1						
	工業数学D(フーリエ解析)	2後	○	2			○				1					
	工業数学E(確率・統計)	2後	○	2			○				1					
	力学	2前	○	2			○			1						
	材料力学	2前	○	2			○			1			1			
	力学・材料力学演習	2前	○	1				○		2			1			
	量子力学	2後	○	2			○			1						
	機械力学	2後	○	2			○			1						
	機械材料学	2後	○	2			○				1					
	機械力学・機械材料学演習	2後	○	1				○		1	1					
	流体工学基礎	2前	○	2			○			1						
	工業熱力学	2前	○	2			○			1						
	流体工学基礎・工業熱力学演習	2前	○	1				○		2						
	制御工学(機械)	3前	○	2			○			1						
	輸送現象論Ⅰ	3前	○	2			○			1						
	制御工学・輸送現象論Ⅰ演習	3前	○	1				○		2						
	機械加工学	2後	○	2			○				1					
	機械設計及び製図基礎	2後	○	3			○				1				1	
	機械設計製図Ⅰ	3前	○	1							1					
	機械設計製図Ⅱ	3後	○	1						1						
	機械工学実験及び実習Ⅰ	3前	○	1						8	9		5			
	機械工学実験及び実習Ⅱ	3後	○	1						8	9		5			
小計(28科目)	-	-	-	45	0	0	-	-	-	8	9	0	5	0	2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
機械工学コース 基盤教育科目	材料科学	2後			2		○			1							
	機械運動学	1後			2		○								1		
	計測工学(機械)	3前			2		○				1						
	金属材料学	3前			2		○				1						
	流体力学	2後			2		○			1	1						
	エネルギー変換工学	2後			2		○				1						
	輸送現象論Ⅱ	3後			2		○			1							
	電気電子回路	3前			2		○				1						
	応用電子論	3前			2		○				1						
	システム制御工学	3後			2		○				1						
	振動工学	3後			2		○								1		
	弾性力学	3前			2		○				1						
	解析力学(機械)	2後			2		○				1						
	情報工学	2前			2		○							1			
小計(14科目)		-	-	0	28	0	-			6	3	0	1	0	2		
機械工学コース 応用教育科目	化学Ⅱ	1後			2		○			2	2						
	応用量子論	3後			2		○			1							
	ロボット工学	3後			2		○						1				
	溶融加工工学	3後			2		○						1				
	計算機援用工学	3後			2		○			1							
	塑性加工	3後			2		○				1						
	除去加工	3後			2		○			1							
	流体機械システム工学	3前			2		○				1					2	
	数値熱流体力学	3後			2		○			1							
	環境流動学	3後			2		○						1				
	統計力学(機械)	3前			2		○						1				
	交通機械	1前			2		○									3	オムニバス
	生産システム工学	3後			2		○									3	オムニバス
	自動車工学	3前			1		○									2	オムニバス
知的財産権概論	3前			1		○									2	集中・共同	
インターンシップⅡ	3通			1				○	1	1							
専門英語(機械)	4通			2				○	8	9			5				
小計(17科目)		-	-	0	31	0	-		8	9	0	5	0	12			
電気電子工学コース 基幹教育科目	基礎電気回路論Ⅰ	1前	○		2		○			1							
	基礎電気回路論Ⅱ	1後	○		2		○			1							
	電気回路論Ⅰ	2前	○		2		○				1						
	電磁気学Ⅰ	2前	○		3		○			1							
	電磁気学Ⅱ	2後	○		3		○			1							
	電子回路工学Ⅰ	2後	○		2		○			1							
	電気計測実験	2後	○		3				○	2	4						
	電気電子実験Ⅰ	3前	○		3				○		4		3		1		
	電気電子実験Ⅱ	3後	○		2				○	1	5		2		1		
専門英語(電気)	4前	○		1				○	9	10		4					
小計(10科目)		-	-	23	0	0	-		9	10	0	5	0	1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
電気電子工学コース 基盤教育科目	電気電子入門実験	1前			1				○									
	常微分方程式	1後			2		○			1	3							
	ベクトル解析	1後			2		○			1								
	フーリエ解析と偏微分方程式	2前			2		○				1							
	複素関数論	2前			2		○			1								
	確率・統計	2前			2		○			1								
	プログラミング演習	2前			1			○		1								
	情報理論(電気)	2前			2		○			1								
	半導体・デジタル概論	2前			2		○			3								
	電気回路論Ⅱ	2後			2		○				1							
	量子力学Ⅰ	2後			2		○			1								
	解析力学(電気)	2後			2		○				1							
	制御工学Ⅰ	2後			2		○			1								
	固体物理学	2後			2		○			1								
	電子回路工学Ⅱ	3前			2		○			1								
	半導体工学	3前			2		○			1								
	物性物理学	3前			2		○				1							
	パワーエレクトロニクス	3前			2		○				1							
	小計(18科目)	-	-	-	0	34	0	-	-	-	12	5	0	0	0	0		
電気電子工学コース 応用教育科目	社会共創概論	1前			1		○			1	1						7	オムニバス
	化学Ⅱ	1後			2		○			3	1							
	計算機工学	2後			2		○			1								
	アルゴリズムと人工知能	2後			2		○			1								
	信号処理	2後			2		○				1							
	統計力学(電気)	2後			2		○				1							
	情報通信工学	3前			2		○			1								
	量子力学Ⅱ	3前			2		○			1								
	電気電子材料	3前			2		○			1	1							オムニバス
	電気機器工学	2後			2		○				1							
	電気機器設計	3前			2		○									1		
	電気エネルギー工学Ⅰ	3後			2		○									4		
	電気エネルギー工学Ⅱ	4前			2		○									1		
	光・電磁波工学	3後			2		○			1								
	知的システム設計PBL	3後			2		○			1								
	通信システムとネットワーク	3後			2		○			1								
	電子デバイス工学	3後			2		○			2								
	光エレクトロニクス	3後			2		○				1							
	高電圧工学	3後			2		○				1							
	ナノ物性計測学	3後			2		○				2							
	半導体プロセス工学	3前			2		○			1								
	信頼性工学	3後			2		○			1								
	集積回路工学	3後			2		○			1								
制御工学Ⅱ	3後			2		○			1									
電気電子工学特別講義Ⅰ	3前			1		○									4		オムニバス	
電気電子工学特別講義Ⅱ	3後			1		○									4		オムニバス	
電気法規	4前			1		○									1			
通信法規	4前			2		○			1									
インターンシップⅡ	3通			2				○			1							
小計(29科目)	-	-	-	0	54	0	-	-	-	14	10	0	0	0	22			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
電子情報工学コース基幹教育科目	基礎電気回路論Ⅰ	1前	○	2			○			1							
	基礎電気回路論Ⅱ	1後	○	2			○			1							
	半導体・デジタル概論	2前	○	2			○			3							
	確率・統計	2前	○	2			○			1							
	情報理論(電子情報)	2前	○	2			○			1							
	電子回路工学Ⅰ	2後	○	2			○			1							
	固体物理学	2後	○	2			○			1							
	計算機工学	2後	○	2			○			1							
	半導体工学	3前	○	2			○			1							
	電子情報工学実験Ⅰ	3前	○	3					○		4		3		1		
	電子情報工学実験Ⅱ	3後	○	2					○		1		5		2		1
専門英語(電子情報)	4前	○	1					○		4		1		2			
小計(12科目)	—	—	—	24	0	0	—	—	—	11	9	0	6	0	1		
電子情報工学コース基盤教育科目	社会共創概論	1前			1		○			1	1					7	オムニバス
	常微分方程式	2前			2		○			1							
	ベクトル解析	2前			2		○			1							
	フーリエ解析と偏微分方程式	2前			2		○				1						
	プログラミング演習	2前			2		○			1							
	電気回路論Ⅰ	2前			2		○				1						
	電磁気学Ⅰ	2前			3		○			1							
	電磁気学Ⅱ	2後			3		○			1							
	信号処理	2前			2		○				1						
	複素関数論	2後			2		○			1							
	電気計測実験	2後			3				○	2	4						
制御工学Ⅰ	2後			2		○			1								
量子力学Ⅰ	2後			2		○			1								
電子回路工学Ⅱ	3前			2		○			1								
小計(14科目)	—	—	—	0	30	0	—	—	—	7	7	0	0	0	7		
電子情報工学コース応用教育科目	電気電子入門実験	1前			1				○		3						
	化学Ⅱ	1後			2		○			2	2						
	統計力学(電子情報)	2後			2		○				1						
	アルゴリズムと人工知能	2後			2		○			1							
	電気回路論Ⅱ	2後			2		○				1						
	解析力学(電子情報)	2後			2		○				1						
	情報通信工学	3前			2		○			1							
	物性物理学	3前			2		○				1						
	量子力学Ⅱ	3前			2		○			1							
	電気電子材料	3前			2		○			1	1						オムニバス
	半導体プロセス工学	3前			2		○			1							
	信頼性工学	3後			2		○			1							
	集積回路工学	3後			2		○			1							
	通信システムとネットワーク	3後			2		○			1							
	ナノ物性計測学	3後			2		○				2						
	光エレクトロニクス	3後			2		○				1						
	電子デバイス工学	3後			2		○			1							
	高電圧工学	3後			2		○				1						
	パワーエレクトロニクス	3前			2		○				1						
	電子情報工学特別講義Ⅰ	3前			1		○								4		オムニバス
電子情報工学特別講義Ⅱ	3後			1		○								4		オムニバス	
インターンシップⅡ	3通			2				○		1							
電気機器工学	2後			2		○				1							
電気機器設計	3前			2		○								1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員	
	電気エネルギー工学Ⅰ	3後			2		○									4	
	電気エネルギー工学Ⅱ	4前			2		○									1	
	光・電磁波工学	3後			2		○			1							
	知的システム設計PBL	3後			2		○			1							
	制御工学Ⅱ	3後			2		○			1							
	電気法規	4前			1		○									1	
	通信法規	4前			2		○			1							
	小計 (31科目)	—	—	0	58	0	—	—	—	13	11	0	0	0	0	15	
応用化学コース基幹教育科目	微分方程式	2前	○	2			○									1	
	応用化学基礎Ⅰ	1前	○	2			○			11	8		3				
	応用化学基礎Ⅱ	1後	○	2			○			11	8		3				
	分析化学	2前	○	2			○				1						
	分析化学演習	2前	○	1				○			1						
	無機化学A (無機化学の総論)	2前	○	2			○			1							
	無機化学演習A	2前	○	1				○		2							
	無機化学B (無機物質の各論)	2後	○	2			○				1						
	無機化学演習B	2後	○	1				○					1				
	有機化学Ⅰ	2前	○	2			○			1							
	有機化学演習Ⅰ	2前	○	1				○		1							
	有機化学Ⅱ	2後	○	2			○				1						
	有機化学演習Ⅱ	2後	○	1				○			1						
	高分子化学	2後	○	2			○				1						
	高分子化学演習	2後	○	1				○			1						
	物理化学A (熱力学)	1後	○	2			○			1							
	物理化学演習A	1後	○	1				○		1	1						共同
	物理化学B (量子化学)	2前	○	2			○			1							
	物理化学演習B	2前	○	1				○			1						
	物理化学C (化学結合論・分子分光)	2後	○	2			○			1							
	物理化学演習C	2後	○	1				○					1				
	生物化学Ⅰ	2後	○	2			○			1							
生物化学演習Ⅰ	2後	○	1				○					1					
生物化学Ⅱ	3前	○	2			○			1	1						共同	
生物化学演習Ⅱ	3前	○	1				○		1	1						共同	
化学実験Ⅰ	3前	○	4					○	11	8		3					
化学実験Ⅱ	3後	○	4					○	11	8		3					
専門英語(応用化学)	4通	○	4					○	11	8		3					
小計 (28科目)	—	—	—	51	0	0	—	—	—	11	8	0	3	0	1		
応用化学コース基盤教育科目	高分子合成化学	3前			2		○				1						
	有機合成化学	3後			2		○			1							
	有機機能化学	3前			2		○			1							
	反応理論化学	3後			2		○				1						
	電気材料化学	3後			2		○			1							
	高分子物性学	3後			2		○				1						
	無機素材化学	3前			2		○			1							
	生物工学	3後			2		○			1							
	生体材料化学	3後			2		○			1							
	材料物理化学	3後			2		○			1							
	資源利用化学	3後			2		○			1							
	化学工学	3前			2		○									1	
反応工学	3後			2		○									1		
小計 (13科目)	—	—	—	0	26	0	—	—	—	8	3	0	0	0	1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
応用化学コース 応用教育科目	工業化学概論	3後			2		○									1	
	電気工学通論	3前			2		○				1						
	機械工学通論	3後			2		○									1	
	インターンシップⅡ	3通			1				○		1						
	応用化学特別講義Ⅰ	3前			1		○									1	
	応用化学特別講義Ⅱ	3前			1		○									1	
	応用化学特別講義Ⅲ	3前			1		○									1	
	応用化学特別講義Ⅳ	3前			1		○									1	
	小計(8科目)	-	-	-	0	11	0	-	-	-	0	2	0	0	0	0	5
建築学コース 基幹教育科目	建築概論	1前	○	2			○				1						
	建築計画Ⅰ	1後	○	2			○				1						
	建築力学Ⅰ	1前	○	2			○				1						
	建築力学演習Ⅰ	1前	○	1				○			1						
	建築力学Ⅱ	1後	○	2			○				1						
	建築力学演習Ⅱ	1後	○	1				○			1						
	建築計画Ⅱ	2前	○	2			○				1						
	建築環境工学Ⅰ	2前	○	2			○				1						
	建築環境工学Ⅱ	2後	○	2			○				1						
	建築環境工学Ⅲ	2後	○	2			○				1						
	建築都市環境工学演習	2通	○	1				○			1						
	建築設備Ⅰ	3前	○	2			○				1						
	建築構造材料	2前	○	2			○				1						
	鉄筋コンクリート構造	3前	○	2			○				1						
	構造材料実験法	3前	○	2			○				1						※実験
	建築生産Ⅰ	3前	○	2			○				1					1	
	建築生産Ⅱ	3後	○	2			○									1	
	鉄骨構造	2後	○	2			○				1						
	都市・地域計画	2後	○	2			○				1						
	日本建築史	3前	○	2			○				1						
	西洋・近代建築史	2後	○	2			○				1						
	建築行政	3後	○	2			○									1	
	建築図学	1通	○	2				○			1						
	建築設計製図Ⅰ	2前	○	2				○			2	3					共同
	建築設計製図Ⅱ	2後	○	2				○			1	3				1	共同
	建築設計製図Ⅲ	3前	○	3				○			2	2				1	共同
	防災都市工学	3前	○	2			○				1						
工業数学	1後	○	2			○									1		
建築英語	4前	○	1				○			6	6					共同	
建築家職能論	3後	○	1			○				2	1				1	オムニバス	
建築企画設計	4前	○	2				○			6	6					共同	
小計(31科目)	-	-	-	58	0	0	-	-	-	6	6	0	0	0	0	7	
建築学コース 基盤教育科目	ファシリティマネジメント	2後			2		○				2						オムニバス
	建築意匠	3前			1		○				1						
	景観設計	3前			2		○				1						
	都市環境	3前			2		○				1						
	建築力学Ⅲ	2前			2		○				1						
	木質構造	3前			2		○				1						
	建築生産Ⅲ	3前			2		○									3	オムニバス
	造形実習Ⅰ	1後			1				○							1	
	造形実習Ⅱ	2前			1				○							1	
小計(9科目)	-	-	-	0	15	0	-	-	-	3	4	0	0	0	5		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(の教員)	
建築学コース 応用教育科目	建築構法	3後			2		○			1	1						オムニバス
	建築設備Ⅱ	3後			2		○			1							オムニバス
	建築設備設計法	3後			2		○										オムニバス
	建築基礎構造	3後			2		○										
	建築構造設計演習	4前			1			○			1						
	建築設計製図Ⅳ	3後			3			○		2	2						共同
	防災まちづくり工学	3後			2		○										
	防災安全工学	3後			2		○				1						
	インターンシップⅡ	3通			2				○		1						
	小計(9科目)	—	—	—	0	18	0	—	—	—	3	5	0	0	0	9	
情報工学コース 基幹教育科目	確率統計学	1前	○		2		○			1							
	計測とデータ	2前	○		2		○				1						
	情報倫理と知的財産	3前	○		2		○				1						
	技術英語	3後	○		2			○		1							
	専門英語Ⅰ	4前	○		1			○		6	5	3					
	専門英語Ⅱ	4後	○		1			○		6	5	3					
	情報工学概論	1前	○		2		○			1		1					
	離散数学	1後	○		2		○			1							
	複素解析	1後	○		2		○			1							
	データサイエンス演習	1後	○		1			○					5				
	数理論理学	2前	○		2		○					1					
	常微分方程式	2前	○		2		○			1							
	フーリエ・ラプラス解析	2前	○		2		○			1							
	論理システム設計	2前	○		2		○			1							
	情報理論	2前	○		2		○			1							
	プログラミング論	2前	○		2		○				1						
	プログラミング演習	2前	○		1			○					4				
	情報工学実験Ⅰ	2後	○		3				○		5		5				
	計算機アーキテクチャ	2後	○		2		○					1					
	データ構造・アルゴリズム論	2後	○		2		○					1					
情報工学実験Ⅱ	3前	○		3						5		5					
情報工学実験Ⅲ	3後	○		3					6	5	3						
応用情報学	4前	○		2		○			1								
小計(23科目)	—	—	—	45	0	0	—	—	—	6	5	3	5	0	0		
情報工学コース 基盤教育科目	電気回路	2前			2		○			1							
	電磁気学	2前			2		○			1							
	データベース	2後			2		○				1						
	コンピュータネットワーク	2後			2		○					1					
	電子回路	2後			2		○				1						
	信号処理	2後			2		○			1							
	画像処理	2後			2		○			1							
	オートマトン	3前			2		○			1							
	計算機ハードウェア設計	3前			2		○			1							
	人工知能と機械学習	3前			2		○			1							
	情報工学特別講義Ⅰ	3通			2		○			1	1					6	
	情報工学特別講義Ⅱ	4通			2		○			1	1					6	
	実践開発演習	3前			2			○		1		1				4	集中
	インターンシップⅡ	2通・3通			1				○	1		1					
インターンシップⅢ	2通・3通			1				○	1		1						
小計(15科目)	—	—	—	0	28	0	—	—	—	6	4	3	0	0	14		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
情報工学コース 応用教育科目	オペレーティングシステム	3前			2		○			1							
	コンパイラ	3前			2		○				1						
	無線情報通信	3前			2		○					1					
	IoTシステム	3前			2		○				1						
	ヒューマンインタフェース	3前			2		○			1							
	サイバー空間設計	3前			2		○				1						
	暗号と情報セキュリティ	3後			2		○			1							
	組込みシステム	3後			2		○			1							
	光情報伝送	3後			2		○			1							
	環境センシング	3後			2		○				1						
	ニューロコンピューティング	3後			2		○			1							
小計 (11科目)	—	—	—	0	22	0	—	—	—	5	4	1	0	0	0		
クロス科目	メカトロニクス工学特論	4前			2		○			1							
	ロボット工学特論	4前			2		○				1						
	機械制御工学特論	4前			2		○			1							
	機力・制御・情報演習Ⅱ	4後			1			○		1	1						
	機械知能学特論	4前			2		○			1							
	接合工学特論	4前			2		○				1						
	接合工学演習	4後			1			○			1						
	NC加工法実習	4前			1				○		1						集中
	ナノテクノロジー特論	4前			2		○			1							
	流体工学特論	4前			2		○			1							
	エネルギー環境機械特論	4後			2		○				1						
	応用熱工学特論	4前			2		○				1						
	応用熱工学演習	4後			2			○			1						
	流動現象学特論	4前			2		○			1							
	環境流体熱工学演習	4後			2			○			1						
	電機制御特論Ⅰ	4後			2		○			1			1				隔年
	電機制御特論Ⅱ	4前			2			○		1							隔年
	制御工学特論Ⅰ	4前			2		○			1							隔年
	制御工学特論Ⅱ	4前			2			○		1	1						隔年
	電気エネルギーシステム特論	4前			2		○				1						隔年
	情報処理特論	4後			2		○			1							隔年
	通信システム特論Ⅰ	4前			2		○				1						
	通信システム特論Ⅱ	4前			2		○			1			1				
	計算機工学特論Ⅰ	4前			2		○			1							隔年
	オプトエレクトロニクス特論	4前			2		○				1						隔年
	半導体工学特論	4前			2		○			2							
	先端マイクロ波フォトニクス特論	4前			2		○			1			1				隔年
	誘電体工学特論	4後			2		○				1						隔年
	有機エレクトロニクス特論	4前			2		○				1						隔年
	量子エレクトロニクス特論	4後			2		○				1						隔年
	電子デバイスプロセス設計特論	4前			2		○			1							隔年
	物性物理学特論	4後			2		○				1						
	物質情報学特論	4前			2		○			1			1				
物質情報学PBL演習	4後			2			○		1			1					
ナノ材料工学特論	4前			2		○				1							
磁性体工学特論	4前			2		○				1							
半導体デバイス特論	4前			2		○			1								
高分子設計化学特論	4後			2		○				1						隔年	
高重合化学特論	4前			2		○				1						隔年	
応用有機反応化学特論	4前			2		○			1							隔年	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員		
	応用有機合成化学特論	4後				2	○				1						隔年
	有機機能化学特論	4前				2	○				1						隔年
	有機物性化学特論	4前				2	○				1						隔年
	理論化学特論	4前				2	○				1						隔年
	計算化学特論	4後				2		○			1						隔年
	無機反応化学特論	4前				2	○				1			1			隔年
	応用固体化学特論	4後				2	○				1						隔年
	材料物理化学特論	4後				2	○				1						隔年
	量子化学特論	4前				2	○				1						隔年
	分析化学特論	4後				2	○				1						隔年
	生物機能化学特論	4後				2	○				1						隔年
	応用生物学特論	4後				2	○				1						隔年
	材料応用化学特論	4後				2	○				1						隔年
	界面応用化学特論	4前				2	○				1						隔年
	素材化学特論	4後				2	○				1						隔年
	生体材料化学特論	4後				2	○				1						隔年
	機能性材料化学特論	4後				2	○				2						隔年
	組織工学材料特論	4前				2	○				1						隔年
	計算モデル特論	4前				2	○						1				隔年
	並列ソフトウェア特論	4前				2	○						1				隔年
	マルチメディア処理特論	4前				2	○				1						隔年
	通信信号処理特論	4後				2	○				1						隔年
	IoTシステム特論	4前				2	○				1						隔年
	データサイエンス特論	4前				2	○				1						隔年
	XRテクノロジー特論	4後				2	○				1						隔年
	医用画像処理特論	4後				2	○				1						隔年
	数理情報学特論	4後				2	○				1						隔年
	コンピュータ・アーキテクチャ特論	4後				2	○				1						隔年
	情報ネットワーク特論	4前				2	○				1						隔年
	知能化システム特論	4前				2	○				1						隔年
	ヒューマン・インタフェース特論	4前				2	○				1						隔年
	信号計測システム特論	4後				2	○				1						隔年
	小計 (72科目)	-	-	0	0	141	-				32	31	2	5	0	0	
自由科目	職業指導	2・3・4後				1	○										1
	小計 (1科目)	-	-	0	0	1	-				0	0	0	0	0		1
教職に関する科目	工業科教育法 I	3前				2	○										1
	工業科教育法 II	3後				2	○										1
	教育学	2前・後				2	○										1
	教職入門A	1後				2	○										1
	教職入門B	1後				2	○										1
	教育行政学	2後				2	○										1
	教育社会学	2後				2	○										1
	教育心理学	2前・後				2	○										1
	特別支援教育入門	2前				2	○										1
	教育課程論A	2前				2	○										1
	総合的な学習の時間の指導法	3前				2	○										1
	特別活動論	2前・後				2	○										1
	教育技術論A (ICT活用を含む)	2後				2	○										1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考																																																				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員																																																			
	教育技術論B (ICT活用を含む)	2前				2	○									1																																																			
	生徒指導・進路指導論	2前・後				2	○									1																																																			
	教育相談	2前・後				2	○									1																																																			
	教育実習 (高等学校)	4前				3			○							1																																																			
	教育実習 (高等学校)	4前				2			○							1																																																			
	教育実習 (高等学校)	4前				1			○							1																																																			
	教職実践演習 (高)	4後				2		○			1					1																																																			
	小計 (20科目)	-	-	0	0	40	-	-	-	1	0	0	0	0	0	15																																																			
合計 (657科目)				-	-	357	680	222	-	-	45	38	3	19	0	459																																																			
又は称号	学士 (工学)			学位又は学科の分野				工学関係																																																											
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>機械工学コース</th> <th>電気電子工学コース</th> <th>応用化学コース</th> <th>建築学コース</th> <th>情報工学コース</th> <th>電子情報工学コース</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共通教育科目</td> <td>39</td> <td>45</td> <td>37</td> <td>42</td> <td>39</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>学部共通科目</td> <td colspan="6">8</td> </tr> <tr> <td>専門教育科目</td> <td>45</td> <td>23</td> <td>51</td> <td>58</td> <td>54</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>必修</td> <td>34</td> <td>52</td> <td>26</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>選択</td> <td>11</td> <td>71</td> <td>25</td> <td>41</td> <td>32</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>87</td> <td>83</td> <td>85</td> <td>83</td> <td>84</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>126</td> <td>128</td> <td>122</td> <td>125</td> <td>123</td> <td>128</td> </tr> </tbody> </table>								機械工学コース	電気電子工学コース	応用化学コース	建築学コース	情報工学コース	電子情報工学コース	共通教育科目	39	45	37	42	39	45	学部共通科目	8						専門教育科目	45	23	51	58	54	24	必修	34	52	26	17	22	51	選択	11	71	25	41	32	27	小計	87	83	85	83	84	83	合計	126	128	122	125	123	128	1 学年の学期区分		2期		
	機械工学コース	電気電子工学コース	応用化学コース	建築学コース	情報工学コース	電子情報工学コース																																																													
共通教育科目	39	45	37	42	39	45																																																													
学部共通科目	8																																																																		
専門教育科目	45	23	51	58	54	24																																																													
必修	34	52	26	17	22	51																																																													
選択	11	71	25	41	32	27																																																													
小計	87	83	85	83	84	83																																																													
合計	126	128	122	125	123	128																																																													
							1 学期の授業期間		15週																																																										
							1 時限の授業の標準時間		90分																																																										

(1) 収容定員を増加する組織の概要

①収容定員を増加する組織の概要

(現行)

組織	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員	所在地
三重大学工学部 総合工学科	400	30	1,660	三重県津市栗真 町屋町1577
(内数) 情報工学コース	65	0	260	同上

※情報工学コース入学定員65名の内訳：募集人員（1年次）60名

総合工学コースからの配属（2年次）5名

(増加後)

組織	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員	所在地
三重大学工学部 総合工学科	430	35	1,790	三重県津市栗真 町屋町1577
(内数) 情報工学コース	95	5	390	同上

②収容定員を増加する組織の特色

三重大学工学部総合工学科（以下、本学科）は、学科内に専門分野ごとの5コース（機械工学コース、電気電子工学コース、応用化学コース、建築学コース、情報工学コース）を設置している。令和7年度には、半導体分野や統計学、情報工学に関する教育・研究を行う電子情報工学コースを新たに設置し、6コース体制となる予定である。

本学科は、地域の活性化に貢献し、世界に通用する学問及び社会の進歩を支える、ものづくりに不可欠な技術の修得と、社会で活躍するための幅広い学識、工学的専門性、実践力や問題解決能力を有した人材を育成することを目的とし、情報工学コースにおいては、情報工学を中心として、それに電気電子工学、物理工学も含めた多面的技術素養を有する情報系技術者を養成している。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向

我が国が目指すべき未来社会像として、内閣府の第5期科学技術基本計画にSociety5.0が掲げられ、その具現化の前提となるデジタルトランスフォーメーショ

ン (DX) の重要性が広く認知されるようになった。しかしこれと同時に、社会活動を支える産業、教育、行政等のあらゆる分野において、DXに必要な情報技術・物資・インフラストラクチャ、そしてそれらを駆動する人材が、不十分かつ偏在的であることも露呈した。こうした状況は、第6期科学技術・イノベーション基本計画に際しても調査され、その一つとして、我が国の高度情報系人材が2030年には54.5万人ほど不足するという試算が出されている。

本学が所在する三重県は、北勢地域を中心に我が国の産業を代表する半導体製造企業や自動車関連企業、それらを支える関連企業が集積している。これらの製造現場においては、一連のセンシング・データ処理・自動制御などの情報工学技術が用いられており、特に近年は、その完全自動化・知能化による高効率化に向けた高度情報人材の確保が課題となっている。

また、三重県では令和4年12月に、「みえのデジタル社会の形成に向けた戦略推進計画」を策定し、デジタル社会の形成に向け、人々の生活の中心となる「暮らし」、暮らしを支える「しごと」、そして社会を支える「行政」の分野で取組を進めており、これらの取組を進めていく上で、産学官民が連携した高度情報人材の育成が求められている。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

総務省統計局の人口推計（2022年10月1日現在）から、日本全体の18歳人口は以下のとおり推移していくことが考えられ、2034年の18歳人口は対2023年比約91%となることが推察される。

また、本学科への志願者が多い三重県、愛知県の場合を見ると、2034年の18歳人口は対2023年比三重県で約85%、愛知県で約92%となることが推察される。

●18歳人口の推移

年	日本全体 (対2023年比)	三重県 (対2023年比)	愛知県 (対2023年比)
2023年	107.7万人	15,740人	69,057人
2034年	97.8万人 (約91%)	13,445人 (約85%)	63,656人 (約92%)

(出典：総務省統計局 人口推計2022年10月1日現在)

※2023年は推計時点で17歳、2034年は推計時点で7歳の人口を記載している。

上記のとおり、今後18歳人口の減少が想定されるが、本学科の志願者数や定員充足状況を踏まえると、引き続き十分な志願者が獲得できると考える。

③収容定員を増加する組織の主な学生募集地域

令和2年～令和6年度における本学科及び本学科情報工学コースの志願者、入学者に占める東海圏（愛知県、三重県、岐阜県、静岡県）の平均割合は、以下のとおりである。

学科名	志願者	入学者
総合工学科 (情報工学コース)	平均 73.6% (平均 72.5%)	平均 76.2% (平均 75.3%)

また、東海圏（愛知県、三重県、岐阜県、静岡県）及び近畿圏（大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県）の出身者で志願者、入学者の90%以上を占めている（参考資料1）。

以上から、本学科及び本学科情報工学コースの主な学生募集地域は、三重県、愛知県を中心とする東海圏、近畿圏といえることができる。

④既設組織の定員充足の状況

本学の直近6年間の入学定員の充足状況（参考資料2）を見ると、いずれの学部・学科等も入学定員を充足しており、安定して学生を確保できている。

また、本学科情報工学コースの直近5年間の入試状況（参考資料1）では、平均志願倍率 4.4 倍と安定して志願者を確保していることから、質の高い学生を確保しつつ、中長期にわたって定員を充足できると考えている。

なお、工学部全体の状況と比較した場合、情報工学コースにおいては志願者数と比較して受験者数の割合が低い状況であるが、これは情報工学コースの一般選抜における後期日程の志願者数が、前期日程の志願者数の約2倍であることが原因と考えられる（参考資料3）。一般的に前期日程に比べると、後期日程は受験率が約半分程度となっており、後期日程の志願者数が多ければ多いほど、志願者数に対する受験者数の割合が低くなってしまいう傾向にある。直近5年平均の前期日程の受験率を工学部全体と比較した場合、情報工学コースの受験率は94.6%であり、工学部全体の受験率の95.6%と同程度となっている。同様に、後期日程の受験率で比較した場合、情報工学コースの47.3%は工学部全体の中で最も高い値となっている。

また、令和2年～令和4年度の3年間において、募集人員60名に対して入学者が1名又は2名少ない状況となっているが、これは令和元年度の学部改組で6学科から1学科5コース制となって以降、学科として定員管理を行ってきたためである（参考資料1）。そのため、情報工学コースとしての募集人員60名に対して入学者数が達しない場合であっても、総合工学科の総入学数として定員に達することを優先してきた状況にある。

但し、令和7年度以降は、高度情報人材の育成に資する入学者数を確保するため、情報工学コースとしての募集人員95名で定員管理を行う予定である。

⑤高校生へのアンケートを用いた志願者数及び受験者数の考察

本学科情報工学コースの定員増を行った場合の募集人員 95 名に対する充足見込みを考察するため、直近 5 年間（令和 2～6 年度）の入試において、本学科情報工学コースへの志願者数が上位である三重県内 12 高校に、理系コースの 2 年生及び 3 年生を対象としたアンケートの実施を依頼し、承諾を得た 11 高校を対象に実施した（参考資料 4-1～4-5）。

実施したアンケート調査実施校と学年ごとの回答者数は表 1 のとおりであり、学年別では、2 年生は J、K 高校を除く 9 校、3 年生は F、G、H、I 高校を除く 7 校の生徒からアンケートの回答があった。

直近 5 年間の情報工学コース志願者数 1,328 名のうち、アンケートの回答があった高校の志願者数及び全体に占める割合を学年別に表 2-1～2-2 に示す。2 年生から回答のあった 9 校出身の志願者数は 336 名（25.3%）（表 2-1）、3 年生から回答のあった 7 校出身の志願者数は 244 名（18.4%）であった（表 2-2）。

表 1：アンケート調査実施校と学年ごとの回答者数

高校名	2 年生	3 年生
A 高校	167	156
B 高校	231	221
C 高校	273	194
D 高校	44	48
E 高校	157	152
F 高校	112	
G 高校	212	
H 高校	169	
I 高校	120	
J 高校		95
K 高校		205

表 2-1 : 2年生から回答があった9校出身の志願者数と占める割合 (直近5年間)

	志願者数
情報工学コース全体	1,328
(内訳)	
A 高校	43
B 高校	44
C 高校	36
D 高校	25
E 高校	32
F 高校	51
G 高校	55
H 高校	27
I 高校	23

} 336
25.3%

表 2-2 : 3年生から回答があった7校出身の志願者数と占める割合 (直近5年間)

	志願者数
情報工学コース全体	1,328
(内訳)	
A 高校	43
B 高校	44
C 高校	36
D 高校	25
E 高校	32
J 高校	37
K 高校	27

} 244
18.4%

アンケート回答者の回答結果を表 3～表 10 に示す。

また、アンケートの回答があった各高校の学年別理系コースの人数を表 11 に示す。

表 3 : アンケート回答者のうち、回答者の所属コースについての回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
理系コース	1,221	874	2,095	82.0%
文系コース	215	177	392	15.3%
まだ決まっていない	49	20	69	2.7%

表4：問 1. 「進学を希望する大学の所在地はどこですか。あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
①三重県内	378	280	658	25.7%
②東海地方（三重県以外）	296	230	526	20.6%
③近畿地方	273	183	456	17.8%
④所在地はこだわらない	538	378	916	35.8%

表5：問 2. 「どのような学問に興味がありますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
①工学系	645	429	1,074	32.0%
②理学系	334	201	535	15.9%
③農学系	162	135	297	8.8%
④医学・歯学・薬学系	503	308	811	24.2%
⑤その他	356	285	641	19.1%

表6：問 3. 「工学系の中ではどのような分野に興味がありますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
①情報工学	493	351	844	26.2%
②機械工学	353	218	571	17.7%
③電気電子工学	276	199	475	14.7%
④化学	385	305	690	21.4%
⑤建築学	389	255	644	20.0%
⑥その他	238	191	429	13.3%

表7：問 4. 「三重大学工学部情報工学コースの募集人員が増員する場合、受験を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
①受験したいと思う	79	38	117	4.6%
②条件が合えば受験したい	516	304	820	32.1%
③受験したいとは思わない	890	729	1,619	63.3%

表 8：問 4. 「三重大学工学部情報工学コースの募集人員が増員する場合、受験を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果（理系コースの生徒のみ）

項目	2 年生	3 年生	合計	割合
①受験したいと思う	73	38	111	5.3%
②条件が合えば受験したい	446	285	731	34.9%
③受験したいとは思わない	702	551	1,253	59.8%

表 9：問 5. 「三重大学工学部情報工学コースに合格したら、入学を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2 年生	3 年生	合計	割合
①入学したいと思う／とても興味がある	536	325	861	33.7%
②入学したいとは思わない	949	746	1,695	66.3%

表 10：問 5. 「三重大学工学部情報工学コースに合格したら、入学を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果（理系コースの生徒のみ）

項目	2 年生	3 年生	合計	割合
①入学したいと思う／とても興味がある	474	296	770	36.8%
②入学したいとは思わない	747	578	1,325	63.2%

表 11: アンケートの回答があった各高校における学年別の理系コースの人数

高校名	2 年生	3 年生
A 高校	166	171
B 高校	222	208
C 高校	100	120
D 高校	161	166
E 高校	168	168
F 高校	140	
G 高校	240	
H 高校	176	
I 高校	172	
J 高校		150
K 高校		230
合計	1,545	1,213

今回のアンケート調査の回答者のうち、「理系コース」と回答した生徒数は、2,095名（2年生1,221名、3年生874名）であり、回答者全体の82%であった（表3）。

また、問1で進学を希望する大学の所在地を三重県内と回答した生徒は658名（25.7%）であった（表4）。

次に問2で工学系に興味を持っていると回答した生徒は1,074名（32.0%）となっており（表5）、問3で工学系の中で情報工学の分野に興味を持っていると回答した生徒は844名（26.2%）と、今回アンケートを回答した生徒の中では、本学の工学系の専門分野の中で、情報工学に興味を持つ生徒の数が最も多いことが明らかとなった（表6）。

さらに問5において、本学科情報工学コースに「①入学したいと思う／とても興味がある」と回答した生徒の数は2年生536名、3年生325名（表9）であり、工学部を受験する可能性の高い理系コースの生徒のみを対象とした場合でも、2年生474名、3年生296名（表10）と、アンケートを実施した三重県内の11高校だけでも募集人員（95名）の3倍以上の生徒が入学を希望していることが明らかとなった。

しかしながら、上記で入学を希望すると回答した生徒のうち、諸々の事情により、実際には入学しない生徒も存在することになると考えられる。

よって、次のように見込まれる志願者数（見込志願者数）、見込まれる受験者数（見込受験者数）の算出を行った。

具体的に受験の可能性について質問した問4において、理系コースを選択した生徒のみを抽出したのが（表8）である。その際に「①受験したいと思う」又は「②条件が合えば受験したい」と回答した生徒数は、それぞれ次のとおりであった。

- ・「①受験したいと思う」の回答数 2年生 73名 3年生 38名
- ・「②条件が合えば受験したい」の回答数 2年生 446名 3年生 285名

これらの回答者のうちには、諸々の事情により実際には本コースを受験しない者もいると思われるため、「①受験したいと思う」と回答した生徒の90%、「②条件が合えば受験したい」と回答した生徒の10%が志願すると仮定したときに見込まれる志願者数を算出する。

- ・「①受験したいと思う」に90%、「②条件が合えば受験したい」に10%を乗じた数
2年生 (73名×90%) + (446名×10%) = 65.7名 + 44.6名 ≒ 110名
3年生 (38名×90%) + (285名×10%) = 34.2名 + 28.5名 ≒ 63名

理系コースのアンケート回答者数（表3より2年生1,221名、3年生874名）のうち、上記の数が占める割合は、2年生9.01%（110名/1,221名）、3年生7.21%（63名/874名）となる。

この割合をもとに、アンケートの回答があった高校（2年生は9校、3年生は7校）において見込志願者数を算出するため、アンケートの回答があった各高校の学年ごとの理系コース人数の合計（表 11 より 2 年生 1,545 名、3 年生 1,213 名）に乗じると、次のとおりとなる。

- ・各学年においてアンケート回答校（2年生9校、3年生7校）見込志願者数
2年生 $1,545 \text{ 名} \times 9.01\% \approx 139 \text{ 名}$
3年生 $1,213 \text{ 名} \times 7.21\% \approx 87 \text{ 名}$

また、冒頭で述べた通り、直近5年間の情報工学コース志願者数のうち、アンケートの回答があった高校出身の志願者が全体に占める割合は、2年生が25.3%、3年生が18.4%であることから、全体の見込志願者数は以下のとおり算出される。

- ・全体の見込志願者数
2年生 $139 \text{ 名} \times (1/0.253) \approx 549 \text{ 名}$
3年生 $87 \text{ 名} \times (1/0.184) \approx 473 \text{ 名}$

次に、上記で求めた全体の見込志願者数をもとに、全体の見込受験者数を求める。全体の見込志願者数に対して、情報工学コースの過去5年間の平均受験率63%（参考資料1より168/266）を乗じる。

- ・全体の見込受験者数
2年生 $549 \text{ 名} \times 63\% \approx 346 \text{ 名}$
3年生 $473 \text{ 名} \times 63\% \approx 298 \text{ 名}$

これらのことから、募集人員（95名）に対して志願者数は5倍程度、受験者数は3倍程度が見込まれる。

情報工学コースの過去5年間の志願者数及び受験者数の実績に加えて、上記で求めた3年生及び2年生の全体の見込志願者数、見込受験者数を令和7年度、令和8年度の推定数としてグラフで表した（参考資料5）。このグラフからも令和7年度及び令和8年度について、募集人員（95名）に対して十分な学生確保の見込みがあるといえる。

さらに、年度によっては志願者数が下振れとなる場合が想定されるため、下振れがあった場合の志願者数、受験者数について考察する。

情報工学コースの過去5年平均の志願者数及び受験者数は以下のとおり(参考資料1)。

- ・志願者数 266名
- ・受験者数 168名

過去5年のうち最も低い値については以下のとおり(参考資料1)。

- ・志願者数 196名(令和5年度)
- ・受験者数 120名(令和5年度)

この値より、過去5年間で最も下振れとなった場合の係数は以下のとおりとなる。

- ・志願者数 $196/266 \approx 73.7\%$
- ・受験者数 $120/168 \approx 71.4\%$

最も下振れの場合の係数を、見込まれる全体の見込志願者数及び見込受験者数に乗じると以下のとおりとなる。

- ・全体の見込志願者数(下振れの場合)
 - 2年生 549名 $\times 73.7\% \approx 405$ 名
 - 3年生 473名 $\times 73.7\% \approx 349$ 名
- ・全体の見込受験者数(下振れの場合)
 - 2年生 346名 $\times 71.4\% \approx 247$ 名
 - 3年生 298名 $\times 71.4\% \approx 213$ 名

これらのことから、下振れした場合でも、募集人員(95名)に対して志願者数は3倍程度、受験者数は2倍程度が見込まれ、直近5年間での最低受験倍率(令和5年度:2倍)を上回る。

以上のことから、適切な選抜を実施した上で、募集人員を十分に確保できると考えられる。

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学部では、学生募集のためのPR活動として、以下の取組を進めており、今後も継続して実施していく。

A) オープンキャンパス

本学では、オープンキャンパスを夏(8月)と秋(10月)の年2回開催し、学部ガイダンスや模擬授業、研究室見学、学内施設見学等の企画を実施することで、本学での具体的な学びのイメージを持ってもらう機会を提供している。

令和5年度は夏・秋合わせて、全学部で延べ約4,000名が来場し、工学部が実施する企画には約1,600名が参加した。令和6年度以降も同規模程度の実施を予定しているが、より充実した内容となるよう見直しを行う。

B) 進学説明会(高校訪問)

本学では、本学教員が依頼のあった高等学校を訪問し、大学や学部の教育・研究内容、入試制度等について説明を行っている。令和5年度は県内・県外の高等学校合わせて12校を訪問し、延べ1,075名(工学部に限定した説明会は5校延べ239名)の高校生に説明を行った。令和6年度以降も同様の規模での実施を予定している。

C) 進学相談会

本学では、入試担当教職員が、受験産業等が実施する大学進学説明会場(オンライン含む)に出向き、大学や学部の教育・研究内容、入試制度等について説明を行っている。令和5年度は27会場にブースを出展し、延べ1,047名の本学への受験を希望する者やその保護者に説明を行った。令和6年度以降も、東海・近畿地区を中心に実施を予定している。

D) 高大連携授業(学問探究セミナー)

本学では、高大接続の一環として、県内の高校生を対象(オンラインで実施のプログラムについては県外者も受講可能)に大学の授業を実際に体験できる学問探究セミナーを開講している。令和5年度は27プログラムを実施し、延べ481名が参加した。令和6年度以降も内容を充実したうえで、実施を予定している。

E) 出前授業

本学では、各学部において、高校生が大学での専門的授業を体験し、将来の進路選択に役立ててもらえる機会として「出前授業」を実施している。工学部では、各教員の専門分野に合わせ86の講義テーマを設定している。令和5年度は10プログラムを実施し、延べ514名が参加した。令和6年度以降に向け、魅力あるプログラムの開発を進め、より多くの高校生に参加してもらえよう取り組んでいく。

F) 広報誌

本学では、本学に興味のある受験生やその保護者等に向けて、各学部の概要のほか、本学の教育や研究、施設、学生生活等を紹介した大学案内を発行している。また、工学部においても、工学部各コースの概要等を紹介した工学部案内を発行している。令和5年度は、大学案内2万部、工学部案内4千部を発行し、オープンキャンパス、進学相談会等の本学が実施するイベントや受験産業が運営する大学資料取り寄せサイトを通して、希望者に配布している。令和6年度以降に向け、引き続き魅力ある広報誌の作成に取り組んでいく。

G) Web サイト

本学では、本学に興味のある高校生・受験生に向けて、各学部の紹介や入試情報、本学の施設紹介（バーチャルキャンパスツアー）、イベント情報等を掲載した『高校生・受験生応援サイト』を開設している。施設紹介では、360°カメラを用いたVRキャンパスツアーを導入しており、Web上で学内施設やキャンパスの雰囲気を感じられるようになっている。令和5年度は、延べ9,143人（令和5年12月5日現在）の訪問者があった。今後も、見やすく魅力あるWebサイトの作成に取り組んでいく。

H) 大学見学

本学では、高校生やその保護者に本学や各学部の教育・研究、学生生活、入試制度、就職状況等を理解してもらうため、高等学校単位で大学見学を受け付け、実施している。令和5年度は、9高校から延べ238名が参加した。令和6年度以降も同規模での実施を予定している。

イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標

既存学科の収容定員を増加する計画であるため、アで記載したPR活動を継続して実施していく。

また、令和5年度入学者に対し行ったアンケート（工学部入学者数412名のうち、313名が回答）によると、工学部を受験するうえで参考とした情報として、『本学ホームページ』、『高校の先生からの情報・進路指導資料』、『塾・予備校の先生からの情報・進路指導資料』、『大学案内』と回答した学生が多かった。そのため、情報工学コースでは、特にホームページ等のWebコンテンツ強化や高等学校教員等への情報提供の強化、大学案内等の広報誌の充実を図っていく。（参考資料6）

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を増加する組織での入学者の見込み数

ア、イで記載した取組を確実に実施することで、収容定員を増加した場合でも安定的に入学者400名を確保できると考えている。

また、収容定員を増加する本学科情報工学コースの過去3年の平均志願倍率は約4.5倍であり、収容定員を増加した場合も安定的に入学者95名を確保できると考える。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

○競合校の選定理由

本学科の競合校として、岐阜大学工学部電気電子・情報工学科情報コースと静岡大学情報学部情報科学科を選定した。主な選定理由は、以下の2点である。

1) 国立大学であること

学生納付金が同一であること、また本学科と比較的近い受験者層を有していると想定されることから、上記2校を選定した。

2) 出身高校の所在地県別入学者数の分析（令和5年度学校基本調査）

令和5年度学校基本調査の「出身高校の所在地県別入学者数」より、本学科の主な学生募集地域の1つである愛知県に所在する高校の出身者の国立大学への入学状況を分析した。分析の結果、愛知県が最も多く、続いて岐阜県、静岡県、三重県であったため、上記2校を選定した。

○競合校との比較分析

本学科では、学部修士一貫コース（3+3年）を導入しており、大学院博士前期課程に進学する学生の約半数は、同コースの選択が可能となっている。

学部修士一貫コースを選択した学生は、学部4年次において、先んじて大学院授業科目の履修が可能となるほか、学部4年次の必修科目である「卒業研究」に代わって、企業等の外部機関で2から4カ月程度のインターンシップを行う「長期インターンシップ」を履修出来る制度もあり、他の競合校にはない特徴となっている。

また、立地条件については、3校が所在する東海地方の中で、最も人口が多い愛知県名古屋市の主要ターミナル名古屋駅からの所要時間で比較を行った。本学は約1時間15分、岐阜大学は約55分、静岡大学（浜松キャンパス）は新幹線を使用し約1時間（各大学のアクセス案内から引用）であり、3校とも類似した状況にある。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校となる、岐阜大学工学部電気電子・情報工学科情報コースと静岡大学情報学部情報科学科の入学志願状況等（参考資料7）であるが、2校とも安定した学生確保ができていると考えられる。また、本学科も含めた3校とも、高い入学志願倍

率を保っていることから見ても、中長期的に安定した学生確保が見込まれる環境であると考える。

ウ 学生納付金等の金額設定の理由

本学科の初年度納付金は入学金 282,000 円、授業料年額 535,800 円の合計 817,800 円である。これは「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」で規定された国立大学法人の標準額と同一であり、妥当な金額であると考える。

③人材需要に関するアンケート調査等

情報教育・人材に対する国内及び三重県内の期待と要請は、本学部総合工学科情報工学コースの卒業生並びに大学院工学研究科情報工学専攻博士前期課程の修了生に対する求人数に表れており、令和元年度から令和5年度は当該卒業生・修了生1人当たり約3社の求人募集（各社1～5名募集）が寄せられている。また、我が国の高度情報系人材が2030年には54.5万人ほど不足するという試算が出されていることから、中長期的に社会的な人材需要は高いと考えられる。

（4）新設組織の定員設定の理由

本学では基礎情報教育に加えて、より高度な情報教育の拡充・伸展を推し進めるため、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が行う令和5年度大学・高専機能強化支援事業の「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援」（支援2）に申請して採択を得た。この支援を受け本学では、大学院工学研究科における博士前期課程情報工学専攻の募集定員を令和11年度までに25名増員して55名とする計画を立てている。これに先立ち、近年の本学科学生の大学院進学率等を考慮して、入学志願者増による優秀学生の確保のため、令和7年度から本学部総合工学科情報工学コースの募集定員を編入学と合わせて35名増員して100名とすることとした。これにより、情報工学コースの収容定員は255名から390名（現在の約1.5倍）に増加する。

情報工学コースの増員数は、情報工学専攻の増加後の定員55名を充足するための人数を、直近3年間の大学院進学率や編入学生の進学率等から計算したものである。

工学部総合工学科 入試実施状況

工学部総合工学科（入学定員400名）

入試年度	志願者数 (志願倍率)	受験者数 (受験倍率)	合格者数	入学者数
R2	1,628 (4.07)	1,157 (2.89)	443	404
R3	1,666 (4.17)	1,225 (3.06)	449	400
R4	1,670 (4.18)	1,158 (2.89)	443	400
R5	1,741 (4.35)	1,103 (2.76)	451	412
R6	1,687 (4.22)	1,268 (3.17)	450	411
5年平均	1,678 (4.20)	1,182 (2.96)	447	405

三重県内

入試年度	志願者数 (対全国比)	受験者数 (対全国比)	合格者数 (対全国比)	入学者数 (対全国比)
R2	564 (34.6%)	428 (37.0%)	152 (34.3%)	143 (35.4%)
R3	540 (32.4%)	395 (32.2%)	143 (31.8%)	132 (33.0%)
R4	569 (34.1%)	405 (35.0%)	149 (33.6%)	141 (35.3%)
R5	537 (30.8%)	376 (34.1%)	163 (36.1%)	159 (38.6%)
R6	604 (35.8%)	455 (35.9%)	155 (34.4%)	146 (35.5%)
5年平均	563 (33.6%)	412 (34.9%)	152 (34.0%)	144 (35.6%)

東海（愛知+三重+岐阜+静岡）

入試年度	志願者数 (対全国比)	受験者数 (対全国比)	合格者数 (対全国比)	入学者数 (対全国比)
R2	1,170 (71.9%)	845 (73.0%)	322 (72.7%)	305 (75.5%)
R3	1,231 (73.9%)	912 (74.4%)	324 (72.2%)	303 (75.8%)
R4	1,202 (72.0%)	846 (73.1%)	322 (72.7%)	304 (76.0%)
R5	1,293 (74.3%)	833 (75.5%)	322 (71.4%)	319 (77.4%)
R6	1,283 (76.1%)	972 (76.7%)	336 (74.7%)	313 (76.2%)
5年平均	1,236 (73.7%)	882 (74.6%)	325 (72.7%)	309 (76.3%)

東海+近畿（大阪+京都+兵庫+滋賀+奈良+和歌山）

入試年度	志願者数 (対全国比)	受験者数 (対全国比)	合格者数 (対全国比)	入学者数 (対全国比)
R2	1,494 (91.8%)	1,072 (92.7%)	411 (92.8%)	376 (93.1%)
R3	1,551 (93.1%)	1,140 (93.1%)	415 (92.4%)	374 (93.5%)
R4	1,558 (93.3%)	1,085 (93.7%)	420 (94.8%)	383 (95.8%)
R5	1,624 (93.3%)	1,031 (93.5%)	408 (90.5%)	387 (93.9%)
R6	1,593 (94.4%)	1,199 (94.6%)	427 (94.9%)	391 (95.1%)
5年平均	1,564 (93.2%)	1,105 (93.5%)	416 (93.1%)	382 (94.3%)

※志願倍率は小数点第3位以下を四捨五入
 ※対全国比は小数点第3位以下を四捨五入
 ※5年平均は小数点第1位以下を四捨五入

工学部総合工学科 情報工学コース（募集人員60名）

入試年度	志願者数 (志願倍率)	受験者数 (受験倍率)	合格者数	入学者数
R2	271 (4.52)	175 (2.92)	69	58
R3	235 (3.92)	151 (2.52)	69	59
R4	373 (6.22)	223 (3.72)	69	58
R5	196 (3.27)	120 (2.00)	69	62
R6	253 (4.22)	173 (2.88)	71	63
5年平均	266 (4.43)	168 (2.80)	69	60

三重県内

入試年度	志願者数 (対全国比)	受験者数 (対全国比)	合格者数 (対全国比)	入学者数 (対全国比)
R2	111 (41.0%)	75 (42.9%)	26 (37.7%)	23 (39.7%)
R3	96 (40.9%)	64 (42.4%)	28 (40.6%)	27 (45.8%)
R4	140 (37.5%)	89 (39.9%)	29 (42.0%)	27 (46.6%)
R5	80 (40.8%)	54 (45.0%)	31 (44.9%)	30 (48.4%)
R6	108 (42.7%)	75 (43.4%)	27 (38.0%)	25 (39.7%)
5年平均	107 (40.2%)	71 (42.3%)	28 (40.6%)	26 (43.3%)

東海（愛知+三重+岐阜+静岡）

入試年度	志願者数 (対全国比)	受験者数 (対全国比)	合格者数 (対全国比)	入学者数 (対全国比)
R2	188 (69.4%)	117 (66.9%)	49 (71.0%)	44 (75.9%)
R3	177 (75.3%)	109 (72.2%)	52 (75.4%)	47 (79.7%)
R4	270 (72.4%)	155 (69.5%)	46 (66.7%)	42 (72.4%)
R5	130 (66.3%)	85 (70.8%)	49 (71.0%)	48 (77.4%)
R6	198 (78.3%)	138 (79.8%)	49 (69.0%)	45 (71.4%)
5年平均	193 (72.6%)	121 (72.0%)	49 (71.0%)	45 (75.3%)

東海+近畿（大阪+京都+兵庫+滋賀+奈良+和歌山）

入試年度	志願者数 (対全国比)	受験者数 (対全国比)	合格者数 (対全国比)	入学者数 (対全国比)
R2	242 (89.3%)	154 (88.0%)	63 (91.3%)	55 (94.8%)
R3	222 (94.5%)	142 (94.0%)	65 (94.2%)	56 (94.9%)
R4	350 (93.8%)	210 (94.2%)	64 (92.8%)	55 (94.8%)
R5	179 (91.3%)	109 (90.8%)	65 (94.2%)	61 (98.4%)
R6	237 (93.7%)	160 (92.5%)	65 (91.5%)	57 (90.5%)
5年平均	246 (92.5%)	155 (92.3%)	64 (92.8%)	57 (95.0%)

三重大学 学部の入学定員充足の状況

学部等名	項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
人文学部 (合計)	入学定員充足率	1.04	1.03	1.02	1.05	1.05	1.06
	入学者数	254	253	251	258	258	261
	入学定員	245	245	245	245	245	245
文化学科	入学定員充足率	1.07	1.06	1.04	1.03	1.02	1.05
	入学者数	98	98	96	95	94	97
	入学定員	92	92	92	92	92	92
法律経済学科	入学定員充足率	1.02	1.01	1.01	1.06	1.07	1.07
	入学者数	156	155	155	163	164	164
	入学定員	153	153	153	153	153	153
教育学部 (合計)	入学定員充足率	1.03	1.02	1.00	1.00	1.02	1.04
	入学者数	206	205	200	200	205	208
	入学定員	200	200	200	200	200	200
学校教育教員養成課程	入学定員充足率	1.03	1.02	1.00	1.00	1.02	1.04
	入学者数	206	205	200	200	205	208
	入学定員	200	200	200	200	200	200
医学部 (合計)	入学定員充足率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	入学者数	205	205	205	205	205	205
	入学定員	205	205	205	205	205	205
医学科	入学定員充足率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	入学者数	125	125	125	125	125	125
	入学定員	125	125	125	125	125	125
看護学科	入学定員充足率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	入学者数	80	80	80	80	80	80
	入学定員	80	80	80	80	80	80
工学部 (合計)	入学定員充足率	1.03	1.03	1.00	1.00	1.01	1.01
	入学者数	411	412	400	400	404	407
	入学定員	400	400	400	400	400	400
総合工学科	入学定員充足率	1.03	1.03	1.00	1.00	1.01	1.01
	入学者数	411	412	400	400	404	407
	入学定員	400	400	400	400	400	400
生物資源学部 (合計)	入学定員充足率	1.06	1.05	1.04	1.04	1.02	1.06
	入学者数	275	273	272	272	267	278
	入学定員	260	260	260	260	260	260
生物資源学科	入学定員充足率	1.06					
	入学者数	275					
	入学定員	260					
資源循環学科 ※令和6年度学生募集停止	入学定員充足率		1.07	1.05	1.07	1.02	1.05
	入学者数		75	74	75	72	74
	入学定員		70	70	70	70	70
共生環境学科 ※令和6年度学生募集停止	入学定員充足率		1.01	1.05	1.02	1.04	1.11
	入学者数		71	74	72	73	78
	入学定員		70	70	70	70	70
生物圏生命化学科 ※令和6年度学生募集停止	入学定員充足率		1.05	1.03	1.03	1.01	1.06
	入学者数		84	83	83	81	85
	入学定員		80	80	80	80	80
海洋生物資源学科 ※令和6年度学生募集停止	入学定員充足率		1.07	1.02	1.05	1.02	1.02
	入学者数		43	41	42	41	41
	入学定員		40	40	40	40	40

工学部総合工学科情報工学コース 直近5年の入試統計

工学部総合工学科 情報工学コース 一般選抜		令和6年度							令和5年度							令和4年度							令和3年度							令和2年度							直近5年合計								
		募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者		
前期日程	情報工学コース 全体	25	89	3.56	86	96.6%	35	33	25	96	2.24	51	91.1%	34	33	25	108	4.32	100	92.6%	33	32	25	71	2.84	67	94.4%	25	25	25	80	3.20	78	97.5%	25	23				404		382	94.6%	152	146
	うち、アンケート対象11校	-	30	1.20	29	96.7%	8	8	-	16	0.64	15	93.8%	11	11	-	45	1.88	41	91.1%	15	14	-	24	0.96	21	87.5%	7	7	-	34	1.40	34	100.0%	9	9				149		140	94.0%	50	49
後期日程	情報工学コース 全体	30	147	4.90	72	49.0%	30	24	30	126	4.20	56	44.4%	30	24	30	247	8.23	112	45.3%	30	21	30	141	4.70	70	49.6%	37	28	30	167	5.57	82	49.1%	37	30				828		392	47.3%	164	127
	うち、アンケート対象11校	-	47	1.63	27	57.4%	10	9	-	27	0.90	12	44.4%	8	8	-	60	2.13	28	46.7%	8	7	-	39	1.33	22	56.4%	14	12	-	48	1.60	24	50.0%	9	8				221		113	51.1%	49	44
総合型選抜	情報工学コース 全体	5	12	2.40	10	83.3%	5	5	5	11	2.20	10	90.9%	5	5	5	17	3.40	10	58.8%	5	5	5	17	3.40	10	58.8%	5	5	5	19	3.80	10	52.6%	5	5				76		50	65.8%	25	25
	うち、アンケート対象11校	-	3	-	1	33.3%	1	1	-	5	-	5	100.0%	2	2	-	10	-	6	60.0%	4	4	-	6	-	5	83.3%	2	2	-	6	-	3	50.0%	1	1				30		20	66.7%	10	10

【参考】

総合工学科全コース 一般選抜		令和6年度							令和5年度							令和4年度							令和3年度							令和2年度							直近5年合計								
		募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者		
前期日程	総合工学科 合計	222	813	3.66	785	96.6%	259	248	222	529	2.38	506	95.7%	260	247	222	729	3.28	702	96.3%	247	240	222	827	3.73	781	94.4%	244	227	222	688	3.10	655	95.2%	241	233				3,586		3,429	95.6%	1,251	1,195
	機械工学コース	45	195	4.33	189	96.9%	51	47	45	92	2.04	87	94.6%	55	49	45	144	3.20	137	95.1%	46	45	45	101	2.24	94	93.1%	49	44	45	133	2.96	122	91.7%	48	46				665		629	94.6%	249	231
	電気電子工学コース	42	98	2.33	95	96.9%	48	48	42	146	3.48	143	97.9%	46	44	42	114	2.71	111	97.4%	43	42	42	98	2.33	97	99.0%	43	41	42	135	3.21	127	94.1%	42	39				591		573	97.0%	222	214
	応用化学コース	40	172	4.30	164	95.3%	53	49	40	79	1.98	75	94.9%	52	50	40	117	2.93	114	97.4%	53	50	40	179	4.48	169	94.4%	53	47	40	128	3.20	124	96.9%	53	52				675		646	95.7%	264	248
	建築学コース	30	123	4.10	120	97.6%	32	32	30	65	2.17	64	98.5%	32	32	30	118	3.93	113	95.8%	32	32	30	104	3.47	98	94.2%	31	31	30	111	3.70	107	96.4%	33	33				521		502	96.4%	160	160
	情報工学コース	25	89	3.56	86	96.6%	35	33	25	56	2.24	51	91.1%	34	33	25	108	4.32	100	92.6%	33	32	25	71	2.84	67	94.4%	25	25	25	80	3.20	78	97.5%	25	23				404		382	94.6%	152	146
	総合工学コース	40	136	3.40	131	96.3%	40	39	40	91	2.28	86	94.5%	41	39	40	128	3.20	127	99.2%	40	39	40	274	6.85	256	93.4%	43	39	40	101	2.53	97	96.0%	40	40				730		697	95.5%	204	196
後期日程	総合工学科 合計	130	728	5.60	351	48.2%	138	112	130	1,113	8.56	504	45.3%	139	116	130	822	6.32	350	42.6%	138	107	130	684	5.26	302	44.2%	141	115	130	799	6.15	375	46.9%	140	112				4,146		1,882	45.4%	696	562
	機械工学コース	15	176	11.73	68	38.6%	22	16	15	117	7.80	57	48.7%	22	18	15	165	11.00	74	44.8%	20	17	15	64	4.27	27	42.2%	16	15	15	113	7.53	53	46.9%	15	11				635		279	43.9%	95	77
	電気電子工学コース	35	142	4.06	73	51.4%	35	30	35	515	14.71	239	46.4%	35	29	35	130	3.71	58	44.6%	37	29	35	220	6.29	89	40.5%	36	31	35	177	5.06	85	48.0%	35	28				1,184		544	45.9%	178	147
	応用化学コース	40	217	5.43	121	55.8%	41	33	40	253	6.33	109	43.1%	42	36	40	232	5.80	88	37.9%	41	31	40	193	4.83	83	43.0%	41	33	40	303	7.58	137	45.2%	43	34				1,198		538	44.9%	208	167
	建築学コース	10	46	4.60	17	37.0%	10	9	10	102	10.20	43	42.2%	10	9	10	48	4.80	18	37.5%	10	9	10	66	6.60	33	50.0%	11	8	10	39	3.90	18	46.2%	10	9				301		129	42.9%	51	44
	情報工学コース	30	147	4.90	72	49.0%	30	24	30	126	4.20	56	44.4%	30	24	30	247	8.23	112	45.3%	30	21	30	141	4.70	70	49.6%	37	28	30	167	5.57	82	49.1%	37	30				828		392	47.3%	164	127

令和 6 年 6 月 2 5 日

高等学校長 殿

国立大学法人三重大学
工学部長 森 香津夫

三重大学工学部総合工学科情報工学コースの定員増に関する
アンケート調査へのご協力について（依頼）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は本学部の教育研究に関するご理解とご協力並びに本学部への進路指導につきまして、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学部では、情報工学の教育を拡充・強化して、将来的により多くの高度情報人材を育成することを目的として、令和 7 年度の情報工学コースの募集人員を 30 名増員することを計画しています。

つきましては、工学部に対する関心の内容やその程度等についてお聞きし、検討上の基礎資料といたしたく、ご多忙中のところ誠に恐縮ですが、アンケート調査にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、このアンケートにお答えいただいた内容は統計的に処理し活用させていただくことを申し添えます。

敬具

【本件担当】 国立大学法人三重大学
工学研究科チーム
学務担当

TEL : 059-231-9469

FAX : 059-231-9471

Mail : eng-gakumu@eng.mie-u.ac.jp



令和7年度から工学部総合工学科 情報工学コースの定員を 増員します！

変更内容（予定）

定員 60名 → **95名**

一般選抜

前期日程

62名

後期日程

25名

特別選抜

学校推薦型選抜

8名

・わたしが入学したきっかけ

高校生の頃からAIを学びたいという興味があり、将来はエンジニアになりたいと思っていました。三重大学の説明会に参加し、**情報工学コースがAIに関する研究が盛ん**であることを知りました。また**キャンパス内に多くの緑があることも魅力的**ですので、三重大学を選びました。

急速に進化する技術に関する知識とスキルを学びたいとっていて、工学部総合工学科情報工学コースを受験しました。

・情報工学コースに入学してよかった！

情報工学コースでは女子が少ないので、最初はとても不安でしたが、**一緒に授業を受けたり、ご飯を食べたりするので、すぐに友達が出来ました。女子学生でも大丈夫です。**

入学後は想像以上に幅広く勉強ができますと思います。授業や研究にも力を入れているため、いろいろな知識と技術を身につけることができます。情報工学コースの**先生方も非常に熱心で、質問や相談に対して丁寧に接して下さる**ため、学びの面でも大変助かります。

私は4年生のときコンピュータソフトウェア研究室に所属し、プライバシー保護技術を研究しました。大学院では異なる研究分野に挑戦したいので、所属をスマートシステム研究室に変えて進学しました。

将来はエンジニアになりたいと考えています。**自分が身につけた知識と技術を活かし、社会に貢献できる仕事に就きたい**と思います。

先輩Voice



三重大学工学部情報工学コースの定員増に関するアンケート調査

三重大学工学部では、情報工学の教育を拡充・強化して、将来的により多くの高度情報人材を育成することを目的として、令和7年度の工学部総合工学科情報工学コースの募集人員を30名増員することを計画しています。

このアンケート調査は、工学部に対する関心の内容やその程度等についてお聞きし、検討上の基礎資料とするものです。なお、このアンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。

アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

学校名 _____ 高等学校 _____ 学年 _____ 年生 _____

次の各項目に○を振ってください。

性別 ・男性 ・女性 ・未回答

所属コース ・理系コース ・文系コース ・まだ決まっていない

問1 進学を希望する大学の所在地はどこですか。あてはまる項目一つに○をつけてください。

- ①三重県内 ②東海地方(三重県以外) ③近畿地方 ④所在地にはこだわらない

問2 どのような学問に興味がありますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。

- ①工学系 ②理学系 ③農学系 ④医学・歯学・薬学系 ⑤その他

問3 工学系の中ではどのような分野に興味がありますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。

- ①情報工学 ②機械工学 ③電気電子工学 ④化学 ⑤建築学 ⑥その他

問4 三重大学 工学部 情報工学コースの募集人員が増員する場合、受験を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。

- ①受験したいと思う ②条件が合えば受験したい ③受験したいとは思わない

問5 三重大学 工学部 情報工学コースに合格したら、入学を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。

- ①入学したいと思う/とても興味がある ②入学したいとは思わない

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

三重大学工学部情報工学コースの定員増に関する アンケート調査

高校生のみなさんへ

三重大学工学部では、情報工学の教育を拡充・強化して、将来的により多くの高度情報人材を育成することを目的として、令和7年度の工学部総合工学科情報工学コースの募集人員を30名増員することを計画しています。

このアンケート調査は、工学部に対する関心の内容やその程度等についてお聞きし、検討上の基礎資料とするものです。なお、このアンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。

調査へのご協力をお願いします。

それでは以下のQRコードからWEBアンケートへの回答をお願いいたします。



三重大学工学部情報工学コースの定員増に関するアンケート調査

三重大学工学部では、情報工学の教育を拡充・強化して、将来的により多くの高度情報人材を育成することを目的として、令和7年度の工学部総合工学科情報工学コースの募集人員を30名増員することを計画しています。

このアンケート調査は、工学部に対する関心の内容やその程度等についてお聞きし、検討上の基礎資料とするものです。なお、このアンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。

アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

[Google にログイン](#)すると作業内容を保存できます。[詳細](#)

* 必須の質問です

学校名を記入してください *

回答を入力

学年を選択してください *

- 1年生
- 2年生
- 3年生

性別を選択してください *

- 男性
- 女性
- 未回答

所属コースを選択してください *

- 理系コース
- 文系コース
- まだ決まっていない

問1 進学を希望する大学の所在地はどこですか。あてはまる項目一つに●をつけてください。 *

- ①三重県内
- ②東海地方（三重県以外）
- ③近畿地方
- ④所在地はこだわらない

問2 どのような学問に興味がありますか。あてはまる項目すべてに☑をつけてください。 *

- ①工学系
- ②理学系
- ③農学系
- ④医学・歯学・薬学系
- ⑤その他

問3 工学系の中ではどのような分野に興味がありますか。あてはまる項目すべてに☑をつけてください。

- ①情報工学
- ②機械工学
- ③電気電子工学
- ④化学
- ⑤建築学
- ⑥その他

問4 三重大学 工学部 情報工学コースの募集人員が増員する場合、受験を希望しますか。あてはまる項目一つに●をつけてください。

- ①受験したいと思う
- ②条件が合えば受験したい
- ③受験したいとは思わない

問5 三重大学 工学部 情報工学コースに合格したら、入学を希望しますか。あてはまる項目一つに●をつけてください。

- ①入学したいと思う／とても興味がある
- ②入学したいとは思わない

送信

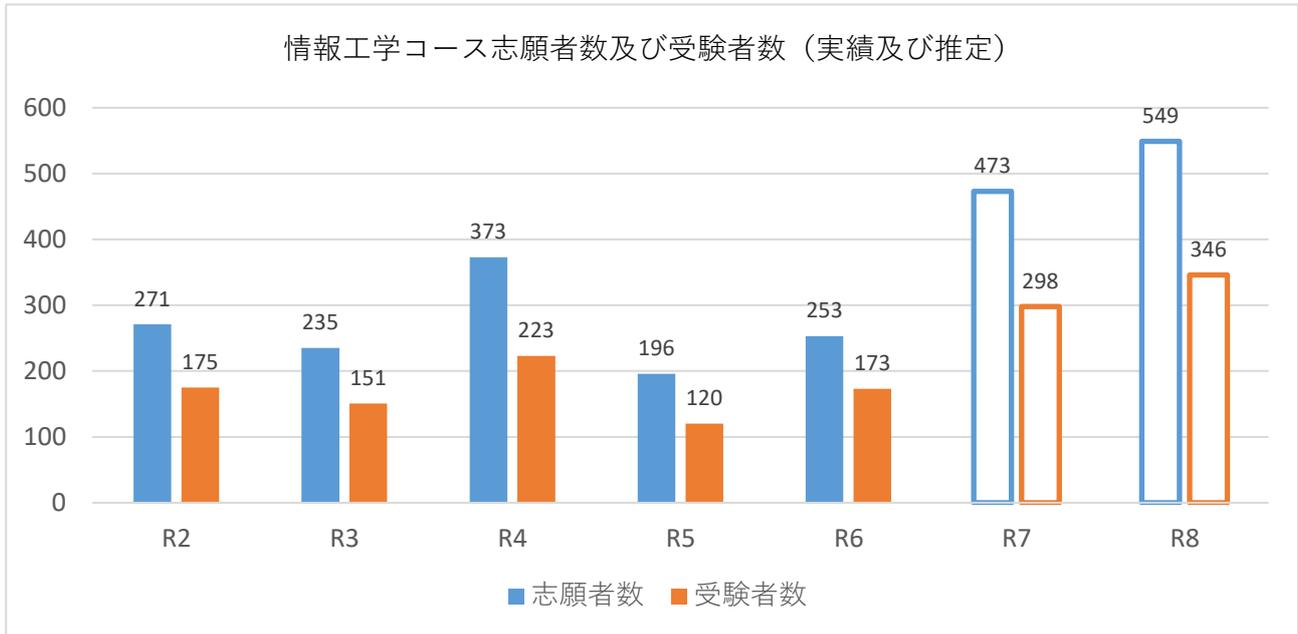
フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

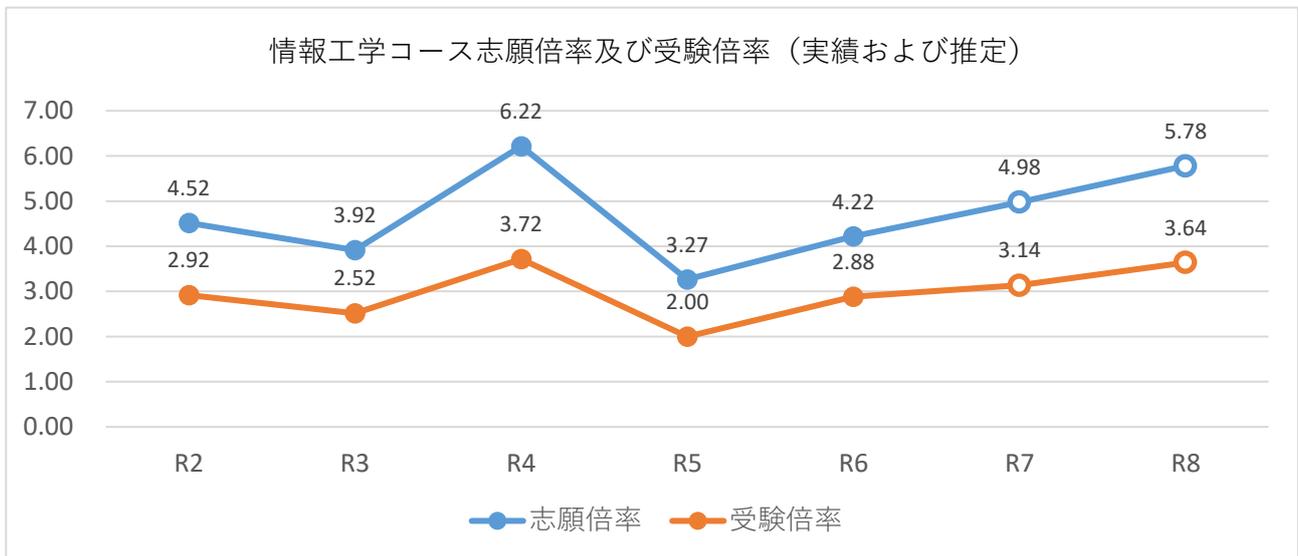
このフォームは三重大学 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム

○情報工学コース志願者数及び受験者数（実績及び推定）



○情報工学コース志願倍率及び受験倍率（実績及び推定）



令和5年度工学部総合工学科入学者アンケート
(回答数：313)

Q.三重大学を志望大学の一つとして考えるうえで参考にした情報(複数回答可)

イベント名	人数
三重大学ホームページ	171
高校の先生からの情報・進路指導資料	159
塾・予備校の先生からの情報・進路指導資料	95
大学案内	80
夏のオープンキャンパス	37
学部案内	37
進学説明会	10
秋のミニオープンキャンパス	5
出前授業	5
学問探究セミナー (サマーセミナー)	3

※回答者の多い項目のみ抜粋

競合校の入学試験実施状況

岐阜大学 工学部 電気電子・情報工学科 情報コース

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
募集人員	70	70	70
志願者数	370	488	373
受験者数	256	273	242
合格者数	74	73	75
入学者数	69	71	70
定員充足率	0.99	1.01	1.00
志願倍率	5.29	6.97	5.33

静岡大学情報学部情報科学科

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入学定員	100	100	98
志願者数	361	476	451
受験者数	250	326	318
合格者数	107	110	107
入学者数	101	101	102
定員充足率	1.01	1.01	1.04
志願倍率	3.61	4.76	4.60

【参考】三重大学工学部総合工学科情報工学コース

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
募集人員	60	60	60
志願者数	235	373	196
受験者数	151	223	120
合格者数	65	69	69
入学者数	59	58	62
定員充足率	0.98	0.97	1.03
志願倍率	3.92	6.22	3.27

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	イトウ マサアキ 伊藤 正明 <令和3年4月>		医学博士		三重大学 学長 (令和3.4~令和9.3)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 工学部 総合工学科

1. 「学生確保の見通し等を記載した書類」の p. 6 「ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を増加する組織での入学者の見込み数」において、「収容定員を増加する情報工学コースの過去3年の平均志願倍率は約 4.5 倍であり、収容定員を増加した場合も安定的に入学者 95 名を確保できると考える」と説明しているが、「学生確保の見通し等を記載した書類（資料）」の p. 2 「工学部総合工学科入試実施状況（志願者出身別）」における情報工学コース（募集人員 60 名）の表（全国）を見ると、R3～R5 年度の各志願者数は 229 名、372 名、193 名、受験者数は 147 名、222 名、117 名、入学者数は 61 名、64 名、59 名と推移しており、志願者数及び受験者数については直近の R5 年度は R4 年度から半数程度に減少している。また、R5 年度の入学者数は 59 名と募集人員の 60 名を下回っているため、志願倍率が高いことのみをもって、収容定員増加後の募集人員 95 名の入学者数を確保できるとは判断できない。このため、本コースの学生確保の見通しについて、アンケート調査を実施の上、適切に分析するなど、客観的かつ具体的な根拠に基づき明確に説明すること。

（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

(是正事項) 工学部 総合工学科

1. 「学生確保の見通し等を記載した書類」の p. 6 「ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を増加する組織での入学者の見込み数」において、「収容定員を増加する情報工学コースの過去3年の平均志願倍率は約4.5倍であり、収容定員を増加した場合も安定的に入学者95名を確保できると考える」と説明しているが、「学生確保の見通し等を記載した書類(資料)」の p. 2 「工学部総合工学科入試実施状況(志願者出身別)」における情報工学コース(募集人員60名)の表(全国)を見ると、R3～R5年度の各志願者数は229名、372名、193名、受験者数は147名、222名、117名、入学者数は61名、64名、59名と推移しており、志願者数及び受験者数については直近のR5年度はR4年度から半数程度に減少している。また、R5年度の入学者数は59名と募集人員の60名を下回っているため、志願倍率が高いことのみをもって、収容定員増加後の募集人員95名の入学者数を確保できるとは判断できない。このため、本コースの学生確保の見通しについて、アンケート調査を実施の上、適切に分析するなど、客観的かつ具体的な根拠に基づき明確に説明すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、直近5年間(令和2～6年度)の三重大学工学部総合工学科(以下、本学科)「入試実施状況」をもとに、改めて既設組織の定員充足状況について分析を行った。

また、本学科情報工学コースの定員増を行った場合の募集人員95名に対する充足見込みを考察するため、本学科情報工学コースへの志願者数が上位である三重県内11高校を対象にアンケートを実施した。

上記を踏まえ、「学生の確保の見通し等を記載した書類」を以下のように追加修正する。

(1) 既設組織の定員充足の状況

本学の直近6年間の入学定員の充足状況【別紙1】を見ると、いずれの学部・学科等も入学定員を充足しており、安定して学生を確保できている。

また、本学科情報工学コースの直近5年間の入試状況【別紙2】は、平均志願倍率4.4倍と安定して志願者を確保していることから、質の高い学生を確保しつつ、中長期にわたって定員を充足できると考えている。

なお、工学部全体の状況と比較した場合、情報工学コースにおいては志願者数と比較して受験者数の割合が低い状況であるが、これは情報工学コースの一般選抜における後期日程の志願者数が、前期日程の志願者数の約2倍であることが原因と考えられる【別紙3】。一般的に前期日程に比べると後期日程は受験率が約半分程度とな

っており、後期日程の志願者数が多ければ多いほど、志願者数に対する受験者数の割合が低くなってしまいう傾向にある。直近5年平均の前期日程の受験率を工学部全体と比較した場合、情報工学コースの受験率は94.6%であり、工学部全体の受験率の95.6%と同程度となっている。同様に、後期日程の受験率で比較した場合、情報工学コースの47.3%は工学部全体の中で最も高い値となっている。

また、令和2年～令和4年度の3年間において、募集人員60名に対して入学者が1名又は2名少ない状況となっているが、これは令和元年度の学部改組で6学科から1学科5コース制となって以降、学科として定員管理を行ってきたためである【別紙2】。そのため、情報工学コースとしての募集人員60名に対して入学者数が達しない場合であっても、総合工学科の総入学数として定員に達することを優先してきた状況にある。

但し、令和7年度以降は、高度情報人材の育成に資する入学者数を確保するため、情報工学コースとしての募集人員95名で定員管理を行う予定である。

(2) 高校生へのアンケートを用いた志願者数及び受験者数の考察

直近5年間(令和2～6年度)の入試において、工学部総合工学科情報工学コースへの志願者数が上位である三重県内12高校に、理系コースの2年生及び3年生を対象としたアンケート【別紙4】の実施を依頼し、承諾を得た11高校を対象に実施した【別紙5】。実施したアンケート調査実施校と学年ごとの回答者数は(【別紙5】1)のとおりであり、学年別では、2年生はJ、K高校を除く9校、3年生はF、G、H、I高校を除く7校の生徒からアンケートの回答があった。

【別紙5】1：アンケート調査実施校と学年ごとの回答者数

高校名	2年生	3年生
A高校	167	156
B高校	231	221
C高校	273	194
D高校	44	48
E高校	157	152
F高校	112	
G高校	212	
H高校	169	
I高校	120	
J高校		95
K高校		205
合計	1,485	1,071

問5において、三重大学工学部情報工学コースに「①入学したいと思う／とても興味がある」と回答した生徒の数は2年生536名、3年生325名（【別紙5】9）であり、工学部を受験する可能性の高い理系コースの生徒のみを対象とした場合でも、2年生474名、3年生296名（【別紙5】10）と、アンケートを実施した三重県内の11高校だけでも募集人員（95名）の3倍以上の生徒が入学を希望していることが明らかとなった。

【別紙5】10：問5「三重大学 工学部 情報工学コースに合格したら、入学を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果（理系コースの生徒のみ）

項目	2年生	3年生	合計	割合
①入学したいと思う／とても興味がある	474	296	770	36.8%
②入学したいとは思わない	747	578	1,325	63.2%

次に、上記で入学を希望すると回答した生徒のうち、諸々の事情により、実際には入学しない生徒も存在すると考えられることから、見込まれる志願者数（見込志願者数）、見込まれる受験者数（見込受験者数）の算出を行った。

具体的に受験の可能性について質問した問4において、理系コースを選択した生徒のみを抽出したのが（【別紙5】8）である。その際に「①受験したいと思う」又は「②条件が合えば受験したい」と回答した生徒数は、それぞれ次のとおりであった。

- ・「①受験したいと思う」の回答数 2年生 73名 3年生 38名
- ・「②条件が合えば受験したい」の回答数 2年生 446名 3年生 285名

【別紙5】8：問4「三重大学 工学部 情報工学コースの募集人員が増員する場合、受験を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果（理系コースの生徒のみ）

項目	2年生	3年生	合計	割合
①受験したいと思う	73	38	111	5.3%
②条件が合えば受験したい	446	285	731	34.9%
③受験したいとは思わない	702	551	1,253	59.8%

これらの回答者のうちには、諸々の事情により実際には本コースを受験しない者もいると思われるため、「①受験したいと思う」と回答した生徒の90%、「②条件が合えば受験したい」と回答した生徒の10%が志願すると仮定したときに見込まれる志願者数を算出する。

- ・「①受験したいと思う」に 90%、「②条件が合えば受験したい」に 10%を乗じた数
 2年生 $(73 \text{ 名} \times 90\%) + (446 \text{ 名} \times 10\%) = 65.7 \text{ 名} + 44.6 \text{ 名} \approx 110 \text{ 名}$
 3年生 $(38 \text{ 名} \times 90\%) + (285 \text{ 名} \times 10\%) = 34.2 \text{ 名} + 28.5 \text{ 名} \approx 63 \text{ 名}$

理系コースのアンケート回答者数（【別紙5】3より2年生1,221名、3年生874名）のうち、上記の数が占める割合は、2年生9.01%（110名/1,221名）、3年生7.21%（63名/874名）となる。

この割合をもとに、アンケートの回答があった高校（2年生は9校、3年生は7校）において見込志願者数を算出するため、アンケートの回答があった各高校の学年ごとの理系コース人数の合計（【別紙5】11より2年生1,545名、3年生1,213名）に乘じると、次のとおりとなる。

- ・各学年においてアンケート回答校（2年生9校、3年生7校）見込志願者数
 2年生 $1,545 \text{ 名} \times 9.01\% \approx 139 \text{ 名}$
 3年生 $1,213 \text{ 名} \times 7.21\% \approx 87 \text{ 名}$

また、直近5年間の情報工学コース志願者数のうちアンケートの回答があった高校出身の志願者が全体に占める割合は、2年生が25.3%、3年生が18.4%（【別紙5】2-1、2-2より参照）であることから、全体の見込志願者数は以下のとおり算出される。

- ・全体の見込志願者数
 2年生 $139 \text{ 名} \times (1/0.253) \approx 549 \text{ 名}$
 3年生 $87 \text{ 名} \times (1/0.184) \approx 473 \text{ 名}$

次に、上記で求めた全体の見込志願者数をもとに、全体の見込受験者数を求める。全体の見込志願者数に対して、情報工学コースの過去5年間の平均受験率を乗じる。

情報工学コースの過去5年平均受験率は以下のとおり【別紙2】。

- ・過去5年平均受験率 = $168 \text{ 名} (\text{受験者}) / 266 \text{ 名} (\text{志願者数}) \approx 63\%$
- ・全体の見込受験者数
 2年生 $549 \text{ 名} \times 63\% \approx 346 \text{ 名}$
 3年生 $473 \text{ 名} \times 63\% \approx 298 \text{ 名}$

これらのことから、募集人員（95名）に対して志願者数は5倍程度、受験者数は3倍程度が見込まれる。

さらに、年度によっては志願者数が下振れとなる場合が想定されるため、下振れがあった場合の志願者数、受験者数について考察する。

情報工学コースの過去5年平均の志願者数及び受験者数は以下のとおり。

- ・志願者数 266名
- ・受験者数 168名

過去5年のうち最も低い値については以下のとおり。

- ・志願者数 196名（令和5年度）
- ・受験者数 120名（令和5年度）

この値より、過去5年間で最も下振れとなった場合の係数は以下のとおりとなる。

- ・志願者数 $196/266 \approx 73.7\%$
- ・受験者数 $120/168 \approx 71.4\%$

最も下振れの場合の係数を、見込まれる全体の見込志願者数及び見込受験者数に乗じると以下のとおりとなる。

- ・全体の見込志願者数（下振れの場合）
 - 2年生 $549 \text{名} \times 73.7\% \approx 405 \text{名}$
 - 3年生 $473 \text{名} \times 73.7\% \approx 349 \text{名}$
- ・全体の見込受験者数（下振れの場合）
 - 2年生 $346 \text{名} \times 71.4\% \approx 247 \text{名}$
 - 3年生 $298 \text{名} \times 71.4\% \approx 213 \text{名}$

これらのことから、下振れした場合でも、募集人員（95名）に対して志願者数は3倍程度、受験者数は2倍程度が見込まれ、直近5年間の最低受験倍率（令和5年度：2倍）を上回る。

以上のことから、適切な選抜を実施した上で、募集人員を十分に確保できると考えられる。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類 (4~10 ページ)

新	旧												
<p>③収容定員を増加する組織の主な学生募集地域</p> <p>令和2年～令和6年度における本学科及び本学科情報工学コースの志願者、入学者に占める<u>東海圏（愛知県、三重県、岐阜県、静岡県）</u>の平均割合は、以下のとおりである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">学科名</th> <th style="text-align: center;">志願者</th> <th style="text-align: center;">入学者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">総合工学科 (情報工学 コース)</td> <td style="text-align: center;">平均 <u>73.6%</u> (平均 <u>72.5%</u>)</td> <td style="text-align: center;">平均 <u>76.2%</u> (平均 <u>75.3%</u>)</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、東海圏（愛知県、三重県、岐阜県、静岡県）及び近畿圏（大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県）の出身者で志願者、入学者の<u>90%以上</u>を占めている(参考資料1)。</p>	学科名	志願者	入学者	総合工学科 (情報工学 コース)	平均 <u>73.6%</u> (平均 <u>72.5%</u>)	平均 <u>76.2%</u> (平均 <u>75.3%</u>)	<p>③収容定員を増加する組織の主な学生募集地域</p> <p>令和3から5年度における本学科及び本学科情報工学コースの志願者、入学者に占める<u>三重県及び愛知県出身者</u>の平均割合は、以下のとおりである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">学科名</th> <th style="text-align: center;">志願者</th> <th style="text-align: center;">入学者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">総合工学科 (情報工学 コース)</td> <td style="text-align: center;">平均 <u>68.74%</u> (平均 <u>67.04%</u>)</td> <td style="text-align: center;">平均 <u>71.45%</u> (平均 <u>73.45%</u>)</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、東海圏（愛知県、三重県、岐阜県、静岡県）及び近畿圏（大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県）の出身者で志願者、入学者の<u>95%近く</u>を占めている(参考資料1)。</p>	学科名	志願者	入学者	総合工学科 (情報工学 コース)	平均 <u>68.74%</u> (平均 <u>67.04%</u>)	平均 <u>71.45%</u> (平均 <u>73.45%</u>)
学科名	志願者	入学者											
総合工学科 (情報工学 コース)	平均 <u>73.6%</u> (平均 <u>72.5%</u>)	平均 <u>76.2%</u> (平均 <u>75.3%</u>)											
学科名	志願者	入学者											
総合工学科 (情報工学 コース)	平均 <u>68.74%</u> (平均 <u>67.04%</u>)	平均 <u>71.45%</u> (平均 <u>73.45%</u>)											
<p>④既設組織の定員充足の状況</p> <p>本学の直近<u>6</u>年間の入学定員の充足状況(参考資料2)を見ると、いずれの学部・学科等も入学定員を充足しており、安定して学生を確保できている。</p> <p>また、本学科情報工学コースの直近<u>5</u>年間の入試状況(参考資料1)では、平均志願倍率4.4倍と安定して志願者を確保していることから、質の高い学生を確保しつつ、中長期にわたって定員を充足できると考えている。</p> <p>なお、<u>工学部全体の状況と比較した場合、情報工学コースにおいては志願者数と比較して受験者数の割合が低い状況であるが、これは情報工学コースの一般選抜における後期日程の志願者数が、前期日程の志願者数の約2倍であることが原因と考えられる</u></p>	<p>④既設組織の定員充足の状況</p> <p>本学の直近<u>5</u>年間の入学定員の充足状況(参考資料1)を見ると、いずれの学部・学科等も入学定員を充足しており、安定して学生を確保できている。</p> <p>また、本学科情報工学コースの直近<u>3</u>年間の入試状況(参考資料2)では、平均志願倍率4.4倍と安定して志願者を確保していることから、質の高い学生を確保しつつ、中長期にわたって定員を充足できると考えている。</p>												

<p>(参考資料3)。一般的に前期日程に比べると、後期日程は受験率が約半分程度となっており、後期日程の志願者数が多ければ多いほど、志願者数に対する受験者数の割合が低くなってしまいう傾向にある。直近5年平均の前期日程の受験率を工学部全体と比較した場合、情報工学コースの受験率は94.6%であり、工学部全体の受験率の95.6%と同程度となっている。同様に、後期日程の受験率で比較した場合、情報工学コースの47.3%は工学部全体の中で最も高い値となっている。</p> <p>また、令和2年～令和4年度の3年間において、募集人員60名に対して入学者が1名又は2名少ない状況となっているが、これは令和元年度の学部改組で6学科から1学科5コース制となって以降、学科として定員管理を行ってきたためである(参考資料1)。そのため、情報工学コースとしての募集人員60名に対して入学者数が達しない場合であっても、総合工学科の総入学者数として定員に達することを優先してきた状況にある。</p> <p>但し、令和7年度以降は、高度情報人材の育成に資する入学者数を確保するため、情報工学コースとしての募集人員95名で定員管理を行う予定である。</p>	
<p>⑤高校生へのアンケートを用いた志願者数及び受験者数の考察</p> <p>本学科情報工学コースの定員増を行った場合の募集人員95名に対する充足見込みを考察するため、直近5年間(令和2～6年度)の入試において、本学科情報工学コースへの志願者数が上位である三重県内12高校に、理系コースの2年生及び3年生を</p>	<p>(追加)</p>

対象としたアンケートの実施を依頼し、承諾を得た 11 高校を対象に実施した（参考資料 4-1～4-5）。

実施したアンケート調査実施校と学年ごとの回答者数は表 1 のとおりであり、学年別では、2 年生は J、K 高校を除く 9 校、3 年生は F、G、H、I 高校を除く 7 校の生徒からアンケートの回答があった。

直近 5 年間の情報工学コース志願者数 1,328 名のうち、アンケートの回答があった高校の志願者数及び全体に占める割合を学年別に表 2-1～2-2 に示す。2 年生から回答のあった 9 校出身の志願者数は 336 名（25.3%）（表 2-1）、3 年生から回答のあった 7 校出身の志願者数は 244 名（18.4%）であった（表 2-2）。

表 1：アンケート調査実施校と学年ごとの回答者数

高校名	2 年生	3 年生
A 高校	167	156
B 高校	231	221
C 高校	273	194
D 高校	44	48
E 高校	157	152
F 高校	112	
G 高校	212	
H 高校	169	
I 高校	120	
J 高校		95
K 高校		205

表 2-1：2 年生から回答があった 9 校出身の志願者数と占める割合（直近 5 年間）

	志願者数
情報工学コース 全体	1,328
(内訳)	
A高校	43
B高校	44
C高校	36
D高校	25
E高校	32
F高校	51
G高校	55
H高校	27
I高校	23

336
25.3%

表2-2：3年生から回答があった7校出身
の志願者数と占める割合（直近5
年間）

	志願者数
情報工学コース 全体	1,328
(内訳)	
A高校	43
B高校	44
C高校	36
D高校	25
E高校	32
J高校	37
K高校	27

244
18.4%

アンケート回答者の回答結果を表3～表
10に示す。

また、アンケートの回答があった各高校
の学年別理系コースの人数を表11に示す。

表3：アンケート回答者のうち、回答者の所属コースについての回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
理系コース	1,221	874	2,095	82.0%
文系コース	215	177	392	15.3%
まだ決まっていない	49	20	69	2.7%

表4：問1.「進学を希望する大学の所在地はどこですか。あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
①三重県内	378	280	658	25.7%
②東海地方 (三重県以外)	296	230	526	20.6%
③近畿地方	273	183	456	17.8%
④所在地はわからない	538	378	916	35.8%

表5：問2.「どのような学問に興味がありますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
①工学系	645	429	1,074	32.0%
②理学系	334	201	535	15.9%
③農学系	162	135	297	8.8%
④医学・歯学・薬学系	503	308	811	24.2%
⑤その他	356	285	641	19.1%

表6：問3.「工学系の中ではどのような分野に興味がありますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
①情報工学	493	351	844	26.2%
②機械工学	353	218	571	17.7%
③電気電子工学	276	199	475	14.7%
④化学	385	305	690	21.4%
⑤建築学	389	255	644	20.0%
⑥その他	238	191	429	13.3%

表7：問4.「三重大学工学部情報工学コースの募集人員が増員する場合、受験を希望しますか。あてはまる項目一

つに○をつけてください。」に対する 回答結果				
項目	2年生	3年生	合計	割合
①受験 したい と思う	79	38	117	4.6%
②条件 が合え ば受験 したい	516	304	820	32.1%
③受験 したい とは思 わない	890	729	1,619	63.3%

表8：問4.「三重大学工学部情報工学コースの募集人員が増員する場合、受験を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果（理系コースの生徒のみ）

項目	2年生	3年生	合計	割合
①受験 したい と思う	73	38	111	5.3%
②条件 が合え ば受験 したい	446	285	731	34.9%
③受験 したい とは思 わない	702	551	1,253	59.8%

表9：問5.「三重大学工学部情報工学コースに合格したら、入学を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけ

てください。」に対する回答結果				
項目	2年生	3年生	合計	割合
①入学 したい と思う ／とて も興味 がある	536	325	861	33.7%
②入学 したい とは思 わない	949	746	1,695	66.3%

表 10：問 5. 「三重大学工学部情報工学コースに合格したら、入学を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果（理系コースの生徒のみ）

項目	2年生	3年生	合計	割合
①入学 したい と思う ／とて も興味 がある	474	296	770	36.8%
②入学 したい とは思 わない	747	578	1,325	63.2%

表 11：アンケートの回答があった各高校における学年別の理系コースの人数

高校名	2年生	3年生
A高校	166	171
B高校	222	208
C高校	100	120
D高校	161	166
E高校	168	168
F高校	140	
G高校	240	
H高校	176	
I高校	172	
J高校		150
K高校		230
合計	1,545	1,213

今回のアンケート調査の回答者のうち、「理系コース」と回答した生徒数は、2,095名（2年生1,221名、3年生874名）であり、回答者全体の82%であった（表3）。

また、問1で進学を希望する大学の所在地を三重県内と回答した生徒は658名（25.7%）であった（表4）。

次に問2で工学系に興味を持っていると回答した生徒は1,074名（32.0%）となり（表5）、問3で工学系の中で情報工学の分野に興味を持っていると回答した生徒は844名（26.2%）と、今回アンケートを回答した生徒の中では、本学の工学系の専門分野の中で、情報工学に興味を持つ生徒の数が最も多いことが明らかとなった（表6）。

さらに問5において、本学科情報工学コースに「①入学したいと思う／とても興味がある」と回答した生徒の数は2年生536名、3年生325名（表9）であり、工学部を受験する可能性の高い理系コースの生徒のみを対象とした場合でも、2年生474名、3年生296名（表10）と、アンケートを実

施した三重県内の 11 高校だけでも募集人員（95 名）の 3 倍以上の生徒が入学を希望していることが明らかとなった。

しかしながら、上記で入学を希望すると回答した生徒のうち、諸々の事情により、実際には入学しない生徒も存在することになると考えられる。

よって、次のように見込まれる志願者数（見込志願者数）、見込まれる受験者数（見込受験者数）の算出を行った。

具体的に受験の可能性について質問した問 4 において、理系コースを選択した生徒のみを抽出したのが（表 8）である。その際に「①受験したいと思う」又は「②条件が合えば受験したい」と回答した生徒数は、それぞれ次のとおりであった。

- ・「①受験したいと思う」の回答数
2 年生 73 名 3 年生 38 名
- ・「②条件が合えば受験したい」の回答数
2 年生 446 名 3 年生 285 名

これらの回答者のうちには、諸々の事情により実際には本コースを受験しない者もいると思われるため、「①受験したいと思う」と回答した生徒の 90%、「②条件が合えば受験したい」と回答した生徒の 10%が志願すると仮定したときに見込まれる志願者数を算出する。

- ・「①受験したいと思う」に 90%、「②条件が合えば受験したい」に 10%を乗じた数
2 年生 $(73 \text{ 名} \times 90\%) + (446 \text{ 名} \times 10\%) = 65.7 \text{ 名} + 44.6 \text{ 名} \doteq 110 \text{ 名}$
3 年生 $(38 \text{ 名} \times 90\%) + (285 \text{ 名} \times 10\%) = 34.2 \text{ 名} + 28.5 \text{ 名} \doteq 63 \text{ 名}$

理系コースのアンケート回答者数（表 3 より 2 年生 1,221 名、3 年生 874 名）のうち、上記の数が占める割合は、2 年生 9.01%（110 名 / 1,221 名）、3 年生 7.21%（63 名 / 874 名）となる。

この割合をもとに、アンケートの回答があった高校（2 年生は 9 校、3 年生は 7 校）において見込志願者数を算出するため、アンケートの回答があった各高校の学年ごとの理系コース人数の合計（表 11 より 2 年生 1,545 名、3 年生 1,213 名）に乗じると、次のとおりとなる。

・各学年においてアンケート回答校（2 年生 9 校、3 年生 7 校）見込志願者数

2 年生 $1,545 \text{ 名} \times 9.01\% \doteq 139 \text{ 名}$

3 年生 $1,213 \text{ 名} \times 7.21\% \doteq 87 \text{ 名}$

また、冒頭で述べた通り、直近 5 年間の情報工学コース志願者数のうち、アンケートの回答があった高校出身の志願者が全体に占める割合は、2 年生が 25.3%、3 年生が 18.4%であることから、全体の見込志願者数は以下のとおり算出される。

・全体の見込志願者数

2 年生 $139 \text{ 名} \times (1/0.253) \doteq 549 \text{ 名}$

3 年生 $87 \text{ 名} \times (1/0.184) \doteq 473 \text{ 名}$

次に、上記で求めた全体の見込志願者数をもとに、全体の見込受験者数を求める。全体の見込志願者数に対して、情報工学コースの過去 5 年間の平均受験率 63%（参考

<p>資料 1 より 168/266) を乗じる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 全体の見込受験者数<ul style="list-style-type: none">2 年生 549 名×63% ≒ 346 名3 年生 473 名×63% ≒ 298 名 <p>これらのことから、募集人員 (95 名) に対して志願者数は 5 倍程度、受験者数は 3 倍程度が見込まれる。</p> <p>情報工学コースの過去 5 年間の志願者数及び受験者数の実績に加えて、上記で求めた 3 年生及び 2 年生の全体の見込志願者数、見込受験者数を令和 7 年度、令和 8 年度の推定数としてグラフで表した (参考資料 5)。このグラフからも令和 7 年度及び令和 8 年度について、募集人員 (95 名) に対して十分な学生確保の見込みがあるといえる。</p> <p>さらに、年度によっては志願者数が下振れとなる場合が想定されるため、下振れがあった場合の志願者数、受験者数について考察する。</p> <p>情報工学コースの過去 5 年平均の志願者数及び受験者数は以下のとおり (参考資料 1)。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 志願者数 266 名・ 受験者数 168 名 <p>過去 5 年のうち最も低い値については以下のとおり (参考資料 1)。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 志願者数 196 名 (令和 5 年度)・ 受験者数 120 名 (令和 5 年度)	
--	--

この値より、過去5年間で最も下振れとなった場合の係数は以下のとおりとなる。

- ・志願者数 $196/266 \approx 73.7\%$
- ・受験者数 $120/168 \approx 71.4\%$

最も下振れの場合の係数を、見込まれる全体的見込志願者数及び見込受験者数に乗じると以下のとおりとなる。

- ・全体的見込志願者数（下振れの場合）
 - 2年生 $549 \text{名} \times 73.7\% \approx 405 \text{名}$
 - 3年生 $473 \text{名} \times 73.7\% \approx 349 \text{名}$
- ・全体的見込受験者数（下振れの場合）
 - 2年生 $346 \text{名} \times 71.4\% \approx 247 \text{名}$
 - 3年生 $298 \text{名} \times 71.4\% \approx 213 \text{名}$

これらのことから、下振れした場合でも、募集人員（95名）に対して志願者数は3倍程度、受験者数は2倍程度が見込まれ、直近5年間での最低受験倍率（令和5年度：2倍）を上回る。

以上のことから、適切な選抜を実施した上で、募集人員を十分に確保できると考えられる。

三重大学 学部の入学定員充足の状況

学部等名	項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
人文学部 (合計)	入学定員充足率	1.04	1.03	1.02	1.05	1.05	1.06
	入学者数	254	253	251	258	258	261
	入学定員	245	245	245	245	245	245
文化学科	入学定員充足率	1.07	1.06	1.04	1.03	1.02	1.05
	入学者数	98	98	96	95	94	97
	入学定員	92	92	92	92	92	92
法律経済学科	入学定員充足率	1.02	1.01	1.01	1.06	1.07	1.07
	入学者数	156	155	155	163	164	164
	入学定員	153	153	153	153	153	153
教育学部 (合計)	入学定員充足率	1.03	1.02	1.00	1.00	1.02	1.04
	入学者数	206	205	200	200	205	208
	入学定員	200	200	200	200	200	200
学校教育教員養成課程	入学定員充足率	1.03	1.02	1.00	1.00	1.02	1.04
	入学者数	206	205	200	200	205	208
	入学定員	200	200	200	200	200	200
医学部 (合計)	入学定員充足率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	入学者数	205	205	205	205	205	205
	入学定員	205	205	205	205	205	205
医学科	入学定員充足率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	入学者数	125	125	125	125	125	125
	入学定員	125	125	125	125	125	125
看護学科	入学定員充足率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	入学者数	80	80	80	80	80	80
	入学定員	80	80	80	80	80	80
工学部 (合計)	入学定員充足率	1.03	1.03	1.00	1.00	1.01	1.01
	入学者数	411	412	400	400	404	407
	入学定員	400	400	400	400	400	400
総合工学科	入学定員充足率	1.03	1.03	1.00	1.00	1.01	1.01
	入学者数	411	412	400	400	404	407
	入学定員	400	400	400	400	400	400
生物資源学部 (合計)	入学定員充足率	1.06	1.05	1.04	1.04	1.02	1.06
	入学者数	275	273	272	272	267	278
	入学定員	260	260	260	260	260	260
生物資源学科	入学定員充足率	1.06					
	入学者数	275					
	入学定員	260					
資源循環学科 ※令和6年度学生募集停止	入学定員充足率		1.07	1.05	1.07	1.02	1.05
	入学者数		75	74	75	72	74
	入学定員		70	70	70	70	70
共生環境学科 ※令和6年度学生募集停止	入学定員充足率		1.01	1.05	1.02	1.04	1.11
	入学者数		71	74	72	73	78
	入学定員		70	70	70	70	70
生物圏生命化学科 ※令和6年度学生募集停止	入学定員充足率		1.05	1.03	1.03	1.01	1.06
	入学者数		84	83	83	81	85
	入学定員		80	80	80	80	80
海洋生物資源学科 ※令和6年度学生募集停止	入学定員充足率		1.07	1.02	1.05	1.02	1.02
	入学者数		43	41	42	41	41
	入学定員		40	40	40	40	40

工学部総合工学科 入試実施状況

工学部総合工学科（入学定員400名）

全国

入試年度	志願者数 (志願倍率)	受験者数 (受験倍率)	合格者数	入学者数
R2	1,628 (4.07)	1,157 (2.89)	443	404
R3	1,666 (4.17)	1,225 (3.06)	449	400
R4	1,670 (4.18)	1,158 (2.89)	443	400
R5	1,741 (4.35)	1,103 (2.76)	451	412
R6	1,687 (4.22)	1,268 (3.17)	450	411
5年平均	1,678 (4.20)	1,182 (2.96)	447	405

三重県内

入試年度	志願者数 (対全国比)	受験者数 (対全国比)	合格者数 (対全国比)	入学者数 (対全国比)
R2	564 (34.6%)	428 (37.0%)	152 (34.3%)	143 (35.4%)
R3	540 (32.4%)	395 (32.2%)	143 (31.8%)	132 (33.0%)
R4	569 (34.1%)	405 (35.0%)	149 (33.6%)	141 (35.3%)
R5	537 (30.8%)	376 (34.1%)	163 (36.1%)	159 (38.6%)
R6	604 (35.8%)	455 (35.9%)	155 (34.4%)	146 (35.5%)
5年平均	563 (33.6%)	412 (34.9%)	152 (34.0%)	144 (35.6%)

東海（愛知+三重+岐阜+静岡）

入試年度	志願者数 (対全国比)	受験者数 (対全国比)	合格者数 (対全国比)	入学者数 (対全国比)
R2	1,170 (71.9%)	845 (73.0%)	322 (72.7%)	305 (75.5%)
R3	1,231 (73.9%)	912 (74.4%)	324 (72.2%)	303 (75.8%)
R4	1,202 (72.0%)	846 (73.1%)	322 (72.7%)	304 (76.0%)
R5	1,293 (74.3%)	833 (75.5%)	322 (71.4%)	319 (77.4%)
R6	1,283 (76.1%)	972 (76.7%)	336 (74.7%)	313 (76.2%)
5年平均	1,236 (73.7%)	882 (74.6%)	325 (72.7%)	309 (76.3%)

東海+近畿（大阪+京都+兵庫+滋賀+奈良+和歌山）

入試年度	志願者数 (対全国比)	受験者数 (対全国比)	合格者数 (対全国比)	入学者数 (対全国比)
R2	1,494 (91.8%)	1,072 (92.7%)	411 (92.8%)	376 (93.1%)
R3	1,551 (93.1%)	1,140 (93.1%)	415 (92.4%)	374 (93.5%)
R4	1,558 (93.3%)	1,085 (93.7%)	420 (94.8%)	383 (95.8%)
R5	1,624 (93.3%)	1,031 (93.5%)	408 (90.5%)	387 (93.9%)
R6	1,593 (94.4%)	1,199 (94.6%)	427 (94.9%)	391 (95.1%)
5年平均	1,564 (93.2%)	1,105 (93.5%)	416 (93.1%)	382 (94.3%)

※志願倍率は小数点第3位以下を四捨五入
 ※対全国比は小数点第3位以下を四捨五入
 ※5年平均は小数点第1位以下を四捨五入

工学部総合工学科 情報工学コース（募集人員60名）

全国

入試年度	志願者数 (志願倍率)	受験者数 (受験倍率)	合格者数	入学者数
R2	271 (4.52)	175 (2.92)	69	58
R3	235 (3.92)	151 (2.52)	69	59
R4	373 (6.22)	223 (3.72)	69	58
R5	196 (3.27)	120 (2.00)	69	62
R6	253 (4.22)	173 (2.88)	71	63
5年平均	266 (4.43)	168 (2.80)	69	60

三重県内

入試年度	志願者数 (対全国比)	受験者数 (対全国比)	合格者数 (対全国比)	入学者数 (対全国比)
R2	111 (41.0%)	75 (42.9%)	26 (37.7%)	23 (39.7%)
R3	96 (40.9%)	64 (42.4%)	28 (40.6%)	27 (45.8%)
R4	140 (37.5%)	89 (39.9%)	29 (42.0%)	27 (46.6%)
R5	80 (40.8%)	54 (45.0%)	31 (44.9%)	30 (48.4%)
R6	108 (42.7%)	75 (43.4%)	27 (38.0%)	25 (39.7%)
5年平均	107 (40.2%)	71 (42.3%)	28 (40.6%)	26 (43.3%)

東海（愛知+三重+岐阜+静岡）

入試年度	志願者数 (対全国比)	受験者数 (対全国比)	合格者数 (対全国比)	入学者数 (対全国比)
R2	188 (69.4%)	117 (66.9%)	49 (71.0%)	44 (75.9%)
R3	177 (75.3%)	109 (72.2%)	52 (75.4%)	47 (79.7%)
R4	270 (72.4%)	155 (69.5%)	46 (66.7%)	42 (72.4%)
R5	130 (66.3%)	85 (70.8%)	49 (71.0%)	48 (77.4%)
R6	198 (78.3%)	138 (79.8%)	49 (69.0%)	45 (71.4%)
5年平均	193 (72.6%)	121 (72.0%)	49 (71.0%)	45 (75.3%)

東海+近畿（大阪+京都+兵庫+滋賀+奈良+和歌山）

入試年度	志願者数 (対全国比)	受験者数 (対全国比)	合格者数 (対全国比)	入学者数 (対全国比)
R2	242 (89.3%)	154 (88.0%)	63 (91.3%)	55 (94.8%)
R3	222 (94.5%)	142 (94.0%)	65 (94.2%)	56 (94.9%)
R4	350 (93.8%)	210 (94.2%)	64 (92.8%)	55 (94.8%)
R5	179 (91.3%)	109 (90.8%)	65 (94.2%)	61 (98.4%)
R6	237 (93.7%)	160 (92.5%)	65 (91.5%)	57 (90.5%)
5年平均	246 (92.5%)	155 (92.3%)	64 (92.8%)	57 (95.0%)

工学部総合工学科情報工学コース 直近5年の入試統計

工学部総合工学科 情報工学コース 一般選抜		令和6年度							令和5年度							令和4年度							令和3年度							令和2年度							直近5年合計						
		募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者
前日程	情報工学コース 全体	25	89	3.56	86	96.6%	35	33	25	96	2.24	51	91.1%	34	33	25	108	4.32	100	92.6%	33	32	25	71	2.84	67	94.4%	25	25	25	80	3.20	78	97.5%	25	23	404	382	94.6%	152	146		
	うち、アンケート対象11校	-	30	1.20	29	96.7%	8	8	-	16	0.64	15	93.8%	11	11	-	45	1.88	41	91.1%	15	14	-	24	0.96	21	87.5%	7	7	-	34	1.40	34	100.0%	9	9	149	140	94.0%	50	49		
後日程	情報工学コース 全体	30	147	4.90	72	49.0%	30	24	30	126	4.20	56	44.4%	30	24	30	247	8.23	112	45.3%	30	21	30	141	4.70	70	49.6%	37	28	30	167	5.57	82	49.1%	37	30	828	392	47.3%	164	127		
	うち、アンケート対象11校	-	47	1.63	27	57.4%	10	9	-	27	0.90	12	44.4%	8	8	-	60	2.13	28	46.7%	8	7	-	39	1.33	22	56.4%	14	12	-	48	1.60	24	50.0%	9	8	221	113	51.1%	49	44		
総合型選抜	情報工学コース 全体	5	12	2.40	10	83.3%	5	5	5	11	2.20	10	90.9%	5	5	5	17	3.40	10	58.8%	5	5	5	19	3.80	10	52.6%	5	5	5	19	3.80	10	52.6%	5	5	76	50	65.8%	25	25		
	うち、アンケート対象11校	-	3	-	1	33.3%	1	1	-	5	-	5	100.0%	2	2	-	10	-	6	60.0%	4	4	-	6	-	5	83.3%	2	2	-	6	-	3	50.0%	1	1	30	20	66.7%	10	10		

【参考】

総合工学科全コース 一般選抜		令和6年度							令和5年度							令和4年度							令和3年度							令和2年度							直近5年合計						
		募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者	募集人員	入学志願者	志願倍率	受験者数	受験率	合格者	入学者
前日程	総合工学科 合計	222	813	3.66	785	96.6%	259	248	222	529	2.38	506	95.7%	260	247	222	729	3.28	702	96.3%	247	240	222	827	3.73	781	94.4%	244	227	222	688	3.10	655	95.2%	241	233	3,586	3,429	95.6%	1,251	1,195		
	機械工学コース	45	195	4.33	189	96.9%	51	47	45	92	2.04	87	94.6%	55	49	45	144	3.20	137	95.1%	46	45	45	101	2.24	94	93.1%	49	44	45	133	2.96	122	91.7%	48	46	665	629	94.6%	249	231		
	電気電子工学コース	42	98	2.33	95	96.9%	48	48	42	146	3.48	143	97.9%	46	44	42	114	2.71	111	97.4%	43	42	42	98	2.33	97	99.0%	43	41	42	135	3.21	127	94.1%	42	39	591	573	97.0%	222	214		
	応用化学コース	40	172	4.30	164	95.3%	53	49	40	79	1.98	75	94.9%	52	50	40	117	2.93	114	97.4%	53	50	40	179	4.48	169	94.4%	53	47	40	128	3.20	124	96.9%	53	52	675	646	95.7%	264	248		
	建築学コース	30	123	4.10	120	97.6%	32	32	30	65	2.17	64	98.5%	32	32	30	118	3.93	113	95.8%	32	32	30	104	3.47	98	94.2%	31	31	30	111	3.70	107	96.4%	33	33	521	502	96.4%	160	160		
	情報工学コース	25	89	3.56	86	96.6%	35	33	25	56	2.24	51	91.1%	34	33	25	108	4.32	100	92.6%	33	32	25	71	2.84	67	94.4%	25	25	25	80	3.20	78	97.5%	25	23	404	382	94.6%	152	146		
総合工学コース	40	136	3.40	131	96.3%	40	39	40	91	2.28	86	94.5%	41	39	40	128	3.20	127	99.2%	40	39	40	274	6.85	256	93.4%	43	39	40	101	2.53	97	96.0%	40	40	730	697	95.5%	204	196			
後日程	総合工学科 合計	130	728	5.60	351	48.2%	138	112	130	1,113	8.56	504	45.3%	139	116	130	822	6.32	350	42.6%	138	107	130	684	5.26	302	44.2%	141	115	130	799	6.15	375	46.9%	140	112	4,146	1,882	45.4%	696	562		
	機械工学コース	15	176	11.73	68	38.6%	22	16	15	117	7.80	57	48.7%	22	18	15	165	11.00	74	44.8%	20	17	15	64	4.27	27	42.2%	16	15	15	113	7.53	53	46.9%	15	11	635	279	43.9%	95	77		
	電気電子工学コース	35	142	4.06	73	51.4%	35	30	35	515	14.71	239	46.4%	35	29	35	130	3.71	58	44.6%	37	29	35	220	6.29	89	40.5%	36	31	35	177	5.06	85	48.0%	35	28	1,184	544	45.9%	178	147		
	応用化学コース	40	217	5.43	121	55.8%	41	33	40	253	6.33	109	43.1%	42	36	40	232	5.80	88	37.9%	41	31	40	193	4.83	83	43.0%	41	33	40	303	7.58	137	45.2%	43	34	1,198	538	44.9%	208	167		
	建築学コース	10	46	4.60	17	37.0%	10	9	10	102	10.20	43	42.2%	10	9	10	48	4.80	18	37.5%	10	9	10	66	6.60	33	50.0%	11	8	10	39	3.90	18	46.2%	10	9	301	129	42.9%	51	44		
	情報工学コース	30	147	4.90	72	49.0%	30	24	30	126	4.20	56	44.4%	30	24	30	247	8.23	112	45.3%	30	21	30	141	4.70	70	49.6%	37	28	30	167	5.57	82	49.1%	37	30	828	392	47.3%	164	127		

三重大学工学部情報工学コースの定員増に関するアンケート調査

三重大学工学部では、情報工学の教育を拡充・強化して、将来的により多くの高度情報人材を育成することを目的として、令和7年度の工学部総合工学科情報工学コースの募集人員を30名増員することを計画しています。

このアンケート調査は、工学部に対する関心の内容やその程度等についてお聞きし、検討上の基礎資料とするものです。なお、このアンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。

アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

学校名 _____ 高等学校 _____ 学年 _____ 年生 _____

次の各項目に○を振ってください。

性別 ・男性 ・女性 ・未回答

所属コース ・理系コース ・文系コース ・まだ決まっていない

問1 進学を希望する大学の所在地はどこですか。あてはまる項目一つに○をつけてください。

- ①三重県内 ②東海地方(三重県以外) ③近畿地方 ④所在地にはこだわらない

問2 どのような学問に興味がありますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。

- ①工学系 ②理学系 ③農学系 ④医学・歯学・薬学系 ⑤その他

問3 工学系の中ではどのような分野に興味がありますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。

- ①情報工学 ②機械工学 ③電気電子工学 ④化学 ⑤建築学 ⑥その他

問4 三重大学 工学部 情報工学コースの募集人員が増員する場合、受験を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。

- ①受験したいと思う ②条件が合えば受験したい ③受験したいとは思わない

問5 三重大学 工学部 情報工学コースに合格したら、入学を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。

- ①入学したいと思う/とても興味がある ②入学したいとは思わない

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

三重県内11校を対象としたアンケート結果

1：アンケート調査実施校と学年ごとの回答者数

高校名	2年生	3年生
A高校	167	156
B高校	231	221
C高校	273	194
D高校	44	48
E高校	157	152
F高校	112	
G高校	212	
H高校	169	
I高校	120	
J高校		95
K高校		205

2-1：2年生から回答があった9校出身の志願者数と占める割合（直近5年間）

	志願者数	
情報工学コース全体	1,328	
(内訳)		
A高校	43	} 336 25.3%
B高校	44	
C高校	36	
D高校	25	
E高校	32	
F高校	51	
G高校	55	
H高校	27	
I高校	23	

2-2：3年生から回答があった7校出身の志願者数と占める割合（直近5年間）

	志願者数	
情報工学コース全体	1,328	
(内訳)		
A高校	43	} 244 18.4%
B高校	44	
C高校	36	
D高校	25	
E高校	32	
J高校	37	
K高校	27	

3：アンケート回答者のうち、回答者の所属コースについての回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
理系コース	1,221	874	2,095	82.0%
文系コース	215	177	392	15.3%
まだ決まっていない	49	20	69	2.7%

4：問 1「進学を希望する大学の所在地はどこですか。
あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
①三重県内	378	280	658	25.7%
②東海地方（三重県以外）	296	230	526	20.6%
③近畿地方	273	183	456	17.8%
④所在地はこだわらない	538	378	916	35.8%

5：問 2「どのような学問に興味がありますか。
あてはまる項目すべてに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
①工学系	645	429	1,074	32.0%
②理学系	334	201	535	15.9%
③農学系	162	135	297	8.8%
④医学・歯学・薬学系	503	308	811	24.2%
⑤その他	356	285	641	19.1%

6：問 3「工学系の中ではどのような分野に興味がありますか。
あてはまる項目すべてに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
①情報工学	493	351	844	26.2%
②機械工学	353	218	571	17.7%
③電気電子工学	276	199	475	14.7%
④化学	385	305	690	21.4%
⑤建築学	389	255	644	20.0%
⑥その他	238	191	429	13.3%

7：問 4「三重大学 工学部 情報工学コースの募集人員が増員する場合、受験を希望しますか。
あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
①受験したいと思う	79	38	117	4.6%
②条件が合えば受験したい	516	304	820	32.1%
③受験したいとは思わない	890	729	1,619	63.3%

8：問 4「三重大学 工学部 情報工学コースの募集人員が増員する場合、
受験を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。」
に対する回答結果（理系コースの生徒のみ）

項目	2年生	3年生	合計	割合
①受験したいと思う	73	38	111	5.3%
②条件が合えば受験したい	446	285	731	34.9%
③受験したいとは思わない	702	551	1,253	59.8%

9：問5「三重大学 工学部 情報工学コースに合格したら、入学を希望しますか。
あてはまる項目一つに○をつけてください。」に対する回答結果

項目	2年生	3年生	合計	割合
①入学したいと思う／とても興味がある	536	325	861	33.7%
②入学したいとは思わない	949	746	1,695	66.3%

10：問5「三重大学 工学部 情報工学コースに合格したら、入学を希望しますか。あてはまる項目一つに○をつけてください。」
に対する回答結果（理系コースの生徒のみ）

項目	2年生	3年生	合計	割合
①入学したいと思う／とても興味がある	474	296	770	36.8%
②入学したいとは思わない	747	578	1,325	63.2%

11：アンケートの回答があった各高校における学年別の理系コースの人数

高校名	2年生	3年生
A高校	166	171
B高校	222	208
C高校	100	120
D高校	161	166
E高校	168	168
F高校	140	
G高校	240	
H高校	176	
I高校	172	
J高校		150
K高校		230
合計	1,545	1,213